

文 学 部

履 修 要 項

昭 和 59 年 度

駒 澤 大 學

学 年 曆

前 期

- 4月8日(日) 入学式(学部・短大)
积尊降誕会
- 9日(月) } 新入生オリエンテーション
- 12日(木) }
- 12日(木) } 在校生成績発表(学部・短大)
- 13日(金) }
- 14日(土) 授業開始
- 12日(木) } 在校生成績質疑応答
- 17日(火) }
- 20日(金) } 1年次生単位履修届受付
- 21日(土) }
- 23日(月) } 2・3・4年次生単位履修届受付
(学部により受付日が異なる)
- 28日(土) }
- 29日(日) 天皇誕生日
- 5月1日(火) 祝禱日
- 3日(木) 憲法記念日
- 4日(金) 研修日(全学休業)
- 5日(土) こどもの日
- 14日(月) }
- 23日(水) } 2・3・4年次生健康診断
- 6月1日(金) 祝禱日
- 11日(月) 卒業論文論題提出締切(正午)
- 7月1日(日) 祝禱日
- 9日(月) }
- 14日(土) } 中間試験(授業平常通り)
- 15日(日) 盂蘭盆会
- 16日(月) } 前期定期試験(前期終了科目)
- 17日(火) } (授業休講)
- 18日(水) 夏季休暇第1日

後 期

- 9月10日(月) 授業再開
- 12日(水) 前期定期試験欠試届(追試申込)
提出締切
- 13日(木) } 外国語指定届受付(仏教・文(除英
米文)・法学部・短大国文・英文の
1年次生及び経済学部の2年次生)
- 20日(木) }
- 15日(土) 敬老の日
- 17日(月) } 前期定期試験成績発表および再試験
申込受付
- 18日(火) }
- 23日(日) 秋分の日
- 26日(水) }
- 28日(金) } 前期追・再試験(授業平常通り)

- 29日(土) 両祖(道元・瑩山禪師)忌
- 10月1日(月) 祝禱日
- 2日(火) }
- 5日(金) } 1年次生健康診断
- 5日(金) } 達磨忌
- 4日(木) } 歴史・社会学科(1年次生)専攻コ
ース指定届受付
- 5日(金) }
- 10日(水) 体育の日
- 11日(木) }
- 12日(金) } 前期追・再試験成績発表
- 15日(月) 第102回開校記念日
- 11月1日(木) 祝禱日
- 3日(土) 文化の日
- 14日(水) }
- 16日(金) } 転部科試験願書受付
- 21日(水) 太祖(瑩山禪師)降誕会
- 23日(金) 勤労感謝の日
- 30日(金) 転部科試験
- 12月1日(土) 祝禱日
- 5日(水) }
- 13日(木) } 編入学願書受付
- 8日(土) 成道会
- 10日(月) 卒業論文提出締切(正午)
- 18日(火) 冬季休暇第1日
- 19日(水) 編入学試験

昭和60年

- 1月8日(火) 授業再開
- 15日(火) 成人の日
- 16日(水) }
- 26日(土) } 定期試験(専門・基礎・教職科目)
- 26日(土) 高祖(道元禪師)降誕会
- 28日(月) }
- 2月5日(火) } 定期試験(一般・外国語・保健体育
科目)
- 2月1日(金) 祝禱日
- 7日(木) } 定期試験欠試届提出締切
卒業論文口頭試問
- 11日(月) 建国記念の日
- 15日(金) 涅槃会
- 20日(水) }
- 21日(木) } 学部4年次生・短大生成績発表およ
び追・再試験申込受付
- 27日(水) }
- 3月5日(火) } 学部4年次生・短大生追・再試験,
学部1・2・3年次生追試験
- 3月1日(金) 祝禱日
- 19日(火) 卒業生名簿発表
- 21日(木) 春分の日
- 25日(月) 卒業式

目 次

I	単位制と学年制	(2)
1.	単位制と学年制	(2)
2.	授業科目の単位計算	(2)
3.	授業科目の区分	(2)
II	卒業に必要な単位数と卒業論文	(3)
1.	卒業に必要な単位数	(3)
2.	卒業論文	(9)
3.	学 士 号	(9)
III	授業科目の履修方法	(10)
1.	一般教育科目の履修方法	(10)
2.	外国語科目の履修方法	(12)
3.	保健体育科目の履修方法	(15)
4.	基礎教育科目の履修方法	(17)
5.	専門教育科目の履修方法	(17)
6.	随意科目の履修方法	(42)
7.	再履修科目の履修方法	(42)
	※コード番号について	(43)
IV	履修科目の登録(履修届)とその作成順序	(45)
1.	履修科目の登録	(45)
2.	履修届記入上の注意	(46)
3.	履修届の作成順序	(47)
V	試験および成績評価	(49)
1.	定期試験	(49)
2.	中間試験	(49)
3.	追・再試験	(49)
4.	成績評価・単位認定	(50)
5.	進級基準	(50)
6.	受験者心得	(50)
VI	クラス制およびクラス主任	(52)
VII	教職課程・資格講座	(52)
VIII	事務取り扱いについて	(53)
IX	届書・願書について	(54)
X	各種証明書取扱い窓口	(55)
	講 義 内 容	(57)

I 単位制と学年制

1. 単位制と学年制

授業科目の履修は「大学設置基準」に基づく単位制によって行う。単位制とは、各入学年度によって定められた一定の基準にしたがって授業科目を履修し、試験に合格することによってその授業科目に与えられている単位を修得していく制度である。卒業所要単位を修得するまでの在学期間は4カ年以上（7カ年をこえてはならない）である。

また、単位の修得を体系的かつ合理的に進めるために、各年次において必修すべき科目と選択すべき科目が配当されている。

2. 授業科目の単位計算

授業科目の単位数は次のような基準によって定められている。

1単位とは1科目につき45時間を通じて行う学修活動のことである。この45時間の学修活動は教室内における授業時間と教室外で学生各自が自主的に行う自習時間からなっていて、授業時間と自習時間の割合は、授業科目によって異なっている。

3. 授業科目の区分

授業科目は次のように区分される。

1. 一般教育科目（人文分野・社会分野・自然分野）
2. 外国語科目（第1外国語・第2外国語）
3. 保健体育科目（講義・実技）
4. 基礎教育科目（必修科目）
5. 専門教育科目（必修科目・選択科目）
6. 随意科目（卒業に必要な単位に含まれない科目）

(a) 必修科目……必ず履修しなければならない科目

(b) 選択必修科目……数科目の中から所定の科目数または単位数を選び、必ず履修しなければならない科目

(c) 選択科目……自由に選び履修できる科目

Ⅱ 卒業に必要な単位数と卒業論文

1. 卒業に必要な単位数

国文学科

授 業 科 目 の 区 分		科 目 数	修 得 単 位	計	合 計
一般教育科目	人文分野	4	16	28	128以上
	社会分野	2	8		
	自然分野	1	4		
外国語科目	第1外国語	4	8	12	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講 義	1	2	4	
	実 技	1	2		
基 礎 教 育 科 目		3	12	12	
専門教育科目	必 修	12	36	72	
	選 択		28		
	卒業論文(必修)		8		

英米文学科

A. 58年度以降入学生適用

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	4	16	28	130以上
	社会分野	2	8		
	自然分野	1	4		
外国語科目	第1外国語	5	10	14	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	1	2		
基礎教育科目		5	12	12	
専門教育科目	必修	7	28	72	
	選択		36		
	卒業論文(必修)		8		

B. 57年度以前入学生適用

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	4	16	28	130以上
	社会分野	2	8		
	自然分野	1	4		
外国語科目	第1外国語	5	10	14	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	1	2		
基礎教育科目		5	12	12	
専門教育科目	必修	6	24	72	
	選択		40		
	卒業論文(必修)		8		

地理学科

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	3	12	32	128以上
	社会分野	3	12		
	自然分野	2	8		
外国語科目	第1外国語	4	8	12	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	1	2		
基礎教育科目		2	8	8	
専門教育科目	必修	6	16	72	
	選択		48		
	卒業論文(必修)		8		

歴史学科

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	4	16	36	128以上
	社会分野	3	12		
	自然分野	2	8		
外国語科目	第1外国語	4	8	12	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	1	2		
基礎教育科目		1	4	4	
専門教育科目	必修	8	32	72	
	選択		32		
	卒業論文(必修)		8		

社会学科

社会学コース

A. 57年度以降入学生適用

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	3	12	32	132以上
	社会分野	3	12		
	自然分野	2	8		
外国語科目	第1外国語	4	8	12	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	1	2		
基礎教育科目		3	12	12	
専門教育科目	必修	12	48	72	
	選択		16		
	卒業論文(必修)		8		

B. 56年度以前入学生適用

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	3	12	32	132以上 (128)
	社会分野	3	12		
	自然分野	2	8		
外国語科目	第1外国語	4	8	12	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	1	2		
基礎教育科目		3(2)	12(8)	12(8)	
専門教育科目	必修	8	32	72	
	選択		32		
	卒業論文(必修)		8		

※ () 内の数字は昭和53年度以前入学生適用

社会福祉コース

A. 57年度以降入学生適用

授 業 科 目 の 区 分		科 目 数	修 得 単 位	計	合 計
一般教育科目	人文分野	3	12	32	132以上
	社会分野	3	12		
	自然分野	2	8		
外国語科目	第1外国語	4	8	12	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講 義	1	2	4	
	実 技	1	2		
基 礎 教 育 科 目		3	12	12	
専門教育科目	必 修	12	48	72	
	選 択		16		
	卒業論文(必修)		8		

B. 56年度以前入学生適用

授 業 科 目 の 区 分		科 目 数	修 得 単 位	計	合 計
一般教育科目	人文分野	3	12	32	132以上 (128)
	社会分野	3	12		
	自然分野	2	8		
外国語科目	第1外国語	4	8	12	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講 義	1	2	4	
	実 技	1	2		
基 礎 教 育 科 目		3(2)	12(8)	12(8)	
専門教育科目	必 修	9(10)	36(40)	72	
	選 択		28(24)		
	卒業論文(必修)		8		

※ () 内の数字は昭和53年度以前入学生適用。

心理学コース

A. 57年度以降入学生適用

授 業 科 目 の 区 分		科 目 数	修 得 単 位	計	合 計
一般教育科目	人文分野	3	12	32	132以上
	社会分野	3	12		
	自然分野	2	8		
外国語科目	第1外国語	4	8	12	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講 義	1	2	4	
	実 技	1	2		
基 礎 教 育 科 目		3	12	12	
専門教育科目	必 修	8	28	72	
	選 択		36		
	卒業論文(必修)		8		

B. 56年度以前入学生適用

授 業 科 目 の 区 分		科 目 数	修 得 単 位	計	合 計
一般教育科目	人文分野	3	12	32	132以上 (128)
	社会分野	3	12		
	自然分野	2	8		
外国語科目	第1外国語	4	8	12	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講 義	1	2	4	
	実 技	1	2		
基 礎 教 育 科 目		3(2)	12(8)	12(8)	
専門教育科目	必 修	11	38	72	
	選 択		26		
	卒業論文(必修)		8		

※ () 内の数字は昭和53年度以前入学生適用。

2. 卒業論文

イ. 4年次で卒業論文（1部）を提出し、その審査に合格しなければ卒業することができない。審査に合格した者には8単位を与える。

ロ. 論題提出

あらかじめ自己の研究目標をたて、2年次以降適当な選択科目を履修し、4年次において、（地理学科は3年次）学部所属の教員に自己の研究概要を述べ、指導教授を決定し、その承認を得て、指定の期日6月11日（月）までに卒業論文の論題を届け出なければならない。

ハ. 論文作成について

- (1) 論文作成にあたっては常に指導教授に相談して、その指導を受けなければならない。
- (2) 用紙は大学所定の論文用紙を使用すること。
- (3) 論文の枚数は別に指示する。
- (4) 表紙は指定のものを使用し、論文を二つ折りして右とじとする（英米文学科・地理学科を除く）。
- (5) 上記の規定以外のものは受付けない。

ニ. 論文提出

論文は、12月3日（月）から12月10日（月）正午までに教務部へ提出すること。

論文は、誤字、脱字、内容等について再点検し提出すること。

ホ. 論文の審査について

論文は指導教授（社会学科は他に定められた1名の指定教授）によって審査され、論文の内容について口頭試問を2月7日（木）に行ったのち合否を判定する。

3. 学 士 号

大学に4カ年以上（7カ年をこえてはならない）在学し、卒業に必要な単位を修得した者には卒業証書を授与し、次の称号が与えられる。

国文学科	}	文学士
英米文学科		
地理学科		
歴史学科		
社会学科		

Ⅲ 授業科目の履修方法

※ 北海道教養部では授業科目等に多少の変更を生ずる場合がある

- イ. 授業科目は、教授会の定めるところに従い各学年に配分する。ただし、随意科目はこの限りではない。
- ロ. 授業時間表の備考欄に番号が指定された科目は本人の学生番号のクラスで履修すること。（再履修または指定された学年で履修できなかった場合はこのかぎりではない）
- ハ. 各学年に配当された授業科目は、当該学年に限り履修することができる。ただし、下級学年に配当された授業科目を上級学年において履修することはさしつかえない。
- ニ. 各学年の履修科目数の最低及び最高限度は、教授会の定めるところによる。
- ホ. 一度単位の認定を受けた授業科目は、再度履修しても認定されない。

1. 一般教育科目の履修方法

- イ. 一般教育科目は1年次および2年次の2年間に人文分野・社会分野・自然分野の各分野から各学科の定められた科目数・単位数を履修しなければならない。
ただし、1年次において定められた科目数・単位数を履修できる学科もある。
- ロ. 各学科「宗教学Ⅰ」を1年次「宗教学Ⅱ」を2年次で必修とする。
- ハ. 各学科2年次までに所定の科目数・単位数を修得していなければならない。

一般教育科目の卒業所要単位数

学科	分野	人文分野	社会分野	自然分野	計
国文学科		16(4)	8(2)	4(1)	28(7)
英米文学科		16(4)	8(2)	4(1)	28(7)
地理学科		12(3)	12(3)	8(2)	32(8)
歴史学科		16(4)	12(3)	8(2)	36(9)
社会学科		12(3)	12(3)	8(2)	32(8)

※ () 内の数字は科目数

一般教育科目の授業科目

学科	人文分野			社会分野			自然分野		
	授業科目	単位	修得単位	授業科目	単位	修得単位	授業科目	単位	修得単位
国文学科	宗教学 I (1年次必修)	4	「宗教学 I・II」を含む16単位必修	法学憲法 (日本国憲法を含む) (2単位)	4	2科目 8単位の選択必修	自然科学概論	4	1科目 4単位の必修
	宗教学 II (2年次必修)	4		経済学	4		心理学	4	
	哲学	4		社会学	4		人類学	4	
	理学	4		地理学	4				
	歴史学 (日本・西洋)	4							
英米文学科	宗教学 I (1年次必修)	4	「宗教学 I・II」を含む16単位必修	法学憲法 (日本国憲法を含む) (2単位)	4	2科目 8単位の選択必修	自然科学概論	4	1科目 4単位の必修
	宗教学 II (2年次必修)	4		経済学	4		心理学	4	
	哲学	4		社会学	4		人類学	4	
	理学	4		地理学	4				
	歴史学 (日本・西洋)	4							
地理学科	宗教学 I (1年次必修)	4	「宗教学 I・II」を含む12単位必修	法学憲法 (日本国憲法を含む) (2単位)	4	3科目 12単位の選択必修	数学	4	2科目 8単位の必修
	宗教学 II (2年次必修)	4		経済学	4		物理学	4	
	哲学	4		社会学	4		化学	4	
	文学	4		文化人類学	4		生物学	4	
	芸術 (日本・西洋)	4							
歴史学科	宗教学 I (1年次必修)	4	「宗教学 I・II」を含む16単位必修	法学憲法 (日本国憲法を含む) (2単位)	4	3科目 12単位の選択必修	自然科学概論	4	2科目 8単位の必修
	宗教学 II (2年次必修)	4		経済学	4		地学	4	
	哲学	4		社会学	4		心理学	4	
	理学	4		社会学	4		人類学	4	
	歴史学 (日本・西洋)	4		地理学	4				
社会学科	宗教学 I (1年次必修)	4	「宗教学 I・II」を含む12単位必修	法学憲法 (日本国憲法を含む) (2単位)	4	3科目 12単位の選択必修	自然科学概論	4	2科目 8単位の必修
	宗教学 II (2年次必修)	4		政治学	4		生物学	4	
	論文	4		経済学	4		地学	4	
	歴史学	4		地理学	4		人類学	4	
	芸術 (日本・西洋)	4							

教員免許状を取得しようとするものは「法学憲法」を必修とする。

※ 国文学科の「論理学」は56年度以前入学生は1年次必修とする。57年度以降入学生は選択必修とする。

※ 「宗教学 I」の授業は月曜日に玉川校舎（道順は学生部で配布の学生手帳を参照）で行なう。

2. 外国語科目の履修方法

外国語科目は英語・ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語・ロシア語の6カ国語が開講されている。これらのうち英語と入学手続の際に指定した外国語の2カ国語を履修することになり、その2カ国語を1年次および2年次（英米文学科は3年次）において必要な科目数・単位数を必ず履修しなければならない。

第1外国語

学 科 年 次	国文学科		英米文学科		地理学科		歴史学科		社会学科	
	科目数	単位	科目数	単位	科目数	単位	科目数	単位	科目数	単位
1 年 次	2科目	4	2科目	4	2科目	4	2科目	4	2科目	4
2 年 次	2科目	4	2科目	4	2科目	4	2科目	4	2科目	4
3 年 次	—	—	1科目	2	—	—	—	—	—	—

第2外国語

学 科 年 次	国文学科		英米文学科		地理学科		歴史学科		社会学科	
	科目数	単位	科目数	単位	科目数	単位	科目数	単位	科目数	単位
1 年 次	2科目	4	2科目	4	2科目	4	2科目	4	2科目	4

1年次の履修

6カ国語のうち英語1G・1Rの2科目と入学手続の際に指定した外国語1G・1Rの2科目の計4科目8単位を必修とする。

授 業 科 目	単 位	科 目 内 容	履 修 科 目 数	備 考
英 語 1G	2		1G・1R2科目を必修とする。ただし1Gは、英会話または英語LLに代替できる (ただし英米文学科は英会話に代替できない)	LL (ランゲージ・ラボラトリー)
英 語 1R	2			
英 会 話	2			
英 語 LL	2	視聴覚教材を使用した語学教育		
ド イ ツ 語 1G	2	文 法	5カ国語のうちから入学手続の際指定した1カ国語1G・1Rの2科目を必修すること	
ド イ ツ 語 1R	2	講 読		
フ ラ ン ス 語 1G	2	文 法		
フ ラ ン ス 語 1R	2	講 読		
中 国 語 1G	2	文 法		
中 国 語 1R	2	講 読		
ス ペ イ ン 語 1G	2	文 法		
ス ペ イ ン 語 1R	2	講 読		
ロ シ ア 語 1G	2	文 法		
ロ シ ア 語 1R	2	講 読		

※英語科目内容

英語1G：意志表現と意志伝達の基礎を把握する。

英語1R：講読を通し内容と文構造の基本を把握する。

※「英語1R」の授業は月曜日に玉川校舎（道順は学生部で配布の学生手帳を参照）で行う。

2年次の履修

1年次で履修の2カ国語のうち、いずれかを第1外国語とし2AⅠ・2AⅡの2科目4単位を必修すること。ただし英米文学科は英語を第1外国語とする。

授業科目	単位	科目内容	授業科目	単位	科目内容
英語 2AⅠ	2		中国語 2AⅠ	2	講 読
英語 2AⅡ	2		中国語 2AⅡ	2	講 読
ドイツ語 2AⅠ	2	講 読	スペイン語 2AⅠ	2	講 読
ドイツ語 2AⅡ	2	講 読	スペイン語 2AⅡ	2	講 読
フランス語 2AⅠ	2	講 読	ロシア語 2AⅠ	2	講 読
フランス語 2AⅡ	2	講 読	ロシア語 2AⅡ	2	講 読

※英語科目内容

英語2AⅠ：講読を通しはば広い教養を修得する。

英語2AⅡ：意志表現と意志伝達の能力を発展させ応用力を修得する。

3年次の履修（英米文学科のみ）

授業科目	単位	科目内容	履修科目数
英語 3A	2	講 読	3Aを1科目必修

※「英語3A」の授業は学生番号によりクラス編成されているので、各自の学生番号に該当するクラスで履修すること。ただし所定のクラスで履修不可能な場合は、担当教員に申し出ること。

外国語科目履修上の注意

- イ. 外国語科目の組分けは、すべて授業時間表で指定するので、学生は自己の学科・学生番号(下4ケタ)により該当するクラスを履修すること。
- ロ. 1年次履修の外国語（英語と他の1カ国語）の中から第1外国語、第2外国語の別を学生自身が指定し、9月下旬に登録する。したがって1年次生は前期の授業で充分考慮の上登録すること。なお、英米文学科は英語を第1外国語とする。
- ハ. なお一層の語学教育を望む学生は、外国語随意科目を開講しているので進んで履修されたい。
- ニ. 不合格科目の再履修については、別に定める。
- ホ. 2年次（英米文学科は3年次）までに所定の単位を修得していなければならない。

3. 保健体育科目の履修方法

講義と実技に分かれ、1年次に2科目4単位を必修とする。

	授 業 科 目	単 位	備 考
講 義	保 健 体 育 理 論	2	前期または後期
実 技	体 育 実 技	2	

- イ. 講義の前期・後期の別は授業時間表で指定する。
- ロ. 講義, 実技とも1年次で不合格となった者は「再履修クラス」を履修し単位を修得する。
- ハ. 講義, 実技とも2年次までに所定の単位を修得していなければならない。
- ニ. 講義, 実技とも月曜日に玉川校舎で授業を行う。

体育実技履修上の注意

イ. 授業について

前期・後期ともそれぞれ履修時間に含まれている数種目の中から希望する種目を選択し受講する。
ただし、前期と後期は同一種目を選択することはできない。

(a) 種目選択届

最初の授業時間に、前期・後期ともつぎの履修時間に含まれている数種目の中から、決定するので、必ず出席すること。

(b) 単位履修届

教務部に提出する「単位履修届」の科目名・担任名は授業時間表による科目名・担任名を記入すること。選択した種目名また種目の担任名ではない。

月・1 (禅・仏・国)	月・2 (英・地)	月・3 (歴・社)
陸上競技 ◎森本 体 操 三 幣 ソフトボール 太田 トレーニング 武藤 室内球技 久保田 テニス 浅野 卓 球 秋 田 剣 道 上 山	剣 道 ◎上 山 陸上競技 森本 サッカー 原山 ソフトボール 太田 室内球技 久保田 テニス 浅野 トレーニング 武藤	ソフトボール ◎太田 陸上競技 森本 体 操 三 幣 室内球技 久保田 テニス 浅野 トレーニング 武藤 卓 球 村 松

再履修クラス (2年次生以上の再履修者のクラスで授業は本校で行う)

火・3
室内球技◎長浜 太極拳 大石

水・1	水・2
室内球技◎原山 剣 道 上山	室内球技◎原山 剣 道 上山

※◎印は講座主任

ロ. 単位の認定について

1年間の授業を通して2単位を認定する。前期と後期は種目選択の上で便宜上分けられるもので、あくまでも1年間の授業を通して単位を認定する。

ハ. 評価について

週一回の授業を真剣に受講することが、実技の重要な意味であることから、本学においては出席を評価の上で最も優先させている。この基盤の上に立って前期・後期それぞれの種目において行われる実技試験の点数、および平常の授業における態度が加味されて、実技の評価が行われる。

ニ. 校外学習

夏と冬の二回にわたって実施する。参加は希望制であり人数の制限がある。これは単位認定とは直接関係のない保健体育部主催の行事であるが、実技を受講している学生が参加した場合には評価の上で幾分か加味される。

ホ. 見学について

身体の具合が悪い場合は、担任教員にその旨を報告し、授業を真面目に見学すること。

※長期見学者：前期または後期をほとんどあるいは全部見学せざるを得ない精神および身体上の故障や病気を持っている場合は長期見学者として取り扱い毎時間の真面目な見学をもって出席に代える。また、実技テストは行わずレポートをもってこれに代える。レポートの課題については担任教員より指示を受けること。

ヘ. 服装・更衣について

種目毎に、それぞれの担任教員の指示に従い、指定された場所以外では着替えないこと。

ト. 盗難・事故・負傷について

(a) 盗難：実技の受講日には貴重品は持参しないこと。やむを得ず持参した場合には担任教員に指示を受けること。最近、特に実技の時間を狙った常習者が横行しているので充分注意してほしい。

(b) 事故・負傷：実技の時間に事故や負傷が発生した場合には直ちに担任教員に報告し適切な指示を受けること。

チ. 掲示板の利用について

実技上の連絡は、玉川校舎事務室前の掲示板および玉川校舎入口の黒板に掲示するので、平常よく見ておくこと。

4. 基礎教育科目（必修）の履修方法

専門教育の基礎となる授業科目で各年次別履修順序は、次表のとおりである。

学年 年次	国文学科		英米文学科		地理学科		歴史学科		社会学科	
	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位
1 年 次	基礎国語学	4	英文学概論または米文学概論	4	基礎地学(自然地理学)	4	基礎歴史学	4	社会学概論	4
	基礎国文学	4	基礎英語ⅠA	2	基礎地理学(人文地理学)	4			社会福祉概論	4
	基礎中国文学	4	基礎英語ⅠB(会話)	2					心理学概論	4
2 年 次			基礎英語ⅡA	2						
			基礎英語ⅡB(会話)	2						

5. 専門教育科目の履修方法

専門教育科目は必修科目と選択科目とに分かれ、それぞれ定められた単位を修得することになっている。履修する授業科目の選択については専門科目全般にわたって充分検討して履修すること。なお一度単位を修得した授業科目については再度履修することはできない。

専門教育科目の卒業所要単位数

	国文学科	英米文学科		地理学科	歴史学科	社会学科					
		58年度以降入学生適用	57年度以前入学生適用			57年度以降入学生適用			56年度以前入学生適用		
		社	福			心	社	福	心		
必修科目	36(12)	28(7)	24(6)	16(6)	32(8)	48(12)	48(12)	28(8)	32(8)	36(9)	38(11)
選択科目	28	36	40	48	32	16	16	36	32	28	26
卒業論文	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8
計	72	72	72	72	72	72	72	72	72	72	72

(注意) イ. () 内の数字は科目数。

ロ. 社会学科福祉コースで、昭和53年度以前入学生は10科目40単位を必修とする。

国文学科

必修科目 (44単位)

1 年 次 必 修			3 年 次 必 修		
授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
国文学講読 I	2		国 語 学 演 習 I	2	1 科目 2 単位選択必修 (原則として卒業論文 に関連のある分野の 演習を履修すること)
			国文学演習 I (上代)	2	
2 年 次 必 修			国文学演習 I (中古)	2	
国 語 学 概 論	4		国文学演習 I (中世)	2	
国文学概論	4		国文学演習 I (近世)	2	
国文学講読 II	2		国文学演習 I (近代)	2	
中国文学講読	2		4 年 次 必 修		
			国 文 学 研 究	4	
3 年 次 必 修			国 文 学 史 I	4	1 科目 4 単位選択必修 (3 年次で必修または 選択として履修した 科目以外を履修する)
国文学史 I	4	1 科目 4 単位 選択必修	国 文 学 史 II	4	
国文学史 II	4		国 文 学 史 III	4	
国文学史 III	4		国 文 学 史 IV	4	
国文学史 IV	4		国 文 学 史 V	4	
国文学史 V	4		国 語 学 演 習 II	2	1 科目 2 単位選択必修 (卒業論文に関連のあ る分野の演習を履修 すること)
国語学研究	4	国 文 学 演 習 II	2		
国文学講読 III	2		卒 業 論 文	8	9 頁参照

(注意) 3年次で「国文学演習 I」を履修した者は原則として4年次も「国文学演習 II」を、また3年次で「国語学演習 I」を履修した者は4年次でも「国語学演習 II」を履修すること。

「国文学史」の講義内容は I (上代)・II (中古)・III (中世)・IV (近世)・V (近代) とする。

選択科目（28単位以上）（2年次以降の履修科目）

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
言語学概論	4		国文学特講Ⅱ	4	
国語史	4	休講 } 隔年開講	国文学特講Ⅲ	4	
国語学史	4		国文学特講Ⅳ	4	
上代文学	4		中国文学	4	
中古文学	4		東洋思想研究	4	
中世文学	4		中国文学演習	4	
近世文学	4		現代美術	4	
近代文学	4		書道実習Ⅰ	4	
英米文化	4	旧外国文学	書道実習Ⅱ	4	
文学概論	4		美術史概説	4	
中国文学概論	4		美術史	2	
有職故実	4		国文学史Ⅰ	4	選択科目として履修を希望する者は必修とした科目以外を3年次または4年次で履修すること
書道史	2		国文学史Ⅱ	4	
仏教概論	4		国文学史Ⅲ	4	
日本史概説Ⅰ	4	古代, 中世	国文学史Ⅳ	4	
日本史概説Ⅱ	4	近世, 近代	国文学史Ⅴ	4	
日本文化史Ⅰ	4	休講 } 隔年開講	編集実務	2	
日本文化史Ⅱ	4		日本民俗学	4	
国文学特講Ⅰ	4				

（注意）「国文学史」の講義内容はⅠ（上代）・Ⅱ（中古）・Ⅲ（中世）・Ⅳ（近世）・Ⅴ（近代）とする。

「国文学特講」のⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳは時代・履修順序等との関係はない。

英米文学科

必修科目

A. 58年度以降入学生適用 (36単位)

2年次必修			4年次必修		
授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考
英語学概論	4		卒業論文	8	9頁参照
英作文 I	4		2年次または3年次必修		
3年次必修			文学史 (英文学史 I) (英文学史 II) (米文学史)	8	2年次1科目 3年次1科目 計2科目選択必修
音声学	4				
英語史	4				
シェイクスピア	4				

※ 「文学史」は2科目選択必修とし、残り1科目を専門選択科目として履修できない。

B. 57年度以前入学生適用 (32単位)

2年次必修			2年次または3年次必修		
授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考
英語学概論	4		文学史 (英文学史 I) (英文学史 II) (米文学史)	4	1科目選択必修
3年次必修					
音声学	4	旧英語学研究	3年次または4年次必修		
英語史	4		批評論研究	4	
4年次必修			シェイクスピア	4	
卒業論文	8	9頁参照			

選択科目

A. 58年度以降入学生適用 (36単位以上)

B. 57年度以前入学生適用 (40単位以上)

授 業 科 目	単 位	履 修 年 次	備 考	授 業 科 目	単 位	履 修 年 次	備 考
英 文 学 史 I	4	2・3・4	※イ 必修とし た科目履修 外を履修す ること	英 文 学 演 習 I (中世)	4	3・4	
英 文 学 史 II	4	2・3・4		英 文 学 演 習 II (英文学16c, 17c.)	4	3・4	※ホ
米 文 学 史	4	2・3・4		英 文 学 演 習 IV (英文学18c.)	4	3・4	
英 文 学 特 講 I (英文学16, 17c.)	4	3・4		英 文 学 演 習 V (詩19, 20c.)	4	2・3・4	
英 文 学 特 講 II (英文学18c.)	4	3・4		英 文 学 演 習 VI (小説I 19c.)	4	3・4	
英 文 学 特 講 III (詩19, 20c.)	4	2・3・4		英 文 学 演 習 VII (小説II 20c.)	4	2・3・4	
英 文 学 特 講 IV (小説I 19c.)	4	2・3・4		英 文 学 演 習 VIII (批評19, 20c.)	4	3・4	
英 文 学 特 講 V (小説II 20c.)	4	2・3・4		米 文 学 演 習 I (詩)	4	2・3・4	
英 文 学 特 講 VI (批評19, 20c.)	4	3・4		米 文 学 演 習 II (小説I)	4	2・3・4	
米 文 学 特 講 I (詩)	4	2・3・4		米 文 学 演 習 III (小説II)	4	3・4	
米 文 学 特 講 II (小説I)	4	2・3・4		米 文 学 演 習 IV (小説III)	4	2・3・4	
米 文 学 特 講 III (小説II)	4	2・3・4		米 文 学 演 習 V (批評)	4	3・4	
米 文 学 特 講 IV (小説III)	4	2・3・4		英米演劇演習	4	2・3・4	※へ
米 文 学 特 講 V (批評)	4	3・4		時 事 英 語	4	2・3・4	旧英米 時文研究
英米演劇特講	4	2・3・4	※ロ	商 業 英 語	4	3・4	
英 作 文 I	4	3・4	※ハ	ラ テ ン 語 特 講	4	2・3・4	
英 米 語 学 演 習 (英語学)	4	3・4		英 米 文 化	4	2・3・4	旧外国文学
英 米 語 学 演 習 (英語史)	4	3・4		日 本 文 化 史 I	4	2・3・4	休講 } 隔 年開講
英 米 語 学 演 習 (英文法)	4	3・4		日 本 文 化 史 II	4	2・3・4	
英 米 語 学 演 習 (英作文II)	4	3・4	※ニ	現 代 美 術	4	2・3・4	
英 米 語 学 演 習 (英会話)	2	3・4					

※イ 57年度以前入学生適用

※ロ 57年度以前入学生で「英文学特講Ⅶ(演劇19, 20c.)」・「米文学特講Ⅵ(演劇)」をいずれか修得した者は、「英米演劇特講」を履修できない。

※ハ 57年度以前入学生適用 旧「英米語学演習(英作文)」

※ニ 58年度以降入学生適用

※ホ 57年度以前入学生で「英文学演習Ⅱ（英文学16c.）」・「英文学演習Ⅲ（英文学17c.）」をいずれか修得した者は、「英文学演習Ⅱ（英文学16c,17c.）」を履修できない。

※へ 57年度以前入学生で「英文学演習Ⅸ（演劇19,20c.）」・「米文学演習Ⅵ（演劇）」をいずれか修得した者は、「英米演劇演習」を履修できない。

（注意） 同一科目は再度履修しても単位にはならない。

◇演習科目のとりかた

I(a) 2, 3, 4年次に演習1科目（4単位）ずつ、あわせて3科目（12単位）を極力履修すること。

(b) 2年次で履修しうる演習科目は1科目とする。

(c) 3年次で履修しうる演習科目は3科目以内とする。

(d) 4年次で履修しうる演習科目は2科目以内とする。

II(a) 各演習科目とも先着約50名で締切る。なお、教務部に「単位履修届」を提出する前に、受講希望の科目担任の先生に本人が直接届出て「単位履修届」に捺印を受けること。

(b) 担任の先生に届出る日・時・場所については教務部の掲示板に掲示するので注意すること。

地理学科

必修科目（24単位）

2年次必修		3年次必修		4年次必修	
授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位
自然地理学実習 (地図学実習を含む)	2	地理学総論	4	地理学演習	4
人文地理学実習	2	野外巡検Ⅱ	2	卒業論文 (9頁参照)	8
野外巡検Ⅰ	2				

※ 「地理学総論」は「地理学研究法および地理学史」の名称変更。

選択科目（48単位以上）

2 年 次 選 択			3 年 次 選 択		
授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
地 形 学 I	4		人 口 地 理 学	4	
集 落 地 理 学	4		経 済 地 理 学 II	4	
郷 土 地 理 学	4		原 書 講 読	4	
経 済 地 理 学 I	4		日 本 地 誌 II	4	
交 通 地 理 学	4		外 国 地 誌 II	4	
地 図 学	4	旧 地図学概説	地 理 学 特 講 I	2	
日 本 地 誌 I	4		3・4 年 次 選 択		
外 国 地 誌 I	4		文 化 地 理 学	4	
3 年 次 選 択			都 市 地 理 学	4	
地 質 学	4		計 量 地 理 学	4	
地 球 物 理 学	4	休講	空 中 写 真 判 読 法 及 び 測 量 学	4	
地 形 学 II	4	休講	日 本 地 誌 III	4	
気 候 学	4		外 国 地 誌 III	4	
土 壌 地 理 学	4		応 用 地 理 学 I	4	
海 洋 学 及 び 陸 水 学	4		応 用 地 理 学 II	4	
歴 史 地 理 学	4				

(注意) (1) 上記のように学年次別に選択科目を分けているが、内容からみて上級学年が下級学年の科目を履修するのはさしつかえない。しかし下級学年が上級学年の科目を履修することはできない。

(2) 「地理学演習」および「野外巡検（I・II）」の必修科目の履修にあたっては、地理学研究室の指示に必ず従うこと。詳細は適時教務部および地理学教室の掲示板に掲示するので注意すること。

◎測量士補資格について

地理学科の学生で、地図学、空中写真判読法及び測量学、自然地理学実習、地理学演習を修得し、さらに地形学、地質学、地球物理学、応用地理学 I、II のうち 2 科目を修得した者で、測量士補の資格を希望する者は、卒業後、大学が国土地理院長に測量士補の資格が得られるよう推薦する。

また、さらに卒業後 1 年以上測量に関する実務を経験し、その資格を証する書類を申請登録すれば、測量士の資格が得られる。

歴史学科（1年次の秋頃に各自専攻コースを届出ること）

必修科目（40単位）（2年次以降の履修科目）

○日本史専攻

56年度以降入学生適用

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
史 学 概 論	4		東洋史概説Ⅰ（古 中 代 世）	4	2科目8 単位選択 必修
日 本 史 学 史	4		東洋史概説Ⅱ（近 近 世 代）	4	
日本史概説Ⅰ（古 中 代 世）	4		西洋史概説Ⅰ（古 中 代 世）	4	
日本史概説Ⅱ（近 近 世 代）	4		西洋史概説Ⅱ（近 近 世 代）	4	
演 習 Ⅰ（日本史）	4	演習Ⅰ（考 古学）で代 替えできる	考古学概説Ⅰ（日 本）	4	
演 習 Ⅱ（日本史）	4		考古学概説Ⅱ（外 国）	4	
			卒 業 論 文	8	9頁参照

55年度以前入学生適用

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
史 学 概 論	4		東洋史概説Ⅰ（古 中 代 世）	4	2科目8 単位選択 必修
日 本 史 学 史	4		東洋史概説Ⅱ（近 近 世 代）	4	
日本史概説Ⅰ（古 中 代 世）	4		西洋史概説Ⅰ（古 中 代 世）	4	
日本史概説Ⅱ（近 近 世 代）	4		西洋史概説Ⅱ（近 近 世 代）	4	
演 習 Ⅰ（日本史）	4	演習Ⅰ（考 古学）で代 替えできる	考古学概説Ⅰ（日 本）	4	
演 習 Ⅱ（日本史）	4		卒 業 論 文	8	

○東洋史専攻

56年度以降入学生適用

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
史 学 概 論	4		日本史概説Ⅰ (古中代世)	4	2科目8 単位選択 必修
東 洋 史 学 史	4		日本史概説Ⅱ (近近代世)	4	
東洋史概説Ⅰ (古中代世)	4		西洋史概説Ⅰ (古中代世)	4	
東洋史概説Ⅱ (近近代世)	4		西洋史概説Ⅱ (近近代世)	4	
演 習 Ⅰ (東洋史)	4		考古学概説Ⅰ (日本)	4	
演 習 Ⅱ (東洋史)	4	演習Ⅱ(考古学)で代替できる	考古学概説Ⅱ (外国)	4	
			卒 業 論 文	8	9頁参照

55年度以前入学生適用

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
史 学 概 論	4		日本史概説Ⅰ (古中代世)	4	2科目8 単位選択 必修
東 洋 史 学 史	4		日本史概説Ⅱ (近近代世)	4	
東洋史概説Ⅰ (古中代世)	4		西洋史概説Ⅰ (古中代世)	4	
東洋史概説Ⅱ (近近代世)	4		西洋史概説Ⅱ (近近代世)	4	
演 習 Ⅰ (東洋史)	4		考古学概説Ⅰ (日本)	4	
演 習 Ⅱ (東洋史)	4	演習Ⅱ(考古学)で代替できる	卒 業 論 文	8	9頁参照

○西洋史専攻

56年度以降入学生適用

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
史 学 概 論	4		日本史概説Ⅰ (古 中 代 世)	4	2 科 目 8 単 位 選 択 必 修
西 洋 史 学 史	4		日本史概説Ⅱ (近 近 代 世)	4	
西洋史概説Ⅰ (古 中 代 世)	4		東洋史概説Ⅰ (古 中 代 世)	4	
西洋史概説Ⅱ (近 近 代 世)	4		東洋史概説Ⅱ (近 近 代 世)	4	
演 習 Ⅰ (西洋史)	4		考古学概説Ⅰ (日 本)	4	
演 習 Ⅱ (西洋史)	4	演習Ⅱ (考 古学) で代 替 え 可 能	考古学概説Ⅱ (外 国)	4	
			卒 業 論 文	8	9 頁 参 照

55年度以前入学生適用

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
史 学 概 論	4		日本史概説Ⅰ (古 中 代 世)	4	2 科 目 8 単 位 選 択 必 修
西 洋 史 学 史	4		日本史概説Ⅱ (近 近 代 世)	4	
西洋史概説Ⅰ (古 中 代 世)	4		東洋史概説Ⅰ (古 中 代 世)	4	
西洋史概説Ⅱ (近 近 代 世)	4		東洋史概説Ⅱ (近 近 代 世)	4	
演 習 Ⅰ (西洋史)	4		考古学概説Ⅰ (日 本)	4	
演 習 Ⅱ (西洋史)	4	演習Ⅱ (考 古学) で代 替 え 可 能	卒 業 論 文	8	

○考古学専攻

56年度以降入学生適用

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
史 学 概 論	4		日本史概説Ⅰ (古中世)	4	2科目8 単位選択 必修
考 古 学 史	4		日本史概説Ⅱ (近近代)	4	
考古学概説Ⅰ (日本)	4		東洋史概説Ⅰ (古中世)	4	
考古学概説Ⅱ (外国)	4		東洋史概説Ⅱ (近近代)	4	
演 習 Ⅰ (考古学)	4		西洋史概説Ⅰ (古中世)	4	
演 習 Ⅱ (考古学)	4	他の専攻の 演習Ⅱで代 替えできる	西洋史概説Ⅱ (近近代)	4	
			卒 業 論 文	8	9頁参照

55年度以前入学生適用

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
史 学 概 論	4		日本史概説Ⅰ (古中世)	4	3科目12 単位選択 必修
考古学概説Ⅰ (日本)	4		日本史概説Ⅱ (近近代)	4	
演 習 Ⅰ (考古学)	4		東洋史概説Ⅰ (古中世)	4	
演 習 Ⅱ (考古学)	4	他の専攻の 演習Ⅱで代 替えできる	東洋史概説Ⅱ (近近代)	4	
日 本 史 学 史	4	1科目4 単位選択 必修	西洋史概説Ⅰ (古中世)	4	
東 洋 史 学 史	4		西洋史概説Ⅱ (近近代)	4	
西 洋 史 学 史	4		卒 業 論 文	8	9頁参照

選択科目（32単位以上）（2年次以降の履修科目）

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
日 本 史 各 説 I	4		西 洋 史 特 講 I	4	
日 本 史 各 説 II	4		西 洋 史 特 講 II	4	
日 本 史 各 説 III	4		西 洋 史 特 講 III	4	休講
日 本 史 各 説 IV	4		西 洋 史 特 講 IV	4	休講
東 洋 史 各 説 I	4		西 洋 史 特 講 V	4	
東 洋 史 各 説 II	4		西 洋 各 国 史 I	4	
東 洋 史 各 説 III	4		西 洋 各 国 史 II	4	
東 洋 史 各 説 IV	4		西 洋 各 国 史 III	4	
西 洋 史 各 説 I	4	休講	西 洋 各 国 史 IV	4	
西 洋 史 各 説 II	4		考 古 学 特 講 I	4	
西 洋 史 各 説 III	4		考 古 学 特 講 II	4	休講
西 洋 史 各 説 IV	4		考 古 学 特 講 III	4	} 隔 開 年 講 休講
考 古 学 各 説 I	4		考 古 学 特 講 IV	4	
考 古 学 各 説 II	4		古 文 書 学	4	
日 本 史 特 講 I (古 代)	4	休講	古 文 書 講 読 I	4	
日 本 史 特 講 II (中 世)	4		古 文 書 講 読 II	4	
日 本 史 特 講 III (中 世)	4		日 本 仏 教 史 I	4	} 隔 年 開 講 I と III は 休 講
日 本 史 特 講 IV (近 世)	4		日 本 仏 教 史 II	4	
日 本 史 特 講 V (近 世)	4		日 本 仏 教 史 III	4	
日 本 史 特 講 VI (近 代)	4		日 本 文 化 史 I	4	} 隔 年 開 講 休講
日 本 史 特 講 VII (近 代)	4		日 本 文 化 史 II	4	
東 洋 史 特 講 I (中 国 周 辺 史)	4	休講	西 洋 文 化 史 I	4	
東 洋 史 特 講 II (近 世・近 代 史)	4		西 洋 文 化 史 II	4	
東 洋 史 特 講 III (中 世 史)	4		西 洋 文 化 史 III	4	休講
東 洋 史 特 講 IV (近 代・現 代 史)	4		考 古 学 実 習 I (写 真)	4	
東 洋 史 特 講 V (西・中 央 ア ジ ア 史)	4		考 古 学 実 習 II (記 録)	4	
東 洋 史 特 講 VI (中 世 史)	4	休講	考 古 学 実 習 III (測 量)	4	
東 洋 史 特 講 VII (古 代 史)	4		考 古 学 実 習 IV (調 査)	4	

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
考 古 発 掘 実 習	2		ラ テ ン 語 特 講	4	}
有 職 故 実	4		演 習 I	4	
中 国 歴 史 文 学	4		演 習 II	4	
日 本 民 俗 学	4		日 本 史 概 説 I (古 代)	4	
歴 史 地 理 学	4		日 本 史 概 説 II (近 代)	4	
人 文 地 理 学 概 説	4		東 洋 史 概 説 I (古 代)	4	
地 誌 学	4		東 洋 史 概 説 II (近 代)	4	
哲 学 史	4		西 洋 史 概 説 I (古 代)	4	
歴 史 哲 学	4		西 洋 史 概 説 II (近 代)	4	
仏 教 美 術	4		考 古 学 概 説 I (日 本)	4	
西 域 美 術 史	4		考 古 学 概 説 II (外 国)	4	
美 術 史 概 説	4				

(注意) 選択科目として履修を希望する者は必修科目として履修した科目以外を履修すること。

※55年度以前入学生は「考古学概説Ⅱ(外国)」を履修することはできない。

社会学科（1年次の秋頃各自専攻コースを届出ること）

（1）社会学コース

必修科目

A. 57年度以降入学生適用（56単位）

2年次必修			2・3・4年次必修		
授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考
社会統計学	4		マスコミュニケーション	4	休講 5科目20 単位選択 必修
社会学史	4		産業社会学	4	
社会学方法論	4		都市社会学	4	
3年次必修			農村社会学	4	
社会調査	4		家族社会学	4	
社会調査実習	4		法社会学	4	
演習 I	4	社会	宗教社会学	4	
4年次必修			社会心理学	4	
演習 II	4	社会	社会病理学	4	
卒業論文	8	9頁参照	外書講読 I	4	
			外書講読 II	4	
			社会学特講 I	4	
			社会学特講 II	4	
			社会学特講 III	4	

（注意） 「演習」は3年次で履修した先生のものを、卒業論文の指導を受けることを前提に4年次も継続的に履修すること。

必修科目

B. 59年度以前入学生適用（40単位）

2 年 次 必 修			3 年 次 必 修		
授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
社 会 学 史	4		演 習 I	4	社会
社 会 学 原 論	4		4 年 次 必 修		
社 会 統 計 学	4		社 会 政 策	4	
宗 教 社 会 学	4		演 習 II	4	社会
3 年 次 必 修			卒 業 論 文	8	9 頁参照
社 会 調 査	4				

（注意）「演習」は3年次で履修した先生のものを，卒業論文の指導を受けることを前提に4年次も継続的に履修すること。

選択科目

B. 56年度以前入学生適用（32単位以上）

2・3年次選択			2・3・4年次選択		
授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考
社会学方法論	4		社会学特講Ⅰ	4	旧社会学特講
マスコミュニケーション	4		社会学特講Ⅱ	4	旧ジャーナリズム研究
産業社会学	4		社会学特講Ⅲ	4	旧労務管理
都市社会学	4		社会福祉法制	4	
農村社会学	4	休講	社会保障概論	4	
家族社会学	4		老人福祉論	4	
法社会学	4		児童福祉論	4	
社会心理学	4		地域福祉論	4	
外書講読Ⅰ	4		基礎心理学Ⅰ	4	
外書講読Ⅱ	4		産業心理学	4	
2・3・4年次選択			社会福祉方法総論	4	
図書館学Ⅰ	4		青少年問題研究	4	60年度より廃講
図書館学Ⅱ	4		教育社会学	4	
グループ・ダイナミックス	4	旧集団理論	社会教育概論	4	
行政法	4		社会教育方法論	4	
民法	4		3・4年次選択		
労働法	4		社会病理学	4	
経済原論	4		社会調査実習	4	旧社会調査実習Ⅰ

(2) 社会福祉コース

必修科目

A. 57年度以降入学生適用 (56単位)

2 年 次 必 修			2・3・4 年 次 必 修			
授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考	
社会 保 障 概 論	4		A 群	公 的 扶 助 論	4	A群とB群より、それぞれ3科目ずつ取得、合計6科目24単位選択必修
社会 福 祉 法 制	4			障 害 福 祉 論	4	
社会 福 祉 方 法 総 論	4			老 人 福 祉 論	4	
3 年 次 必 修				児 童 福 祉 論	4	
社会 福 祉 実 習 I	4			母 子 福 祉 論	4	
演 習 I	4	福祉		医 療 社 会 事 業 論	4	
4 年 次 必 修			B 群	地 域 福 祉 論	4	
演 習 II	4	福祉		社会福祉事業発達史	4	
卒 業 論 文	8	9頁参照		社会福祉管理運営論	4	
				福 祉 外 書 講 読	4	
				リハビリテーション論	4	

※「演習」は3年次で履修した先生のものを、卒業論文の指導を受けることを前提に4年次も継続的に履修すること。

選択科目

A. 57年度以降入学生適用（16単位以上）

2・3・4年次選択			2・3・4年次選択		
授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考
公的扶助論	4	（注）	宗教社会学	4	
障害福祉論	4		産業社会学	4	
老人福祉論	4		都市社会学	4	
児童福祉論	4		農村社会学	4	休講
母子福祉論	4		家族社会学	4	
医療社会事業論	4		法社会学	4	
地域福祉論	4		社会病理学	4	
社会福祉事業発達史	4		異常児教育原論	4	
社会福祉管理運営論	4		異常児教育方法論	4	
福祉外書講読	4		異常児病理	4	休講
リハビリテーション論	4		異常児心理	4	休講
ケースワーク論	4		図書館学Ⅰ	4	
グループワーク論	4		図書館学Ⅱ	4	
海外社会福祉論	4		社会政策	4	
社会福祉学特講Ⅰ	4		青少年問題研究	4	
社会福祉学特講Ⅱ	4		行政法	4	
社会福祉学特講Ⅲ	4		労働法	4	
基礎心理学Ⅰ	4		民法	4	
基礎心理学Ⅱ	4		経済原論	4	
社会心理学	4		4年次選択		
グループ・ダイナミックス	4		社会福祉実習Ⅱ	4	

（注意）※ 選択科目として履修を希望する者は必修科目として履修した科目以外を履修すること。

※ 「社会福祉実習Ⅱ」を履修する者は「社会福祉実習Ⅰ」取得者に限る。

必修科目

B. 56年度以前入学生適用（44単位）

※ ただし53年度以前入学生は48単位必修とする。

2 年 次 必 修			3 年 次 必 修		
授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
社 会 学 史	4		社 会 福 祉 実 習 I	4	旧 社会福祉 実習
社 会 学 原 論	4		演 習 I	4	福祉
社 会 福 祉 法 制	4		4 年 次 必 修		
社 会 福 祉 概 論	4	53年度以前 の入学生の み必修	社 会 政 策	4	
			演 習 II	4	福祉
3 年 次 必 修			卒 業 論 文	8	9 頁参照
社 会 調 査	4				
社 会 福 祉 事 業 発 達 史	4	旧社会福祉 事業史			

(注意) ※ 「社会福祉概論」は54年度以降入学生より基礎教育科目とする。

※ 「演習」は3年次で履修した先生のものを、卒業論文の指導を受けることを前提に4年次も継続的に履修すること。

選択科目

B. 56年度以前入学生適用 (28単位以上)

※ ただし53年度以前入学生は24単位以上とする。

2・3年次選択			2・3・4年次選択		
授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考
社会保障概論	4	旧社会保障論	グループ・ダイナミックス	4	
児童福祉論	4		宗教社会学	4	
老人福祉論	4		産業社会学	4	
地域福祉論	4		都市社会学	4	
ケースワーク論	4	旧ケース・ワーク論	農村社会学	4	休講
グループワーク論	4	旧グループ・ワーク	法社会学	4	
基礎心理学Ⅱ	4	旧精神発達学	図書館学Ⅰ	4	
社会心理学	4		図書館学Ⅱ	4	
家族社会学	4		民法	4	
異常児教育原論	4		経済原論	4	
2・3・4年次選択			行政法	4	
公的扶助論	4		労働法	4	
母子福祉論	4		青少年問題研究	4	
医療社会事業論	4	旧医療社会事業	異常児病理	4	旧異常児病理・保健 休講
リハビリテーション論	4		異常児心理	4	休講
福祉外書講読	4	旧外書講読Ⅲ	障害福祉論	4	
海外社会福祉論	4		教育社会学	4	} 60年度より 廃講
社会福祉方法総論	4		社会教育概論	4	
社会福祉管理運営論	4		社会教育方法論	4	
社会福祉学特講Ⅰ	4	旧社会福祉特講Ⅰ	3・4年次選択		
社会福祉学特講Ⅱ	4	旧社会福祉特講Ⅱ	異常児教育方法論	4	
社会福祉学特講Ⅲ	4	旧社会福祉特講Ⅲ	社会病理学	4	
基礎心理学Ⅰ	4				

(3) 心理学コース

必修科目

A. 57年度以降入学生適用 (36単位)

2 年 次 必 修			3 年 次 必 修		
授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
心 理 学 史	4		心 理 学 研 究 III (実 習)	2	1 科 目 2 単 位 選 択 必 修
心 理 統 計 学	4		心 理 学 研 究 IV (実 習)	2	
心 理 学 実 験 (実 習)	2		心 理 学 研 究 V (実 習)	2	
基 礎 心 理 学 I	4	1 科 目 4 単 位 選 択 必 修	心 理 学 研 究 VI (実 習)	2	1 科 目 4 単 位 選 択 2 必 修 年 次 で は 修 ま た し 選 択 と し て 履 修 し た 科 目 以 外 を 履 修 す る こ と
基 礎 心 理 学 II	4		基 礎 心 理 学 I	4	
基 礎 心 理 学 III	4		基 礎 心 理 学 II	4	
基 礎 心 理 学 IV	4		基 礎 心 理 学 III	4	
基 礎 心 理 学 V	4		基 礎 心 理 学 IV	4	
3 年 次 必 修			基 礎 心 理 学 V	4	
心 理 学 研 究 法	4		4 年 次 必 修		
心 理 学 研 究 I (実 習)	2		演 習	4	
心 理 学 研 究 II (実 習)	2		卒 業 論 文	8	9 頁 参 照

(注意) 基礎心理学 I ~ V の内容については講義内容欄を参照のこと。

選択科目

A. 57年度以降入学生適用（36単位以上）（2年次以降の履修科目）

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
基 礎 心 理 学 I	4	必修として履修した科目以外を履修すること	心 理 学 特 講 II	4	
基 礎 心 理 学 II	4		心 理 学 特 講 III	4	
基 礎 心 理 学 III	4		精 神 医 学	4	
基 礎 心 理 学 IV	4		精 神 病 理 学	4	休講
基 礎 心 理 学 V	4		心 身 医 学	4	
心 理 学 研 究 I (実 習)	2	3・4年次選択 3年次で必修とした科目以外を履修すること	宗 教 社 会 学	4	
心 理 学 研 究 II (実 習)	2		産 業 社 会 学	4	
心 理 学 研 究 III (実 習)	2		家 族 社 会 学	4	
心 理 学 研 究 IV (実 習)	2		社 会 病 理 学	4	
心 理 学 研 究 V (実 習)	2		マ ス コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン	4	
心 理 学 研 究 VI (実 習)	2		社 会 福 祉 方 法 総 論	4	
生 理 心 理 学	4		障 害 福 祉 論	4	
児 童 心 理 学	4		老 人 福 祉 論	4	
産 業 心 理 学	4		児 童 福 祉 論	4	
グ ル ー プ ・ ダ イ ナ ミ ッ ク ス	4		民 法	4	
カ ウ ン セ リ ン グ	4		経 済 原 論	4	
心 理 検 査 法	4		行 政 法	4	
禪 心 理 学	4		労 働 法	4	
心 理 学 特 講 I	4				

(注意) 2年次における基礎心理学I～Vの選択科目としての履修は、3科目以内とする。

必修科目

B. 56年度以前入学生適用 (46単位)

2 年 次 必 修			3 年 次 必 修		
授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
基 礎 心 理 学 I	4	旧 人 格 心 理 学	心 理 学 研 究 IV (実 習)	2	旧 心 理 学 実 験 演 習 (上 級) 1 科 目 2 単 位 選 択 必 修
グ ル ー プ ・ ダイ ナ ミ ッ ク ス	4	旧 集 団 理 論	心 理 学 研 究 V (実 習)	2	
精 神 医 学	4		心 理 学 研 究 VI (実 習)	2	
心 理 学 実 験 (実 習)	2	旧 心 理 学 実 験 演 習 (初 級)	心 理 学 特 講 I	4	旧 臨 床 心 理 学 II (方 法)
			心 理 統 計 学	4	旧 精 神 測 定 法
3 年 次 必 修			4 年 次 必 修		
基 礎 心 理 学 III	4	旧 学 習 行 動 理 論	心 理 検 査 法	2	旧 臨 床 実 習
基 礎 心 理 学 V	4	旧 臨 床 心 理 学 I (理 論)	演 習	4	
心 理 学 研 究 I (実 習)	2		卒 業 論 文	8	9 頁 参 照
心 理 学 研 究 II (実 習)	2				
心 理 学 研 究 III (実 習)	2				

※ 「心理学実験演習（上級）」を既に修得している場合は、成績表には「心理学研究Ⅰ（実習）」として記載する。

選択科目

B. 56年度以前入学生適用（26単位以上）

（2年次以降の履修科目）

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
基礎心理学Ⅱ	4	旧 精神発達 学	産 業 社 会 学	4	
基礎心理学Ⅳ	4	旧 社会心理 学	家 族 社 会 学	4	
心理学研究Ⅰ（実習）	2	※3・4 年次選択 旧 心理 学実験演 習(上級) 3年次で 必修とし た科目履 修すること	社 会 病 理 学	4	
心理学研究Ⅱ（実習）	2		マスコミュニケーション	4	
心理学研究Ⅲ（実習）	2		社 会 福 祉 方 法 総 論	4	
心理学研究Ⅳ（実習）	2		障 害 福 祉 論	4	
心理学研究Ⅴ（実習）	2		老 人 福 祉 論	4	
心理学研究Ⅵ（実習）	2		児 童 福 祉 論	4	
生 理 心 理 学	4	旧 精神生理 学	行 政 法	4	
児 童 心 理 学	4		民 法	4	
産 業 心 理 学	4		労 働 法	4	
カウ ン セ リ ン グ	4		経 済 原 論	4	
禪 心 理 学	4		図 書 館 学 Ⅰ	4	60年度よ り廃講
心 理 学 特 講 Ⅱ	4		青 少 年 問 題 研 究	4	
心 理 学 特 講 Ⅲ	4		教 育 社 会 学	4	
精 神 病 理 学	4	休講	社 会 教 育 概 論	4	
心 身 医 学	4	旧 精神身体 医学	社 会 教 育 方 法 論	4	
宗 教 社 会 学	4				

※ 「心理学実験演習（上級）」を既に修得した者は、「心理学研究Ⅰ（実習）」は履修できない。

6. 随意科目の履修方法

随意科目は各学科とも2・3・4年次で履修することが出来るが卒業に必要な単位に含めることはできない。

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
ド イ ツ 語 F	2		哲 学 特 講 I, II	4	
フ ラ ン ス 語 F	2		宗 教 人 類 学	4	
中 国 語 F	2		民 間 信 仰 論	4	
ス ペ イ ン 語 F	2		日 本 宗 教 文 化 史	4	
ロ シ ア 語 F	2		民 衆 宗 教 成 立 史	4	
日 本 語 F	2	(初級・中級)	歴 史 哲 学	4	歴史学科を除く
ド イ ツ 語 FLL	2	(初級・中級)	日 本 民 俗 学	4	国文, 歴史学科を除く
フ ラ ン ス 語 FLL	2	(初級・中級)	美 術 史 概 説	4	国文, 歴史学科を除く
中 国 語 FLL	2	(初級・中級)	東 洋 思 想 研 究	4	国文学科を除く
ス ペ イ ン 語 FLL	2	(初級・中級)	日 本 仏 教 史	4	歴史学科を除く
ロ シ ア 語 FLL	2	(初級・中級)	日 本 文 化 史	4	地理, 社会科学のみ
宗 教 学 特 講 I, II, III	4				

※ 日本語Fは外国人留学生のみを対象とする科目で1年次生より履修できる

※ 歴史哲学は歴史思想史の名称変更

※ 民衆宗教成立史は民衆仏教成立史の名称変更

7. 再履修科目の履修方法

イ. 再履修とは、前年度履修登録し単位を修得できなかった授業科目（受験しなかった科目を含む）を、翌年度に再度履修することをいう。この場合授業科目名が同じであれば担任教員に変更があっても同一科目の再履修となる。

ロ. 翌年度に再履修しないで翌々年度以降に履修する場合は、新履修とみなして制限科目数内で履修しなければならない。（休学の場合も同様）

ハ. 再履修の科目は、新履修の授業科目と同時に届出なければならない。

ニ. 外国語・体育実技・保健体育理論および宗教学Iを再履修する場合は、それぞれの「再履修クラス」（本校で授業を行う）で履修すること。ただし、留年者で同級学年の科目を再履修する場合は正規クラスで履修すること。

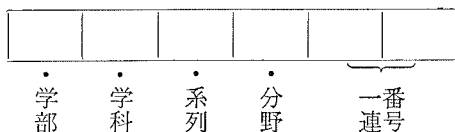
ホ. 1年次生は再履修クラスを履修することはできない。

※コード番号について

1. 授業科目コードの設定方法

科目コードは6桁の数字とし、その各位の数字の意味を持たせている。

(a) 科目コードの区分



(b) 学部, 学科番号は学生番号欄での説明のとおり

(c) 系列, 分野区分について

授業科目の区分	系列番号	分野番号
一般教育科目	0	
人 文 分 野		1(必修), 2(選択)
社 会 分 野		3
自 然 分 野		4
基礎教育科目	1	2
外国語科目	2	
第 1 外 国 語		
第 2 外 国 語		
保健体育科目	4	
体 育 実 技		1
保 健 体 育 理 論		2
専門教育科目	5	
必 修 科 目		1, 2, 3
選 択 科 目		5, 6, 7, 8
随意科目	7	
再履修科目	8	
課程・講座科目	9	
必 修 科 目		1
選 択 科 目		2
教 科 科 目		3, 4, 5, 6, 7, 8

Ⅳ 履修科目の登録(履修届)とその作成順序

1. 履修科目の登録

毎学年次所属する学科，学年に開講されている授業科目の中から履修を希望する科目を授業時間表より選び，所定の「単位履修届」用紙に必要な事項を記入し届出ることにより，通年（または半期）授業を受けることができる。

I) 各年次において履修できる最高授業科目数（制限科目数）は次表の通りとする。

	新履修科目数	課程・講座登録者科目数
1年次	15	—
2年次	14 科目 以内	17 科目 以内
3年次	14 科目 以内	17 科目 以内
4年次	1 科 目 以 上	

イ. 2年次生以上の再履修科目および随意科目は上記表の制限外とする。

ロ. 4年次生は最低1科目以上とし，最高制限を設けないが，卒業単位および授業出席に充分ゆとりのある履修をすること。

ハ. 半期科目も1科目とする。

II) 登録上の注意

イ. 履修届は指定された日時に必ず本人が記入捺印し，学生証提示の上提出すること。（提出しない場合は学業の意志のないものとして処理する。なお指定日時に提出できないものは事前に教務部窓口にご相談すること）

ロ. 履修届の日時，場所等についての詳細は原則として新年度成績発表前に教務部掲示板に発表する。

ハ. 所属する学科以外の授業科目は登録できない。ただし課程・講座等資格取得のため必要な科目は課程・講座科目として登録できるが，その場合は教職係窓口で受講承認印を受けてから提出すること。

ニ. 履修登録をしない授業科目はたとえ聴講，受験しても単位は与えない。

ホ. 授業科目の追加登録は一切認めない。

ヘ. 「単位履修届」用紙の注意事項をよく読んで間違いのないように登録すること。

2. 履修届記入上の注意

授業時間表 (例)

		月 曜 日			
		科目名	科目コード	担任	担任コード
一 時 限		ドイツ語1G	312201	百 済	879
二 時 限		保健体育理論(前)	314201	長 浜	993
		保健体育理論(後)	314201		622
三 時 限		宗 教 学 I	310101	平井(俊)	735
四 時 限		論 理 学	310203	国 嶋	429
		自然科学概論	310401	漆 原	121
五 時 限		体 育 実 技	314101	大石(武)	141

正しい記入例

曜日	時 限	再 履	科目名	科目コード	担任	担任 コード
月 (1)	1		ドイツ語1G	3 1 2 2 0 1	百 済	8 7 9
	2		保健体育理論(前)	3 1 4 2 0 1	長 浜	9 9 3
	3		宗 数 学 I	3 1 0 1 0 1	平井(俊)	7 3 5
	4	○	論 理 学	3 1 0 2 0 3	国 嶋	4 2 9
	5		体 育 実 技	3 1 4 1 0 1	大石(武)	1 4 1

1. 楷書体で正確に記入すること。
2. 記入の際は、必ず黒または青インクを使用し、捺印の上提出すること。
3. 授業時間表のとおり記入すること。
4. 半期終了の科目は欄の中央に点線を入れ、上に前期終了科目・下に後期終了科目を記入すること。
5. 再履修科目がある場合は、再履欄に○印をつけること。
6. 履修届はコンピューターで処理しているため、下記の場合、登録が無効となるので注意すること。
 - イ. 科目名・科目コード・担任名・担任コードが一致しない場合
 - ロ. 時限を誤って記入した場合
 - ハ. 間違い易い数字で記入した場合 (例, 0と6・1と7)
 - ニ. その他, 不明瞭に記入した場合
7. 体育実技の記入方法は、時間表に載っている, 科目コード・担任コードを正しく記入すること。
8. 自己の責任において、必ず指定された日・時・場所に提出すること。
9. 履修届の本人控を正確に記入し、紛失しないように保管すること。

3. 履修届（時間割）の作成順序

履修要項・授業時間表により、各自がそれぞれの学年次の履修科目を決定する訳であるが、その場合必修科目、選択必修科目、選択科目の順序で決定すること。また一般教育科目・外国語科目・保健体育科目および基礎教育科目は1・2年次で所定の単位を修得し、上級学年に進むに従い専門教育科目、課程・講座科目等を多く履修することが望ましい。

1年次生の場合、次表の順序で履修する科目を決定すると容易である。

（国文学科）

順序	授業区分	授 業 科 目（適用）	科目数
1	一般教育科目	宗教学Ⅰ（必修）	1
2	外国語科目	第1外国語, 第2外国語（選択必修）	4
3	保健体育科目	保健体育理論（半期）, 体育実技（必修）	2
4	基礎教育科目	基礎国語学, 基礎国文学, 基礎中国文学（必修）	3
5	専門教育科目	国文学講読Ⅰ（必修）	1
6	一般教育科目	人文分野 } 開講科目の中から計4科目選択必修 社会分野 } (不足単位は2年次で履修) 自然分野 }	4
1年次履修制限科目数			15

（英米文学科）

順序	授業区分	授 業 科 目（適用）	科目数
1	一般教育科目	宗教学Ⅰ（必修）	1
2	外国語科目	第1外国語, 第2外国語（選択必修）	4
3	保健体育科目	保健体育理論（半期）, 体育実技（必修）	2
4	基礎教育科目	英または米文学概論, 基礎英語ⅠA, ⅠB（必修）	3
5	一般教育科目	人文分野・開講科目の中から2科目を選択必修	2
		社会分野・開講科目の中から2科目を選択必修	2
		自然分野・開講科目の中から1科目を選択必修	1
1年次履修制限科目数			15

(地理学科)

順序	授業区分	授業科目 (適用)	科目数
1	一般教育科目	宗教学 I (必修)	1
2	外国語科目	第1外国語, 第2外国語 (選択必修)	4
3	保健体育科目	保健体育理論 (半期), 体育実技 (必修)	2
4	基礎教育科目	基礎地学, 基礎地理学 (自然地理学) (人文地理学) (必修)	2
5	一般教育科目	人文分野・開講科目の中から1科目を選択必修	1
		社会分野・開講科目の中から3科目を選択必修	3
		自然分野・開講科目の中から2科目を選択必修	2
1年次履修制限科目数			15

(歴史学科)

順序	授業区分	授業科目 (適用)	科目数
1	一般教育科目	宗教学 I (必修)	1
2	外国語科目	第1外国語, 第2外国語 (選択必修)	4
3	保健体育科目	保健体育理論 (半期), 体育実技 (必修)	2
4	基礎教育科目	基礎歴史学 (必修)	1
5	一般教育科目	人文分野・開講科目の中から2科目を選択必修	2
		社会分野・開講科目の中から3科目を選択必修	3
		自然分野・開講科目の中から2科目を選択必修	2
1年次履修制限科目数			15

(社会学科)

順序	授業区分	授業科目 (適用)	科目数
1	一般教育科目	宗教学 I (必修)	1
2	外国語科目	第1外国語, 第2外国語 (選択必修)	4
3	保健体育科目	保健体育理論 (半期), 体育実技 (必修)	2
4	基礎教育科目	社会学概論, 社会福祉概論, 心理学概論 (必修)	3
5	一般教育科目	人文分野 } 開講科目の中から計5科目を選択必修 社会分野 } (不足単位は2年次で履修) 自然分野 }	5
1年次履修制限科目数			15

V 試験および成績評価

1. 定期試験

- イ. 前期で終了する授業科目の定期試験は7月に、後期および通年の授業科目の定期試験は1月ないし2月に実施される。
- ロ. 受験にあたっては、正規の手続を経て登録した授業科目であること。
- ハ. 筆記試験のかわりにレポートの提出を課せられた場合は、主題、枚数、提出日時、提出先等をよく確認の上提出すること。なお指定された日時に遅れた場合は一切受理しない。
- ニ. 試験時間割は、原則として平常の講義の時限とし、時間および教場等については掲示で発表する。
(注意) 試験場は平常の授業教場と異なる。特に集中試験(同一科目を一括して行う試験)は曜日、時限とも変わるので試験時間および教場割等掲示を充分注意すること。

2. 中間試験

授業科目によって担任者が独自に行う試験(レポート提出を含む)のことをいう。従って試験は平常の授業に準じて行う。

3. 追・再試験

I 追試験

- イ. 追試験は、やむを得ない事由があり定期試験(レポート提出を含む)を欠試した場合受験することができる。その場合、欠試者は所定の欠試届にその事由を記し、自分の全ての試験終了後ただちに届け出ること。(締切日は掲示板参照)
- ロ. 追試験料は徴収しない。

II 再試験

- 1・2・3年次生については、再試験は一切実施しない。
卒業年次生に限り下記により実施する。
- イ. 卒業年次に履修登録した科目の定期試験を受験し、不合格となった科目は願い出により受験することができる。
- ロ. 受験料は1科目500円とする。

III 体育・外国語科目・その他

- イ. 体育実技・演習・その他実験実習を伴う科目は、追・再試験ともこれを行わない。
- ロ. 外国語科目についても追・再試験を行わない。ただし、定期試験を欠試した者は当該科目試験終了後一週間以内に担任教員に申し出て指導を受ける。

4. 成績評価・単位認定

- イ. 定期試験の成績は、優（100点～80点）・良（79点～70点）・可（69点～60点）および不可（59点～0点）とし、可以上を合格、不可は不合格とする。
- ロ. 所定の授業時間数の3分の2以上授業に出席し、合格の成績評価を得た授業科目については所定の単位を認定する。
- ハ. 追試験の成績評価は定期試験に準ずる。
- ニ. 再試験（4年次生のみ）の成績評価は70点以下とする。

5. 進級基準

◎正規進級

上級学年に進級する場合は下記の単位数の取得を要する。

- イ. 1年次から2年次に進級する場合、卒業所要単位のうち30単位以上。
- ロ. 2年次から3年次に進級する場合、卒業所要単位のうち60単位以上。
- ハ. 3年次から4年次に進級する場合、卒業所要単位のうち90単位以上。

ただし、90単位以上の者でも、一般教育科目・保健体育科目・外国語科目の必要単位数を全て取得していること。

◎注意進級

正規の進級基準には達しないが教育的配慮から進級を認める。ただし注意進級が再度つづく場合は、取得単位の不足から4年間で卒業することが困難となるので、今後十分に自戒して所定の単位数を取得するよう努めることが必要である。

- イ. 1年次から2年次に注意進級する場合、卒業所要単位のうち29～20単位までとする。
- ロ. 2年次から3年次に注意進級する場合、卒業所要単位のうち59～50単位までとする。
- ハ. 3年次から4年次に注意進級する場合、卒業所要単位のうち90単位以上を取得するもその内一般教育科目・保健体育科目・外国語科目の不合格単位数の合計が16単位までとする。ただし17単位以上は留年とする。

6. 受験者心得

- イ. 指定された試験場（教場）で受験すること。
- ロ. 学生証を所持しない学生は、いかなる理由があっても受験できない。また、学生証は監督者が見やすいように通路側に提示しておくこと。
- ハ. 試験開始より30分以上遅刻した者は受験できない。また開始後30分を経過するまで退場できない。
- ニ. 答案の作成はペン書き（ボールペン可）を原則とする。とくに、学部・学科・学年・番号・氏名は必ずペン書きにし、解答にかかる前に記入すること。
- ホ. 次の場合は退場を命じ、その答案を無効とする。
 - (1) 私語や態度の不正なもので注意しても改めないとき
 - (2) 許可なく物品・教科書・ノート類を貸借したとき
 - (3) 監督者の指示に従わないとき

へ. 次の場合には, その答案を無効とする。

- (1) 無記名のもの
- (2) 配布された答案用紙以外のものを用いたとき
- (3) 指定された場所に提出しないとき

ト. 答案用紙は指定の枚数だけ配布し, 原則として書き損じても再交付しない。

チ. 受験中に不正行為があつて, 当該教授会が不正行為と認定したときは, 学則第57条により懲戒する。

なお, 懲戒は全学に公示する。

リ. 以上のほか, 試験場内の秩序維持はすべて監督者の指示による。

Ⅵ クラス制およびクラス主任

- イ. 学科の実情に応じて、1・2・3年次にクラス主任若干名をおいている。
- ロ. クラス主任は、学生の学習指導、生活相談等に当たっているから、これらのことについては遠慮なく相談されたい。

Ⅶ 教職課程・資格講座

文学部で開講されている資格取得の課程・講座は、教職課程、学校図書館司書教諭講座、博物館学講座、社会福祉主事講座および社会教育主事講座である。

教職課程は、教員資格取得のためのもので、本学において教職課程の所定単位を修得したものは、中学校1級・高等学校2級の各普通免許状が取得できる。

学校図書館司書教諭、博物館学、社会福祉主事および社会教育主事の各講座は、学校教育を充実することを目的とする学校図書館、社会教育の場として十分に利用され、その目的、使命を達成する博物館、社会福祉を増進させるための機関等および青少年に対して行われる組織的な教育活動である教育施設の各専門職員となる有資格者を養成するために設けられている。

教職課程・資格講座の履修希望者は、1年次の秋（11月中旬）に実施するガイダンスに出席し、教職課程・資格講座の「履修要項」および「課程・講座受講登録カード」を受け取ること。

（授業科目の講義内容は当該履修要項の講義内容を参照すること。）

なお、ガイダンスの日時等については、実施1カ月前より掲示板で、その旨指示する。

○開講されている課程・講座

課 程 ・ 講 座		備 考
教 職 課 程	2年次より	
学校図書館司書教諭講座	//	
博 物 館 学 講 座	//	
社 会 福 祉 主 事 講 座	//	
社 会 教 育 主 事 講 座	//	

Ⅷ 事務取り扱いについて

1. 成績発表・成績証明書について

- イ. 前期終了科目・後期及び通年授業科目の定期試験の結果は書類で発表する。
- ロ. 成績の質疑については成績発表後5日以内に教務部⑨番窓口にて相談すること。
ただし、評価の質疑については直接担任教員に申し出て相談すること。
- ハ. 成績発表を受けるときは必ず学生証を持参すること。
- ニ. 成績証明書は卒業年度生以外は原則として発行しない。

2. 授業時間について

授業時間は次表のとおりである。

時 限	第1時限	第2時限	第3時限	第4時限	第5時限
時 間	9:00～ 10:30	10:40～ 12:10	12:50～ 14:20	14:30～ 16:00	16:10～ 17:40

3. 事務室の事務受付時間について

- イ. 事務室の事務受付時間は、9時より16時30分（土曜日は12時）までとする。ただし、昼食休憩時間は12時から13時とし、この時間は事務受付を休止する。
- ロ. 履修届提出・成績発表・各申込等の受付は9時30分より16時までとする。

4. 休講について

- イ. 休講は担任教員より連絡あり次第、休講掲示板（教務部事務室前ロビー）に掲示する。したがって、教場の黒板に書いて休講の連絡はしない。始業時間より30分経過しても連絡のない場合は、教務部⑦番窓口申し出てその指示を受けること。
- ロ. 運輸機関のストライキによる休講措置については午前7時現在国電（山手、中央、京浜東北）もしくは東急がストを行っている場合の授業は全面休講とする。

5. 掲示について

学生に対する公示・告示および学習上周知を要する事項は、すべて掲示板に発表するので、登校・下校の際は、必ず掲示板を見ること。また、学生個人に対する伝達事項も、掲示または、郵便・電話で連絡するので遅滞なくその指示に従うこと。

6. 問い合わせ

事務室への電話による質問（行事予定、休講、授業、学籍、試験、成績、その他）は、間違いを生じやすく事務に支障も生ずるので一切応じない。必要あるときは、必ず登校のうえ、掲示板を見るか、関係事務室窓口で問い合わせること。

Ⅸ 届出・願書について

(教務部扱いのもの)

種 類		要 領	必要書類	本人印	保証人印	取扱窓口
届	単 位 履 修 届	年度初頭の指定する期日に、各年度に修得しようとする授業科目(単位)を必ず届け出ること。	所定用紙あり	要	不要	掲示
	欠 試 届	やむを得ない事情で欠試した時は届出用紙に理由を書き、本人履修全科目の試験終了後ただちに届け出ること。(締切日は掲示参照)	所定用紙あり	不要	不要	⑨
	卒業論文論題届 (仏教・文学部のみ)	各学部掲示板にて指示するので、指定期間内に指導教授の承認印を受け、届け出ること。	所定用紙あり	要	不要	⑥
	改 氏 名 届	変更後1週間以内に届け出ること。	所定用紙あり 戸籍抄本1通添付	要	不要	⑤
	本 籍 地 変 更 届	変更後1週間以内に届け出ること。	所定用紙あり 戸籍抄本1通添付	要	不要	⑤
	保 証 人 変 更 届	変更後1週間以内に届け出ること。	所定用紙あり 在学誓書(保証書)添付	要	要	⑤
	保 証 人 住 所 変 更 届	変更後1週間以内に届け出ること。	所定用紙あり	要	不要	⑤
届 書	死 亡 届		所定用紙あり 死亡診断書添付	/	要	⑤
願 書	休 学 願	病気その他の理由で引き続き2か月以上修学することができない場合は、保証人連署の上願い出て休学の許可を得なければならない。	所定用紙あり 傷害・疾病による場合は医師の診断書添付	要	要	⑤
	復 学 願	休学した者が復学する場合は、毎学年の始め、保証人連署の上願い出て許可を得なければならない。「復学願」の提出は4月7日までとする。	所定用紙あり 傷害・疾病による場合は医師の通学可能である証明書添付	要	要	⑤
	退 学 願	傷病その他やむを得ない理由で退学する場合はその理由を付し、保証人連署をもって願い出て許可を得なければならない。	所定用紙あり 学生証添付	要	要	⑤
	転部(科)・転学願	事前に教務部に相談すること。	所定用紙あり (転学はなし)	要	要	⑦

X 各種証明書取扱い窓口

証 明 書 名	取 扱 窓 口	料 金
成 績 証 明 書	教務部④番	一通 100円 (英文証明書) 一通 300円)
卒 業 (見 込) 証 明 書		
学 士 証 明 書		
教 員 免 許 状 取 得 見 込 証 明 書		
単 位 修 得 証 明 書 (教職, 司書教諭, 学芸員, 社会教育, 社会福祉)		
一 般 教 養 科 目 修 了 (見 込) 証 明 書		
在 籍 証 明 書 (中途退学者に限る)	教務部⑤番	
人 物 考 査 書	就 職 部	
健 康 診 断 証 明 書	学 生 部 ③ 番	
在 学 証 明 書	学 生 部 ② 番	
学 割		無 料
通 学 証 明 書		無 料

※ 経理部前備付けの申込用紙に必要事項を記入し、手数料の証紙を貼付（郵送料は現金で経理部窓口に納入）の上、取扱い窓口に申し込むこと。

発行は原則として3日後。ただし教務部取扱い証明書は、6月下旬より10月中旬と3月は大変混雑が予想されるので、掲示に注意し、充分余裕をもって申し込むこと。

講義内容目次

一般教育科目(共通).....	(60)
外国語科目(共通).....	(65)
保健体育科目(共通).....	(66)
随意科目(共通).....	(69)
国文学科.....	(75)
英米文学科.....	(85)
地理学科.....	(94)
歴史学科.....	(104)
社会学科.....	(117)
教職および資格講座.....	(131)

一般教育科目（共通）

人文分野

宗教学 I (佐々木宏幹)60
 宗教学 I (洗 建)60
 宗教学 I (脇本 平也)60
 宗教学 I (山岡 隆晃)60
 宗教学 I (再クラス)(岡部 和雄)60
 宗教学 I (再クラス)(奈良 康明)60
 宗教学 II (青龍 宗二)60
 宗教学 II (峯岸 孝哉)61
 宗教学 II (河村 孝道)61
 宗教学 II (若月 正吾)61
 宗教学 II (石井 修道)61
 哲学 (門脇 俊介・中村友太郎)61
 論理学 (小宮山 隆・戸田 洋樹)61
 歴史学 (山口 一之)61
 文学 (新井 章)62
 芸術学 (日本美術)(竹内 尚次)62
 芸術学 (西洋美術)(中山 典夫)62

社会分野

法学憲法 (和知 恵一)62
 法学憲法 (高橋 政美)62
 経済学 (荒木 勝啓)62
 政治学 (小林 正敏)63
 社会学 (橋爪 敏)63
 文化人類学 (加藤 正春)63
 地理学 (渡邊 盾夫)63

自然分野

自然科学概論 (宇和川正人)63
 自然科学概論 (齊藤 浩三)63
 数学 (齊藤 浩三)63
 生物学 (菅原 敬)63
 心理学 (天野 珠子)64
 心理学 (小野 浩一)64
 人類学 (中島 寿雄)64
 地学 (宇和川正人)64
 化学 (高木 正博)64
 物理学 ()64

外国語科目（共通）

英会話 (N. Readdy)65
 英会話 (W. D. Hubbard)65

保健体育科目（共通）

体育実技66

随意科目（共通）

宗教学特講 I (松田 文雄)69
 宗教学特講 II (脇本 平也)69
 宗教学特講 III (洗 建)69
 哲学特講 I (東洋)(篠原 寿雄)69
 哲学特講 II (西洋)(国嶋 一則)69
 宗教人類学 (佐々木 宏幹)69
 民間信仰論 (谷口 貢)69
 日本宗教文化史 (脇本 平也)69
 民衆宗教成立史 (篠原 寿雄)70
 歴史哲学 (久保 陽一)70
 美術史概説 (林 良一)70
 東洋思想研究 (船津 富彦)70
 日本文化史 II (圭室 文雄)70
 日本仏教史 III (大野達之助)70
 日本民俗学 (小島 清志)70
 ドイツ語 F (栗原 万修)71
 ドイツ語 F L L (初級)(小林佳世子)71
 ドイツ語 F L L (中級)(松本 洋子)71
 フランス語 F (小玉 齊夫)71
 フランス語 F L L (初級)(松岡 宏一)71
 フランス語 F L L (初級)(マドレーヌ・マルタン) 71
 フランス語 F L L (中級)(マドレーヌ・マルタン) 71
 中国語 F (刈間 文俊)71
 中国語 F L L (初級)(果 荃英)72
 中国語 F L L (中級)(羅 濛明)72
 スペイン語 F (佐藤攻美子)72
 スペイン語 F L L (初級)(ホワン・ナバロ)72
 スペイン語 F L L (中級)(ホワン・ナバロ)72
 ロシア語 F (岡沢 宏)72
 ロシア語 F L L (初級)(タチャーナ・パリーソヴナ・野村)72
 ロシア語 F L L (中級)(タチャーナ・パリーソヴナ・野村)72
 日本語 F (初級)(留学生対象)(杉山 秀子)72
 日本語 F (中級)(留学生対象)(大塚 純子)72

一般教育科目(共通)

人文分野

宗教学 I

佐々木 宏 幹

「宗教とはなにか」という問題にたいして、これまで積みあげられてきた宗教学の研究成果を手がかりにアプローチする。この間に諸宗教形態の特質、宗教の種類、歴史、社会的機能、現代の意味などについて考察する。とくに仏教の世界観・人生観と実践体系について宗教学的に問題にしたい。

〔教科書〕 『宗教学ハンドブック』(世界書院)

宗教学 I

洗 建

宗教はあらゆる文化の基底をなしている。特定の信仰をもっていなくても、われわれは宗教文化の中で生きている。われわれは、宗教といかにかかわっているのか。身近な宗教現象を通じて、宗教の意義や役割の理解を目指したい。

〔教科書〕 『宗教学ハンドブック』(世界書院)

宗教学 I

脇 本 平 也

人間生活のあるところには必ず何らかの形の宗教現象が見られる。これは古今東西を通じて変らぬ一つの事実である。それでは、宗教はいかにして始まったのか、その歴史はどのように展開したか、また宗教にはどのような種類のものがあるか、といった疑問が続いて出てくることになる。これらの疑問にできるだけ体系的に答える努力を試みたい。

〔教科書〕 『宗教学ハンドブック』(世界書院)

〔参考書〕 脇本平也『宗教を語る』(日新出版)

宗教学 I

山 岡 隆 晃

宗教は人類に普遍的な文化的現象であるとの認識に立ち、宗教の社会的な意味や構造・機能について概観する。さらに、宗教文化の基層をなしているシャーマニズムや外来宗教としての仏教、及び両者の関係など、我が国における宗教現象の個別的な問題についても考えてみたい。

〔教科書〕 『宗教学ハンドブック』(世界書院)

〔参考書〕 佐々木宏幹『憑霊とシャーマン』(東大出版会)

宗教学 I (再クラス)

岡 部 和 雄

前半で宗教とは何かという問題を現代とのつながりの中で具体的に考えていく。後半では仏教に的をしぼり、その基本的輪郭を呈示したい。

〔参考書〕 『宗教学ハンドブック』(世界書院)、

脇本平也『宗教を語る—入門宗教学—』(日新出版)

宗教学 I (再クラス)

奈 良 康 明

人間生活における宗教、仏教の意味と機能、構造をあきらかにしてゆきたい。出来るかぎり、現代の私たちの生活とのかかわりの中で諸テーマを考える。

〔教科書〕 『宗教学ハンドブック』(世界書院)

宗教学 II

青 龍 宗 二

この講座は宗教学Iをうけて「禅仏教」を講じてゆくが、特に建学の理念を留意しながら、道元禅師の禅思想を通して、その現代的意義をも考えてゆきたいと思う。

宗 教 学 II

峯 岸 孝 哉

中国で成立し、大いに展開をとげた禅仏教の解説を目的とする。まずインド、中国、日本における禅仏教の歴史について述べ、続いて禅仏教の思想的構造について考える。さらに禅仏教のもつ今日的意味や機能について考える。

〔教科書〕 『宗教学II』（更生社）

〔参考書〕 『宗教学ハンドブック』（世界書院）

宗 教 学 II

河 村 孝 道

日常的立場と宗教的立場における視点の相違について理解、禅仏教の立場の思想的理解および宗教（禅）と人生との関り合いとそこからの種々の問題について考察する。

〔参考書〕 『宗教学ハンドブック』（世界書院）
『宗教学II』（更生社）

宗 教 学 II

若 月 正 吾

昭和の初期、和辻哲郎博士の「沙門道元」によって近代における道元禅師の日本精神史上の位置づけがなされ、続いて秋山範二氏の「道元の研究」さらには田辺元博士の「正法眼蔵哲学私観」の著書によって、道元禅師の研究は学界の注目するところとなった。

道元禅師の著書「正法眼蔵」の研究は戦後ますます旺んになったが、その内容はまことに難解とされている。

「正法眼蔵随聞記」は禅師の弟子懷辨禅師が親しく随侍した間に、教えを聞くに随って書きとめたもので、正法眼蔵研究の手がかりとなる好個の書である。随聞記を講読することによって、道元禅師の思想ならびに禅とは何かということを探索してみたいと思う。

〔教科書〕 大久保道舟校註『正法眼蔵随聞記』（山喜房佛書林） ¥ 1,000

宗 教 学 II

石 井 修 道

駒沢大学で行なわれている宗教学IIとは、宗教学とは何か、仏教とは何かを学んだ宗教学Iの後を承けて、禅とは何かについて具体的に学ぶ科目である。インドから

やって来たダルマを開祖とする禅は、何よりも実践を重んじているので、第一はその思想が生まれてくる背景は何かをまず学びたい。次にダルマ以降に発展する禅では、自己への問いかけを最重要課題とするので、第二は禅でいう自己とは何かを問題にして行きたい。第三は禅の歴史の上にあられる個性的な禅者を通して、禅が何をめざしているかを考えたい。

〔教科書〕 山内舜雄編『宗教学II』（更生社） ¥1,950

哲 学

門 脇 俊 介 ・ 中 村 友 太 郎

人間は生れつき、知識の営みをするように定められている。人間のもつどんな知識でも思想を表わし、人間はその思想によって生きている。しかしわれわれの日常生活では、自分がどのような思想によって生きているのか自覚がない。それは、伝統的思想に支配されているからである。われわれが「よりよく生きる」ことを願うならば、一定の目標を定めなければならない。そのためには自覚した思想をもたなければならない。哲学は、古代から現代に至るまでの自覚された思想を研究し、さらにそれを自らの生きるための思想とするものである。また大学における学問研究の基礎知識にも努める。

〔教科書〕 『哲学思想の歴史』（公論社）

論 理 学

小 宮 山 隆 ・ 戸 田 洋 樹

論理学は、正しく思考するためには「いかに思考すべきか」を教える科学である。ここでいう思考は、推理という型の思考である。われわれは、学問する場合はむしろのこと日常生活においても、たえず思考しているが、必ずしも正しく思考しているとはかぎらない。したがって、論理学によって正しく思考するための法則を学ばなければならない。さらに、現代の科学技術や電算機の基礎になっている論理法則の理解や習得をする。

〔教科書・参考書〕 その都度指示する。

歴 史 学

山 口 一 之

政治史の観点からの幕末維新史の講義を行います。

文 学

新 井 章

日本の詩歌の歴史を概括的に把握する。上代・中世・近世・近代の時代に分けて考察し、新しい詩歌の方向をさぐる。特に中世に重点をおく。

〔教科書〕 『小倉百人一首の世界』(三弥井書店)
¥ 1,400

〔参考書〕 『日本韻文史』(桜風社) ¥ 1,800

芸 術 学 (日本美術)

竹 内 尚 次

日本美術は、わがくに戦国・桃山時代の近世(応仁乱以降)に入って、ようやく宗教の絆から開放されて、独自の芸術としてのアユミをはじめた。逆説すれば、日本の美術は、まず、仏教美術のジャンルにほとんど包摂されていたと云うことができる。

この時間では、禅林美術を解明するために、いちおう日本の上代・中世の仏教美術の流路を参照とする。

具体的には、国宝や重要文化財などテピカルな作品を採り上げ、その研究データを検討して、そのなかから、美術作品の高い芸術性(詩)、いわば、ヒトの心を叩き、捉えるトコロの所在を相互に模索する。

〔参考書〕 竹内尚次著『近世禅林美術』(至文堂)
玉村竹二著『夢窓国師』(京都平楽寺書店)

芸 術 学 (西洋美術)

中 山 典 夫

西洋美術の歴史を、古代から、中世を経てルネサンスに至るまで、作例を多く挙げて展示する。講義にはスライドを用いる。

社 会 分 野

法 学 憲 法

和 知 恵 一

58年4月18日付の朝日新聞によれば、サラ金苦による自殺者は132人、心中は53人、殺害された者は15人にのぼるとのことである。借金の動機は多様であろうが、悲劇の原因は返済計画の杜撰さと共に法律知識の欠如にある。もう少し法知識があれば命を落とさずに済んだであろうと思うと残念である。

また、多数の人命を奪った犯人が事情によっては罪に問われない場合がある(例えば日航機墜落事故)ことに疑問を持った諸君も多いのではないだろうか。

「法」は我々の社会生活の中でいかに機能しているのであろうか、又いかに活用してゆけば良いのであろうか等について豊富な事例を挙げて講義していく。

〔教科書〕 小林・花井・高橋・和知共著『事例法学入門』(東京教学社)・『小六法』

法 学 憲 法

高 橋 政 美

一般的に、法学学習の目的は Legal mind の把握と言われる。本講ではそれらに留意しつつ、法学・憲法の基礎理論の考察を試みる。

〔教科書〕 小林弘人、高橋政美他著『事例法学入門』(東京教学社)

経 済 学

荒 木 勝 啓

不況の時になぜ公定歩合を下げるのか?国際収支が赤字の時になぜ公定歩合を上げるのか?円高円安とはどういうことなのか? こうしたことがらを「理論」にもとづいて説明するのがマクロ経済学である。この講義では1年をかけてマクロ経済学の基礎から応用までを解説する。

〔参考書〕 中谷巖『入門マクロ経済学』(日本評論社)

政治学

小林 正 敏

現代政治学の諸課題を、その理論、歴史、制度など多面的な視野から取り上げることにしたい。また社会学科の政治学であることを考慮して、政党、圧力団体、選挙、政治意識などは、政治社会学的な考察にも意を用いたい。

〔教科書〕 高橋正則他『現代日本の政治構造』（芦書房）

社会学

橋 爪 敏

社会学という学問のもつ研究対象や性格は、ほかの社会諸科学と比べた場合、あまり理解しやすいものとは言えない。それは、社会学のもつ一種独特の学問的性格や対象の設定に基づくものであろう。社会学は、名称の示すごとく、社会を研究対象とするものであるがそれを常に具体的、現実的な人と人との関係的現象、集团的現象に還元して考察、理解し、さらには理論的に体系化する志向をもつ。そこで、この講義では、このような社会学独自の社会現象の見方、考え方、また基礎的な知識をテキストをもとに理解し、考えていくこととしたい。

〔教科書〕 安藤喜久雄ほか編『社会学概論』（新版）（学文社）

〔参考書〕 安藤喜久雄ほか編『わかりやすい社会学』（学文社）

文化人類学

加 藤 正 春

文化人類学の基本的な概念、方法、課題等を講述する。できるだけ具体的な事例をあげながら、社会組織、宗教・世界観、文化変化といった人類生活の諸側面を検討する。また、現在フィールド・ワークをおこなっている沖繩や本土の民俗社会の事例を紹介し、われわれに身近ないくつかの問題も考えてみたい。

参考書類は講義の中で適宜紹介する。

地理学

渡 邊 盾 夫

この講義では、地理学史に始まり「自然環境によって異なった社会が成立している」ことから自然環境、社会環

境を説明し、人間がどのように各々の環境に適応しているのかを講義する。

講義では、特に教科書は使用しないが、必要な時にはプリントを配布する。

自然分野

自然科学概論

宇和川 正 人

自然環境、水資源および農林水産資源の諸問題について解説する。あわせて、資源の開発利用と人類とのかわりあいについて考察する。

自然科学概論

斉 藤 浩 三

まず、地球の構成ならびに性状を概述し、ついで、地圏に関する諸事象とくに自然災害と関連の深いものを解説し、さらにエネルギー問題や環境問題をとりあげて講義する。

数 学

斉 藤 浩 三

現代は情報化時代といわれる。産業、経済、社会、学術のあらゆる分野において、膨大な量のデータが氾濫しているが、このような情報化社会において、主要な役割りを演じているものは統計数値である。したがって、情報を有効に利用するには統計的手法が必要である。調査資料の集計と整理、図表の作成、集団の特性、相関、分布、検定、標本調査など実際に役立つ事項について、例題を示して講義する。

生 物 学

菅 原 敬

生物のもっているいくつかの基本的な特徴について解説していく。話題としてとりあげる内容は、主に生物の基本単位である細胞の構造と機能、生物の増殖（細胞レ

ベル、分子レベルの増殖を含む)能力、そして恒常性(ホメオスタシス)の維持機構等についてである。

〔教科書〕 『Bioscience (生命の科学)』(芦書房)
¥ 2,000

心 理 学

天 野 珠 子

この講座は、一般教養科目に組入れられているので、心理学を始めて学ぶ学生を対象に、心理学の基礎的分野のそれぞれについて概観し、現代心理学の理解と、日常生活への適用を捉えて行きたい。

心理学を学ぶことで、人間の行動や精神を客観的に把握することができると、社会生活における人間関係や物の見方が変わってくるものと思われる。従来研究成果をもとに、具体的事例を紹介しながら講義を進めてゆきたい。

〔参考書〕 『心理学概説』(八千代出版)

心 理 学

小 野 浩 一

心理学全般にわたって基礎的な問題を概観し、心理学的なものの方の見方、考え方とはどのようなものであるかを考えてゆきたい。講義は以下の項目にしたがって進めてゆく予定であるが、随時供覧実験などを折り込み、心理学研究の雰囲気も味わってもらいたいと思っている。

○心理学とは何か(対象・方法) ○環境の認知(感覚、知覚) ○行動の変容(学習、記憶、思考) ○行動の機制(動機づけ、情動) ○人格の構造 ○社会的行動

〔教科書〕 中村昭之監修『心理学概説』(八千代出版)

人 類 学

中 島 寿 雄

人類学の範囲はきわめて広く、短時間にその各項目を講ずるときは、表面をなでるだけの散漫なものになりがちなので、ここでは問題を「性」にしぼって講ずる。性は年令とともに人類学上の重要な概念であるばかりでなく、人類学のほとんど全領域をおおいうものだからである。本学の人類学は一般教育のうち自然科学分野に属しているので、講義も自然科学的方面に主眼をおくことは勿論だが、ヒトの本質上、またヒトの性の本質上、社会や文化にも言及せざるをえず、むしろ身体と文化との関連を考究させることこそ、人類学一般教育の目的に副うものというべきであろう。

〔教科書〕 準備中

〔参考書〕 講義中に随時指示する。

地 学

宇和川 正 人

気・水・地圏および生物圏を通じて人類とのかかわりあいについて解説する。あわせて、自然環境の保全に関する諸問題について考察する。

化 学

高 木 正 博

まず、化学の領域における基礎的な諸事項を解説する。つぎに、地球化学および環境化学の立場から、化学物質と自然環境の結びつきや、さらにいくつかの身近な化学物質をとりあげ、化学物質と人間のかかわりあいについてのべる。

物 理 学

開講時に指示する。

外国語科目(共通)

英 会 話

N. Readdy

The textbook used in this class [ENGLISH 900] is an audiolingual method and requires tapes [about 15 minutes per class] as well as class participation, both group and individual. ENGLISH 900 comprises the 900 sentences which are considered essential for speaking every day English. The student will be drilled in the sentence patterns contained in this book until he can use them with ease as well as make substitutions using the sentence base as a guide. There will be two examinations each school year. Students are required to attend both.

TEXTBOOK : ENGLISH 900. Book 3. COLLIER MACMILLAN INTERNATIONAL The English 900 series consists of 6 books with 10 chapters per book. In this class we will be using Book 3 only.

英 会 話

W.D. Hubbard

This aural comprehension and speaking oriented course is designed for those students who either expect to study English conversation for just one year or plan to further their competence through subsequent classes. The ability to communicate in English is a very useful ability to have. Through the use of effective linguistic methods, this course is designed to help you acquire the ability to successfully communicate your ideas in English.

The text for this course will be ENGLISH 900, Book 3. Tapes for this text will also be made available during the course.

保健体育科目(共通)

実技種目の概要及び指導教員名

一年次生種目〈玉川校舎〉

室内球技(玉川体育館)

牧野 茂・光永 吉輝
田中 佳孝・村松 誠
秋田 浩一・久保田洋一
竹田 幸夫

バレーボール、バスケットの基礎技術の習得とともに、ゲームにより、その競技を理解する。

服装：一般的運動服装，上履用シューズ

体操(玉川体育館)

三幣 晴三・竹田 幸夫

マット、鉄棒などを中心に、初心者を対象とした遊戯的内容から出発し、段階的に技を習得する。

服装：一般的運動服装，体操シューズが望ましい。

トレーニング(玉川体育館)

高橋 俊介・秋田 浩一
武藤 幸政・高森 秀蔵

個人の体力差に応じたトレーニングプランを作成し、主に最新のトレーニング器械を使用した体力トレーニングを行う。このトレーニングの目的は体力の増進、内臓器官の強化である。

服装：一般的運動服装，上履用シューズ

柔道(玉川体育館)

光永 吉輝

初心者を対象として基本技能(受け身)、応用技能(投げの形)(固の形)等の練習を行う。服装は原則として柔道衣。

剣道(玉川体育館)

上山 智身

剣禅一致の精神に基き、初心者を対象として次の順序で実施する。

1. 基本動作
2. わざ
3. 懸り稽古，互格稽古
4. 試合稽古

服装・試験については最初の授業において説明する。

空手道(玉川体育館)

大石 武士・高橋 俊介

拳禅一致の精神に基き、初心者を対象として下記の順序で実施する。

1. 基本技(空気を相手に、受、突、打、蹴技の反復練習)
2. 形(基本の受、突、打、蹴を合理的に構成したものを空気を相手に行う)
3. 護身術
4. 約束基本組手(基本技で取得した、受、突、打、蹴技を実際に相手をおいて行う簡単な約束した組手)

服装は原則として空手道衣着用のこと。

相撲(玉川体育館)

館岡 儀秋

基本技(攻の型・守りの型)の練習を主に、併せて応用技の習得を行い、心・技・体三則の本義を理解させる様指導する。

土俵マットを使用する。服装は海水パンツ等の上に相撲パンツを着用する。

陸上競技(玉川グラウンド)

森本 葵

駒大式四種競技(100米，長距離，砲丸投，走高跳)

を行い、得点制とする。

服装はランニングパンツが望ましいが、普通のトレパンでも可。なお、スパイクの着用は原則として認めない。

ソフト・ボール（玉川グラウンド）

太田 誠・館岡 儀秋
高森 秀蔵

基本技能を中心として毎時間ゲームを行う。服装はトレシャツ、トレパン。グラブ、ミットは貸与する。

サッカー（玉川グラウンド）

原山 良勁・田中 佳孝
秋田 浩一

基本技術を中心として練習し、毎時間ゲームを行う。服装はショートパンツと厚い靴下を着用すること。

ハンド・ボール（玉川グラウンド）

村 松 誠

パス、シュート等基本技術を中心にゲームを行う。服装は、トレシャツ、トレパン、運動靴を用意すること。

テニス（玉川グラウンド）

牧野 茂・田中 佳孝
浅野 鉦世・関本美津子

ゲーム（ダブルス）中心の授業を行う。服装は、一般的運動服装（白のトレーニングパンツまたは短パンツが望ましい）とするが、靴はテニスシューズを用意すること。

卓 球（玉川校舎）

宮沢 栄作・村松 誠
秋田 浩一・関本美津子

ゲーム（シングル、ダブルス）中心の授業を行う。服装は体育時のもので良い。室内履シューズを用意すること。ラケットは貸与する。

太 極 拳（玉川体育館）

大 石 武 士

太極拳の基本的な動きを習得し、精神・身体の健康を増進する。服装その他の注意は第一時限目に説明する。

ゴ ル フ（玉川グラウンド）

三 幣 晴 三

ゴルフスイングの基礎技術の習得とともに、ゴルフで最も肝要とされるルールとマナーの基本的理解により、正しいゴルフの精神を身につける。服装は一般的運動服装とする。

実 技 教 場 案 内

玉川体育館・グラウンド・校舎：

世田谷区宇奈根1-1-1（学生手帳を参照）

TEL (709) 0717

再履修生種目〈本校〉

室 内 球 技（本校体育館）

長 浜 友 雄 ・ 原 山 良 勁

基礎技術の習得と併せて、ゲームにより、その競技を理解する。（バレーボール、バスケットボール、その他）

服装：一般的運動服装、上履用運動靴。

空 手 道 (本校第二体育館)

大 石 武 士

拳弾一致の精神に基き、初心者を対象として実施する。服装は原則として空手道衣着用のこと。

剣 道 (本校第二体育館)

上 山 智 身

剣禅一致の精神に基き、初心者を対象として実施する。服装・試験については最初の授業において説明する。

実 技 教 場 案 内

- (1) 本校体育館：本学内，男子更衣は三階東側スタンド（ステージに向い左側）。女子は三階西側の更衣室（ステージに向い右側）。
TEL (418) 9517・9213
- (2) 本校第二体育館：本学内，相撲道場の隣，一階は柔道場，二階は剣道・空手道場。更衣室は各階にある。
TEL (418) 9201

随意科目 (共通)

宗教学特講Ⅰ

松田文雄

——宗教思想および用語の概説——、特に教職単位であることを考慮し、宗教思想の潮流、および宗教思想史上の基本的用語を概説する。今年度は日本仏教を取り上げる。

〔教科書〕 プリント

〔参考書〕 随時指示する。

宗教学特講Ⅱ

脇本平也

——宗教現象の構造——宗教現象は、その内部にさまざまな構成要素をはらんだ複合的な体系をなしている。たとえば、宗教体験、思想・教義、儀礼、教団などの諸契機が構造的に関連しながらこれを形成している。そうした構造の分析と類型化を試みる。

〔教科書〕 脇本平也『宗教を語る—入門宗教学—』
(日新出版)

宗教学特講Ⅲ

洗 建

現代社会における宗教の問題、とりわけ政教関係の問題をとりあげる。国家と宗教の関係を規定する法制度とその価値規範、更に底流をなす宗教文化との関係などについて考察する。

〔参考書〕 適時、指示する。

哲学特講Ⅰ (東洋)

篠原寿雄

中国の哲学・東洋思想を理解しようとする、儒教・仏教、そして道教の学習は欠かせない。そこで前期は老荘の学と道教を学びたい。後期には墨子の非命、非儒などの精神が韓非子にいかに関容されたかなどを中心に、先秦の人びとの心にあるものを探りたい。

〔教科書〕 その都度紹介したい。

哲学特講Ⅱ (西洋)

国嶋一則

人間は、何かを頼りとし支えとしなければ生きてゆけない。しかし日常、われわれは自己の人生の頼りとなり支えとなるものを自覚していない。それを自覚することは、自分がどのような生き方をしているのかを知ることである。つまり主義に拠り主張をもって生きることである。

歴史上の大きな主義を検討することによって、現代世界の有力な主義を明確にし、自己の持つべき主義を選択する手掛りとしたい。

〔参考書〕 その都度示す。

宗教人類学

佐々木宏幹

日本・東アジア・東南アジア各地の諸社会に関する宗教人類学的な研究成果を取りあげ、検討する。宗教的観念と社会組織との関係や宗教儀礼の構造、社会—文化的意味についても考察する。テキストはその都度紹介する。

民間信仰論

谷口 貢

地域社会住民のあいだに伝承されてきた村祭り・年中行事・人生儀礼など各地の具体的な事例を取りあげながら、民間信仰の性格と構造について考察を加える。

〔教科書〕 桜井徳太郎著『日本民俗宗教論』(春秋社)
¥ 3,800

日本宗教文化史

脇本平也

——宗教思想論争——昨年度に引き続き、日本における宗教思想の対立・論争の事例をいくつか取り上げ、文化史的背景を考慮しながらながめてみる。原史料を読む場合には、演習形式を取り入れて学生諸君にも分担を課することがある。

〔参考書〕 適時指示する。

民衆宗教成立史

篠原 寿雄

特定の教祖も詳かでなく、その教義も体系化されず未組織である民衆宗教には、民衆思想史の上からも解明をまたれる多くの課題を蔵している。今年度はそれら民衆宗教の中で現に中華民国にて崇敬され信仰されている軒轅教や一貫道などを中心に考究したい。これらは現在、彼の国できわめて熱い眼ざしで見つめられている宗教である。

〔教科書〕 その都度紹介したい。

歴史哲学

久保 陽一

歴史哲学とは、歴史に関する哲学である。そしてこの哲学によって、われわれは「いかに生き、何を行為すべきか」を学ぶのである。そこで、次のような歴史についての反省や考察をする。

I 歴史の概念。II 歴史の意義。III 歴史の叙述
〔1〕 a. 文書の選択, b. 記録命題, c. 還元推理による因果的説明。IV 歴史の叙述, 〔2〕 a. 歴史を動かす意志, b. 表現。

〔参考書〕 その都度示す。

美術史概説

林 良一

中国の魏晋南北朝より朝鮮の三国時代を経て、わが国の飛鳥・白鳳期の美術にいたる様式的展開について講述する。各地の寺院遺跡や遺品などのカラー・スライドを映写し、視覚的に理解を深めるように努める方針である。

東洋思想研究

船津 富彦

東洋の思想はいろいろな面から取りあげて研究することが出来るが、本年度は主に中国の文学を主材として、それ自体の主張と、儒・仏などの関係を加味して、歴史的にその発展を考察してみたい。

日本文化史 II

圭室 文雄

日本文化のなかで、とくに日本の宗教の問題についてとりあげることにしたい。ここでは古代から現代に至るさまざまな宗教について吟味を加えることにし、それぞれの時代の文化にどのような影響を与えたかを検討したいと思う。

〔教科書〕 『日本人の宗教の歩み』(大学教育社)

〔参考書〕 『神仏分離』(教育社新書)

日本仏教史 III

大野 達之助

平安朝の仏教、すなわち日本天台宗と真言宗の成立と特色を説いて奈良朝仏教との相違を論じ、天台・真言二宗の発展を説き、ことに天台宗の密教化の中から鎌倉新仏教が誕生するに至る経過を論ずる。そして新仏教諸宗派の宗祖の伝記、各宗の思想的特色、さらに旧仏教の復興にも触れる予定である。

〔教科書〕 『新稿 日本仏教思想史』(吉川弘文館刊)

日本民俗学

小島 清志

前半は、柳田国男以来展開されてきた民俗学の学説史を概観し、何が問われ、どのような方法によってきたのかということ、いささかなりとも明らかにしたい。後半は奄美・沖縄におけるフィールドワークにもとづきながら、現代の民俗学の諸問題、特に民俗社会の変化、都市・農村問題について考察することとしたい。

〔参考書〕 講義の中で随時指示する。

ドイツ語 F

栗原万修

ドイツ民話と日本民話(独文)を読みくらべ、比較文学的、あるいは心理学的な比較なども一緒に考えてみたい。できるだけ読みやすいものを選び、テキストはその都度配布する(無料)。

ドイツ語 F L L (初級)

小林佳世子

意志疎通の基本的な条件である聴き取り能力を養うために、音声としてのドイツ語に重点をおく。テープやビデオを用いて、現代の生きたドイツ語に触れ、正しい発音、基本的な文型や語彙を身につけ、やさしい日常会話ができるようにしたい。

ドイツ語 F L L (中級)

松本洋子

一年次のドイツ語(1G, 1R)を終えた者を対象に、ビデオテープなどを用いて、一年次ですでに修得した基本的な文型・語彙が自在に会話などに活かせるようにしていきたい。

フランス語 F

小玉齊夫

「フランスの地理・歴史・文化」

ことばの背景をつくりあげている、さまざまな風俗・習慣を、浅く広く、ということにはなるでしょうが、視聴覚の教材をも用いながら、なるべく多角的に、随時、基礎的な知識の再構成をはかりつつ、辿りなおし、ことばの習得への根柢を、あらためて、整備・形成していきたいと思います。

〔教科書・参考書〕 適宜、指示します。

フランス語 F L L (初級)

松岡宏一

学生諸君に L L を受講すると同時に他のフランス語正

科を何かひとつ聞いていただくことをお願いいたします。テキストは昨年同様 HACHETT 社の「LE FRANÇAIS ET LA VIE」を使います。(ただし使うページを重複しないように注意いたします)。音はテープを使用、教室は新装の L L 教室を使います。

ともかく、会話というものは、ただだまって聞いていれば自分は何一つしゃべらなくとも上達するものだと考えているらしい学生諸君の思いちがいを矯正、聞きとりの訓練と、貝のように閉じられた口を開かせるために努力したい考えです。

学生諸君は教師にいびられているとは思わず、やさしくシゴカれているのだとお考え下さい。

〔教科書〕 LE FRANÇAIS ET LA VIE

フランス語 F L L (初級)

マドレーヌ・マルタン

フランスの視聴覚教材「Vive Voix」による実用フランス語会話入門、絵を使って単語の組合せ練習、さらに様々のシチュエーションに応じた表現方法に慣れさせ日常会話の基礎を養成する。テキストは教室で配布。

〔教科書〕 『Vive Voix』

フランス語 F L L (中級)

マドレーヌ・マルタン

初級クラスと同じ方法で、原則的には同テキストの7課または8課から始める。(履修学生の語学力によって多少の変更あり) 初級よりより一般的な会話を目的にする。

中国語 F

刈間文俊

主として2年次まで中国語を学んだものを対象とし、近年の文学作品をひろい読みする。1979年以降にわかに活発化した文壇から、世代やジャンルを越えて短編小説や詩などを選び、文学表現の面から中国語にどのような変化が起きつつあるかを考える一助としたい。巴金、王安憶、舒婷などの作品を読む。

〔教科書〕 開講時に教場で指示し、配布します。

中国語 F L L (初級)

果 荃 英

中国語初級を終えたものを主たる対象とし、正確な発音をマスターし、やさしい中国語の会話を習得することを目的とする。視聴覚教材を使用して楽しく授業を進めたいと思う。

〔教科書〕 プリントを配布する。

中国語 F L L (中級)

羅 漾 明

この授業は中国語初級 F L L で勉強した人及び2年間中国語を勉強した人又は同等学力を持っている人を対象とします。

会話を主として、中国映画などを補助教材として随時 사용합니다。

〔教科書〕 教室で指示します。

スペイン語 F

佐 藤 玖美子

この授業は、1・2年で習得した知識を更に発展、深化させることを目指すものです。特に講読力と作文力の養成に力を入れたいと思います。テキストとしては、スペインや中南米諸国の若者たちが書いた郷土紹介をコピーで用意する予定です。

スペイン語 F L L (初級)

ホワン・ナバロ

初心者を対象に、スライドやビデオを見ながら、やさしい日常会話を勉強します。

スペイン語 F L L (中級)

ホワン・ナバロ

前年度 L L 初級を終えたもの、またはそれと同等の学力を身につけているものを対象に、ビデオを見ながら、日常会話を勉強します。

ロシア語 F

岡 沢 宏

本講座はロシア語初級課程を終えたものを主たる対象とする。ロシア語の読解力と表現力の養成を目標とする。名文といわれる様々なスタイルのロシア語の文章に接することにより、ロシア語のもつメリハリのある美しさと力強さを味わっていただきたいと思う。

〔教科書〕 教場にて指示します。

ロシア語 F L L (初級)

タチャーナ・バリーソヴナ・野村

テキストに従いやさしいロシア語の日常会話を学習する。正しいロシア語の発音やイントネーションを練習し簡単なロシア語の表現力を身につけることを目的とする。

〔教科書〕 『ロシア語を話しましょう』を使用する。

ロシア語 F L L (中級)

タチャーナ・バリーソヴナ・野村

初級課程で得た知識を土台に更にロシア語独特な生の言いまわしや、日常会話の平均的速度になれてもらい、自由な発話への第一歩となる様に心がけていきたい。

〔教科書〕 教場にて指示。

日本語 F (初級) (留学生対象)

杉 山 秀 子

本講座は昭和57年度に初めて設置された留学生のための日本語の随意科目である。日常生活における意志伝達にはさほど苦勞しないが、若干こみいった内容の聴きとりや説明、正しい表記・用語法などに困難を感じている留学生諸君は是非受講されることが望ましい。なお、受講者の日本語のレベルもバラバラであると予想されるので、授業の最初に簡単なアンケートとテストに答えてもらい、その後に細目について詳しく説明する。授業では最新の日本語教育用のビデオやスライド等を駆使しつつ、現代生活に密着した正しい日本語を修得することを旨としていきたい。

〔教科書〕 面談の上決定します。

日本語 F (中級) (留学生対象)

大塚純子

日本語 F の初級課程を終えたもの、あるいはそれと同等の学力を有する留学生を対象とし、日本語での発表能力や、表記・表現法をさらに高め、深化させていく。授業では適時、新聞・雑誌の読みあわせや、NHK の教養番組の聴きとり、ニュース解説、日本映画等のビデオ録画をとりあげて、偏りのない日本語の総合力を身につけることをめざしたい。

——一週間に一度は必ず小テストをし、レポートの提出を義務づけるので授業はなるべく休まないこと。

〔教科書〕 教場にて指示します。

国 文 学 科

基礎教育科目

基礎国文学

片 岡 懋

日本文学の上代から現代に至る流れを、各時代の代表的な作品によって具体的に捉え、併せて作品の捉え方を説明し、文学作品とはどういうものかを考える。

基礎国文学

前期 水 原 一
後期 富 士 昭 雄

日本の古典文学と近代文学との関連を見渡し、あるいはその比較検討を通して、文学上の種々の問題に対する基礎的な理解を深める。具体的に作品に即して研究上の基礎的な知識を養い、また広く日本文学の流れにも考察を進める。

〔教科書〕 プリントを適宜配布する。

基礎国文学

高 橋 文 二

古典的教養をもった近代の詩人の歌を読み、国文学の伝統というものを考えてみたい。併せて国文学に関する基礎的な知識にも触れる。

〔教科書〕 日本詩人全集16『釋道空，会津八一』
(新潮社) ¥ 800

基礎国語学

木 村 晟

国語を愛し、正しく育てるために十分な理解と批判力を養いたいと思う。併せて現代国語の諸問題をもとりあげて考察する。

本年は特に国語の「文法」を体系的に講義する。文法体系は現在最も一般的とされている橋本学説によるが、必要に応じて山田・時枝両学説を比較対照させることもある。

〔教科書〕 和田利政他著『国文法要説(文語篇)』
(桜楓社) ¥ 980

〔参考書〕 授業中に紹介する。

基礎中国文学

中 村 璋 八

中国の先秦より唐宋に及ぶ散文・韻文、それに諸子百家を始めとする思想的な作品を解説しながら、中国古典の読解力を養い、また、漢字の構成、中国の歴史や風土、習慣などを説明し、日本の漢詩文、中国の古典を抵抗なく読めるようにして行く。

〔教科書〕 『中国思想文学通史』(明治書院)
¥ 1,500

専門教育科目

国文学概論

渡 辺 三 男

国文学の領域・種類・理念および研究法について講じ、国文学と風土・時代・社会との関係等の問題にも及びたい。

〔教科書〕 麻生磯次ほか共著『日本文学概論』
(秀英社)

国語学概論

木 村 晟

国語学は特殊言語学の一つである。従って言語学の研究成果が国語学の研究にも応用されることは当然あり得る。しかしながら、一方国語には他の諸言語に見られない多くの特徴がある。そのために国語学独自の研究分野や研究方法が存することも事実である。——こういう観点から本年は国語学全般について講ずるとともに、文字

論と文体論に重点を置いて進めたいと思う。

〔教科書〕 福島邦道著『国語学要論』（笠間書院）
¥ 600

〔参考書〕 授業中に紹介する。

国文学講読Ⅰ

村上光徳

『平家物語』の代表的な句を選んで読み、本文を通して平家物語という作品を十分鑑賞する。そして軍記物語と呼ばれるジャンルの問題や平家物語の文学史的評価、または成立の問題、作者の問題、群がる諸異本の問題、つまり、語りもの・読みものなどの問題、今後の研究方向等さまざまな問題を取りあげて多方面から平家物語を研究してゆく。

〔教科書〕 『平家物語抄』（桜楓社）

〔参考書〕 『平家物語全注釈』（角川書店）

国文学講読Ⅱ

高橋文二

『今昔物語集』の巻28・29・30・31に展開する種々の人間劇を読み、王朝文化のありようを考えてみたい。

〔教科書〕 『今昔物語集』〔本朝世俗部 下巻〕
（角川文庫）

国文学講読Ⅲ

前期 延広真治

川柳の代表として、「柳多留」二篇を講読する。

〔教科書〕 『柳多留(1)』（岩波文庫）

国文学講読Ⅲ

前期 武藤元昭

談義本の代表作として知られる『当世下手談義』をテキストに近世中期文学の一端を学びたい。

〔教科書〕 野田寿雄校註『当世下手談義・教訓続下手談義』（桜楓社） ¥ 1,400

国文学講読Ⅲ

後期 富士昭雄

『西鶴諸国ばなし』講読。西鶴の雑話物の読解を通して、西鶴文学の特質を考察する。

〔教科書〕 『西鶴諸国ばなし』（桜楓社）

中国文学講読

篠原寿雄

古典文学作品中のきわめて代表的なものを学習して、その精華を味読する。訓読法に精通することを主眼にしたいが、韻文は中国音にて読むことにつとめたい。

〔教科書〕 『古文真宝』（明治書院）

国語学研究

山田巖

天草版伊曾保物語は、天草版平家物語、天草版金句集と合綴して文禄2年（1593）天草のイエズス会学林で刊行したローマ字本である。イエズス会の神父たちのための日本語教科書であったが、ローマ字書きであるために当時の話しことばを研究するには第一等の資料である。古代語が近代語に取ってかわる姿がよく見られる国語史料である。語法、音韻、語彙等について究明したい。

〔教科書〕 『天草版伊曾保物語』（勉誠社） ¥ 1,200

〔参考書〕 『キリシタン版 エソポのハブラス私注』
（臨川書店） ¥ 7,500

国文学史Ⅰ（上代）

小野寛

古事記を始めとして、日本書紀・古風土記等の古代説話を読みながら、上代文学史を講じてゆく。

〔教科書〕 阿蘇・曾倉・遠藤編『古代説話』（笠間書院）

国文学史Ⅱ（中古）

渡辺三男

中古文学の特色と、その史的展開を概説する。

〔教科書〕 山崎正之ほか編『資料日本文学史上代中古篇』（桜楓社）

国文学史Ⅲ(中世)

水原 一

国文学史における“中世”の意義・特質について考察し、主要作品の解題、その文学性について理解する。併せて作家の活動、思想を知り時代背景を展望する。また関連する学説について検討し研究上の問題意識を深めたい。今年は特に散文分野をとり扱う予定である。

〔教科書〕 『資料日本文学史・中世篇』(桜楓社)

国文学史Ⅳ(近世)

乙葉 弘

近世文学の特質とその史的展開を概説する。

国文学史Ⅴ(近代)

橋本 芳一郎

近代文学史のうち、明治時代に重点を置いて概説を行う。

〔教科書〕 吉田精一『近代日本文学概説・改訂版』(秀英出版)とノートとを併用。

国語学演習Ⅰ

木村 晟

唱導文学として知られている『玉造小町壮衰書』を、鎌倉期古写の東大本と、室町期写本の叡山文庫本とを比較しながら国語史の立場から解読する。和習を帯びた変体漢文の用字法、文選読み、傍訓・捨て仮名の用法等を考察する。『類聚名義抄』『色葉字類抄』『節用集』『日葡辞書』の古辞書の類は常に参照する。

〔教科書〕 プリントを用意する。

〔参考書〕 授業中に紹介する。

国文学演習Ⅰ(上代)

小野 寛

上代は日本文学の草創期である。日本文学のすべての

原点である。演習では、今年度は万葉集の巻一をよむ。

〔教科書〕 桜楓社本『万葉集』

〔参考書〕 小野寛校注『万葉集抄』(笠間書院)

国文学演習Ⅰ(中古)

高橋 文二

『土左日記』を読み、特にその自然描写のあり方、「古今集」的世界との関りについて考えたい。用語用例の調査、諸注釈の検討、本文批評等についても綿密に行いたい。

〔教科書〕 影印本『土左日記』(新典社) ￥600

校注『土左日記』(笠間書院) ￥800

国文学演習Ⅰ(中世)

村上 光徳

『承久記』の研究。特に流布本を中心に他本との比較研究を行ないたい。流布本は承久記諸本中もっとも手を加えられた作品と考えられ、当時の諸記録や、他の軍記物語などの影響に注意してみたい。

〔教科書〕 影印本を用いる。(内閣文庫本)

国文学演習Ⅰ(近世)

前期 延 広 真 治

山東京伝「百人一首初衣抄」演習。

難解なこの作品をどこまで読解できるか。諸君の努力に期待する。

(教科書) 日本名著全集本よりのコピー

国文学演習Ⅰ(近世)

後期 富 士 昭 雄

西鶴の『万の文反古』演習。西鶴の書簡体小説を精読し、西鶴文学の一端を解明する。

〔教科書〕 『万の文反古』(明治書院)

国文学演習Ⅰ(近代(A))

片岡 懋

森鷗外、樋口一葉、泉鏡花、徳富蘆花、国木田獨歩、

島崎藤村、田山花袋、夏目漱石の作品を読む。作品については後に指示するが、取り敢えず森鷗外の初期三部作——「舞姫」「うたかたの記」「文づかい」を用意しておくこと。

国文学演習Ⅰ（近代(B)）

片岡 懋

夏目漱石、志賀直哉、有島武郎、芥川龍之介、堀辰雄、井伏鱒二、中野重治、岡本かの子の作品を読む。作品については後に指示するが、取り敢えず夏目漱石の「硝子戸の中」を用意しておくこと。

国文学演習Ⅰ（近代）

石割 透

永井荷風の作品をとりあげ、荷風の作風の変質、特質を考えていきたい。1作品を2、3時間かけ、報告者を決めてその報告にもとずいて検討していく。

〔教科書〕 教場にて指示する。

国語学演習Ⅱ

山田 巖

古今著聞集は著者も著作年代も明確にわかる興味深い説話を蒐集した鎌倉期の代表的な説話集である。文学的価値も高いが、鎌倉時代の言語資料としても平家物語、沙石集等に劣らぬものを有している。卒業論文の指導のかたわら著聞集の文法・文体・語彙等について研究したい。

〔教科書〕 『古今著聞集(上)』（新潮社） ¥ 2,300

〔参考書〕 『古今著聞集』（日本古典文学大系本）（岩波書店）

国文学演習Ⅱ（上代）

小野 寛

古事記・古風土記・万葉集ほか上代文学全般から各自が選んだ作品やテーマ、およびそれに関連する問題について研究発表し、受講者全員が、その都度、その同じ土俵に上がって討論してゆくというようにしたい。皆で考え、採み合いながら、各自の卒業論文への結実を図る。

国文学演習Ⅱ（中古）

高橋 文二

「大和物語」の特に後半部にある説話的章段を検討し、王朝の歌物語、物語、説話のありようとの関連を考える。

〔教科書〕 『大和物語』（桜楓社） ¥ 1,800

国文学演習Ⅱ（中古）

渡辺 三男

藤原定家筆影印本古今和歌集をテキストとして、序及び古今三期の代表的な歌と歌人とを重点的にとりあげる。

〔教科書〕 久曾神昇編『伊達本古今和歌集』（笠間書院）

国文学演習Ⅱ（中世）

村上 光徳

中世の後期軍記物語に属する『明德記』の研究。永年ほとんどかえりみられなかったこの作品を、基礎的な調査、研究を行いたい。

〔教科書〕 影印を用いる。

国文学演習Ⅱ（中世）

水原 一

『太平記』の解釈・考証を通して、中世の文体や背景について研究し演習を実施する。かつ相互の意見交流の中で卒業論文の指導を行なう。

〔教科書〕 版本『太平記』抄（桜楓社） ¥ 1,500

国文学演習Ⅱ（近世）

乙葉 弘

近松を除いた他の作者の浄瑠璃をテキストとして演習を行う。卒業論文の指導は論文執筆者の論題に従い、論文の参考になる文献をコピーして読む予定。

国文学演習Ⅱ(近世)

前期 乙葉 弘
後期 富士 昭雄

(前期) 近松を除いた他の作者の浄瑠璃をテキストとして演習を行う。卒業論文の指導は論文執筆者の論題に従い、論文の参考になる文献をコピーして読む予定。

(後期) 西鶴の『好色一代男』演習。また影印本により、近世版本の読みにも習熟する。

〔教科書〕 後期『好色一代男〈一・二〉』(影印本)
(笠間書院)

国文学演習Ⅱ(近代)

橋本 芳一郎

日本近代文学のうち、学生が卒業論文に選んだ作家の主要作品を演習として攻究し、併せて卒業論文の執筆指導を行う。

〔教科書・参考書〕 その都度教示する。

国文学演習Ⅱ(近代)

片岡 懋

明治20年代中葉における紅葉、露伴批判の先頭をきり、闘う浪漫主義文学の担い手であった北村透谷の評論を中心に、石川啄木・中野重治らの評論をも読んで、日本近代文学におけるリアリズムの展開について考察してゆきたいと思う。

〔教科書〕 勝本清一郎校訂『北村透谷選集』(岩波文庫)

国文学研究

橋本 芳一郎

「鷗外・漱石の思想と芸術」……両文豪の芸術観および人生観に焦点を当て、それに応じての二人の評論や作品を検討して行く。

〔教科書・参考書〕 その都度教示する。詩歌などはプリントして与える。

国文学研究

片岡 懋

島崎藤村の「春」と「家」、田山花袋の四部作(「蒲団」、「生」、「妻」、「縁」と「田舎教師」、徳田秋聲の「新世帯」、「微」、「足迹」、正宗白鳥の「塵埃」、「何處へ」、「二家族」、「微光」、「入江のほとり」などによって、日本の自然主義文学の到達点なり問題点なりを考察してゆきたいと思う。

国文学研究

村上 光徳

平安物語や人物批評書である無名草子を読む。特に源氏物語を中心にした女性論、男性論、作者論等を平安末期から中世にかけて生きた一女性の評論の書であるから、当時の平安物語の読み方、考え方、評価等見ることができ、たいへん有意義。

〔教科書〕 『昭和校注無名草子』(武蔵野書院)

文学概論

橋本 芳一郎

世界文学の観点から、文学の本質・目的意識・要素・ジャンルなどについて重要な学説を紹介しながら概説し、併せて近代文芸思潮の概説も行う。

〔教科書〕 ノート使用。

〔参考書〕 その都度教示する。

国語学史

木村 晟

国語学が国語意識の理論的体系であるとするならば、国語学史は国語意識の展開の歴史である。単に研究業績の解説にとどまることなく、国語学史が国語学の展開に重要な意義をもつことを明らかにしたい。

〔教科書〕 田辺正男著『国語学史』(桜楓社)

¥ 1,800

〔参考書〕 授業中に紹介する。

言語学概論

飯島 周

言語研究の歴史を略述し、現代言語学の諸分野とその

方法について考察する。具体的な分析や用例は、日本語に関するものを中心にすが、日本語の性格の特徴をより明らかにするため、他の言語、特に英語との対比を試みる。専門用語が複雑なので注意を要するが、言語の持つ日常的機能の理解が主な目的のひとつである。

〔参考書〕 V.アテジウス『機能言語学』（桐原書店）
¥ 2,800

上代文学

小野 寛

万葉集を読む。万葉びとたちはその生をそのまま歌にうたった。万葉をよむことは、上代の歴史をよむことであり、上代の社会や風土をよむことであり、万葉びとの心をよむことである。またわれわれのこぼの本源をここに探ることになる。今年度は、柿本人麻呂の後期の作品からよんでゆく。

〔教科書〕 小野 寛校注『万葉集抄』（笠間書院）

中古文学

廣島 まさる

中古文学の中から『和泉式部日記』を選び、その本文研究・解釈などについて考えたい。なお『和泉式部集』を参考にして『和泉式部日記』の文芸性にも触れたい。

〔教科書〕 影印本『和泉式部日記』（武蔵野書院）
¥ 1,000

〔参考書〕 『写本の読み方』—古典演習の手引—
（桜楓社） ¥ 480

中世文学

岩佐 美代子

新古今和歌集を読む。一首ごとの解釈鑑賞とあわせて歌集としての排列の妙味を味わって行きたい。教科書は手持ちの新古今和歌集（ただし抄出本でないもの）があれば新規購入に及ばない。

〔教科書〕 久保田淳編『新古今和歌集』（桜楓社）
¥ 1,800

近世文学

前期 矢野 公和

上田秋成の『雨月物語』の中から数編を選び読解し、近世文学について考える。

〔教科書〕 『雨月物語』（明治書院 校注古典叢書）

近世文学

後期 富士 昭雄

近世俳文の代表作の読解を中心に、俳諧文学の特色を考察する。

〔教科書〕 『(新編)近世俳文集』（笠間書院）

近代文学

田中 実

近代の名作を学生諸君とともに読み、意見を交換する。ほぼ時代の流れを追いながら、近代文学の根底に流れているものとは何かを考えたい。作品の読みを大切にし、作品へのアプローチの方法を作品ごとに選出できればと思う。演習形式を併用するため、特に熱心な学生を期待し歓迎する。テキストは学年の始めに指定する。

近代文学

三宅 武治

近代詩と現代詩について講義します。特に詩人・伊東静雄を中心に、萩原朔太郎、中原中也、立原道造、三好達治、堀辰雄、室生犀星、三島由紀夫、島尾敏雄、黒田三郎、千家元麿、八木重吉、西脇順三郎、草野心平、宮沢賢治、高村光太郎、谷川俊太郎などについて話します。作品を見る目と文学研究の姿勢を育むために、詩の実作の体験と作品の舞台裏についても話したいと思っております。元教授・故塩田良平先生についても話したいと思っておりますが、それは、近代文学の研究手法と論文の書き方に言及したいと考えます。

〔教科書〕 『伊東静雄—その人生と詩』（花神社）
¥ 2,000

『限りある生命を』（花神社） ¥ 1,500

国文学特講 I

乙 葉 弘

影印本によって近松門左衛門の浄瑠璃を読み、木板本の読み方、浄瑠璃の解釈・鑑賞を行う。なお、人形浄瑠璃劇の成立・展開近松の浄瑠璃の特色など浄瑠璃の諸問題にわたって講述する予定。講読は「心中天の網島」その他。

〔教科書〕 影印本『曾根崎心中・心中天の網島』（桜楓社）

国文学特講Ⅱ

菊地良一

説話文学の文学的特質について述べ、今昔物語集本朝の部、10巻～20巻を中心に、また神道集説話などについて、特に仏教説話が構成する唱導性を中心に講義をすすめる。中世文学における説話文学の位置づけということについても考えてみたい。

国文学特講Ⅲ

水原一

一昨年、昨年に続き「とはずがたり」を講ずる。今年は巻三。作品理解・人物研究・歴史背景・文体研究をふまえて中世自照文学の深層部に迫りたい。

〔教科書〕 筑摩叢書『とはずがたり』（筑摩書房）

国文学特講Ⅳ

寺田清市

大正期労働文学とプロレタリア文学の主要な作品を読み合いながら、近代日本文学の実像を探りたい。

中国文学

中村璋八

中国では夙に佚し、日本にのみ伝存した五行大義を、平易な解説を加えながら、演習方式で読んで行く。この陰陽五行説を集大成した五行大義は、奈良朝より江戸期に至るまでの陰陽道、仏教、神道、国文学、年中行事、民間信仰など多方面に大きな影響を及ぼした書で、国文学や日本史、東洋史を専攻する人々には必読のものであると思う。

〔教科書〕 『五行大義校註』（汲古書院）

中国文学演習

飯田利行

中国文学史上、曾てみなかった文学革命の先駆良寛詩の特色と人間像を詩を通して味読させる。

〔教科書〕 『良寛詩集譯』（大法輪閣） ¥ 2,400

中国文学概論

飯田利行

国語教師として必要な中学文学教養と知識の習得に重きをおく。したがって日本文学を基盤にしての中国文学の概観を試みる。

〔教科書〕 『中国文学概論』（中国日本史文研究会）

¥ 1,000

仏教概論

山内舜雄

仏身論・仏陀論を中心に、仏教一般に関する基礎的教理を組織的に概説すると共に、各宗の主要教義を、できるだけ平易に解説する。

〔教科書〕 ノート講義とする。

東洋思想研究

船津富彦

東洋の思想はいろいろな面から取りあげて研究することが出来るが、本年度は主に中国の文学を主材として、それ自体の主張と、儒・仏などの関係を加味して、歴史的にその発展を考察してみたい。

日本史概説Ⅰ（古代・中世）

杉山博

鎌倉幕府と室町幕府の政治機構と政治過程を概説してこの時代の特色と意義について明らかにしたい。

〔教科書〕 佐藤進一著『日本の中世国家』（岩波書店）

¥ 1,400

日本史概説Ⅱ（近世・近代）

吉田常吉

江戸幕府の幕藩体制の成立と崩壊への推移を述べ、明治政府の成立とその中央集権的統一国家形成への過程について論述する。

日本文化史Ⅱ

圭室文雄

日本文化のなかで、とくに日本の宗教の問題についてとりあげることにしたい。ここでは古代から現代に至るさまざまな宗教について吟味を加えることにし、それぞれの時代の文化にどのような影響を与えたかを検討したいと思う。

〔教科書〕 『日本人の宗教の歩み』(大学教育社)

〔参考書〕 『神仏分離』(教育社新書)

書道史(半期)

谷村義雄

前期の美術史に於て、ことばを記録することを主目的とした文字(漢字)が、時代を経ていろいろな書体に変化し、その文字を書く技法もそれぞれの書体とともに工夫され、漢代に至ると文字を書くことが絵画をえがくことと共通した造型美として尊重されるようになった。文字から書への展開が行われた。この後期では三国以降現代に至るまでの諸時代の書法の展開を考究する。

〔教科書〕 図版『書の歴史』(二玄社刊)

〔参考書〕 藤原楚水『図解書道史』(省心書房刊)

書道実習Ⅰ

金子卓義

書の歴史を探りながら、古典の臨書を学び、表現技術の習得と、書の理解を深める。前半(9月頃まで)は楷行草の各体の古典を広く学び、後半は中国北魏時代の楷書「高貞碑」を細かに深く研究する。

〔教科書〕 『書道Ⅰ』〔高校用教科書 旧版〕(教育出版)

中国の書道『高貞碑』(書芸文化新社)

書道実習Ⅱ

金子卓義

書の歴史を探りながら、古典の臨書を学び、表現技術の習得と、書の理解を深める。前半(9月頃まで)は楷、行、草の各体の古典を広く学び、後半は中国唐時代の行草書「祭姪文稿」を細かに深く研究する。

〔教科書〕 『書道Ⅱ』〔高校用教科書 旧版〕(教育出版)

中国の書道『争坐位帖、祭姪文稿』

(書芸文化新社)

美術史概説

林良一

中国の魏晋南北朝より朝鮮の三国時代を経て、わが国の飛鳥・白鳳期の美術にいたる様式的展開について講述する。各地の寺院遺跡や遺品などのカラー・スライドを映写し、視覚的に理解を深めるように努める方針である。

美術史(半期)

谷村義雄

書は東洋独得の芸術である。書とは何か?書は何故に芸術なのか?この意味を解き明かす鍵は、文字創造の源始に立ちかえって、三千年の書の流れを見きわめることである。その時代時代に於ける書の姿や書の役割を考察することによって、東洋文化の中でいかに書が深いかかわりをもってきたかが一段と明確になるであろう。この美術史の前期に於ては、殷から漢代の終りに至る書体の変遷や書風の展開を書の遺品にもとづいて具体的に講義する。

〔教科書〕 筑摩書房『書とは何か』第一巻

〔参考書〕 伏見沖敏編『書の歴史』図版(二玄社刊)

現代美術

中山典夫

印象主義にはじまる現代美術の流れを、絵画作品を中心に、追ってゆく。講義にはスライドを用いる。

有職故実

鈴木敬三

公家・武家の故実の中で、装束・装身具・調度の類を中心として、文献所載の用語・名称の構造と、それらの時代・環境による特殊性について講述する。

編集実務(半期)

宇賀田 達 雄

将来マスコミ方面に進む場合は当然だが、一般の企業に入っても、カタログやPR誌・社内報の製作など、文章を書き、それを編集・印刷する機会はきわめて多い。その際まず必要なことは、いかにして編集の企画をたて、原稿を作るか、印刷の方式をどうするか、どのようにして印刷物を仕上げるのかという知識である。これら編集者として欠くことのできない基本的な知識と技術を、実習を通じて考えてみたい。

〔教科書〕 『編集校正便覧』(印刷学会出版部発行)
¥ 250

英米文化

荒井 良 雄

前期は、ケネス・クラークの名著の元になったBBCテレビ製作のCivilisation(13回)を使って、欧米の芸術と文明の原点と盛衰を考察する。後期は、英米の映画を使って、映画の中に描かれた英米の文化と生活を、「アメリカの夢」、「ブロードウェイ」、「イギリスの教育」、「結婚式」、「食べ物と飲み物」など12章に分けて論じる。

〔教科書〕 『芸術と文明』(英宝社) ¥ 1,200

日本民俗学

小 島 清 志

前半は、柳田国男以来展開されてきた民俗学の学説史を概観し、何が問われ、どのような方法によってきたのかということ、いささかなりとも明らかにしたい。後半は奄美・沖縄におけるフィールドワークにもとづきながら、現代の民俗学の諸問題、特に民俗社会の変化、都市・農村問題について考察することとしたい。

〔参考書〕 講義の中で随時指示する。

英米文学科

基礎教育科目

英文学概論(荒井 良雄)	85
米文学概論(山縣 敏夫)	85
基礎英語 I A(河崎 征俊)	85
基礎英語 I A(佐藤 千春)	85
基礎英語 I A(高野 正夫)	85
基礎英語 I B(A. G. Ryder)	85
基礎英語 I B(N. Readdy)	85
基礎英語 I B(T. J. Wright)	86
基礎英語 II A(岡崎寿一郎)	86
基礎英語 II A(坂本 武)	86
基礎英語 II A(高野 正夫)	86
基礎英語 II B(A. G. Ryder)	86
基礎英語 II B(N. Readdy)	86

専門教育科目

英語学概論(大沢 一雄)	87
英作文 I(佐藤 千春)	87
英作文 I(坂本 武)	87
英作文 I(河崎 征俊)	87
英作文 I(高野 正夫)	87
英文学史 I(荒井 良雄)	87
英文学史 II(三好 弘)	87
米文学史(佐藤 千春)	87
英語史(岡田 尚)	88
音声学(坂本 武)	88
批評論研究(河崎 征俊)	88
シェイクスピア(三好 弘)	88
英文学演習 I(中世)(河崎 征俊)	88
英文学演習 II(英文学16・17C)(三好 弘)	88
英文学演習 IV(英文学18C)(小林 亨)	88
英文学演習 V(詩19・20C)(高野 正夫)	88
英文学演習 VI(小説 I 19C)(三好 弘)	88
英文学演習 VII(小説 II 20C)(飯島 淳秀)	89
英文学演習 VIII(批評19・20C)(高野 正夫)	89
米文学演習 I(詩)(金関 寿夫)	89
米文学演習 II(小説 I)(金関 寿夫)	89
米文学演習 III(小説 II)(佐藤 千春)	89
米文学演習 IV(小説 III)(田中 剛)	89
米文学演習 V(批評)(赤祖父哲二)	89
英米演劇演習(荒井 良雄)	89
英文学特講 I(英文学16・17C)(石原 孝哉)	89
英文学特講 II(英文学18C)(小林 亨)	90

英文学特講 III(詩19・20C)(河崎 征俊)	90
英文学特講 IV(小説 I 19C)(伊藤 廣里)	90
英文学特講 V(小説 II 20C)(飯島 淳秀)	90
英文学特講 VI(批評19・20C)(武田 勝彦)	90
米文学特講 I(詩)(金関 寿夫)	90
米文学特講 II(小説 I)(佐藤 吉介)	90
米文学特講 III(小説 II)(田中 剛)	90
米文学特講 IV(小説 III)(田中 剛)	90
米文学特講 V(批評)(佐藤 吉介)	91
英米演劇特講(落合 和昭)	91
英米語学演習(英語学)(大沢 一雄)	91
英米語学演習(英語史)(繁尾 久)	91
英米語学演習(英文法)(岡田 尚)	91
英米語学演習(英会話)(N. Readdy)	91
英米語学演習(英会話)(W. D. Hubbard)	91
英米語学演習(英会話)(T. J. Wright)	91
英米文化(荒井 良雄)	92
時事英語(大沢 一雄)	92
商業英語(青山 則雄)	92
ラテン語特講(佐藤玖美子)	92
日本文化史 II(圭室 文雄)	92
現代美術(中山 典夫)	92

英 米 文 学 科

基礎教育科目

英 文 学 概 論

荒 井 良 雄

英文学の世界と魅力を、詩、劇、小説、評論、伝記、童話、日記、手紙、随筆などのジャンル別と、神話、聖書、マザー・グース、風土、ユーモアなどとの関連で論じ、「イギリス文学と日本」も加えて、英文学入門としたい。

〔教科書〕 『英米文学史概要』（成美堂） ¥ 2,400

米 文 学 概 論

山 縣 敏 夫

アメリカ文学における代表的作家とその作品について概説します。思潮や時代の特徴などによって大別し、その中で作家作品の位置づけをします。例えば“Puritanism”, “Frontier Spirit”, “Lost Generation”, “黒人文学”, “ユダヤ系作家”, などに分類して概説します。

〔教科書〕 学年始めに指示します。

基 礎 英 語 I A

河 崎 征 俊

実際の側面と思想的側面とに光をあてて進めてゆきます。今までの知識の整理という意味からしても、予習、復習は欠かせません。基本的作業を無視しない学習態度を身につけてほしいです。

〔教科書〕 教場にて指示します。

基 礎 英 語 I A

佐 藤 千 春

英語の基礎力を養成することに主眼をおき、授業をすすめて行きます。テキストその他注意事項は開講時に連絡いたします。

基 礎 英 語 I A

高 野 正 夫

誤り易い文法の用例を問題として取り上げながら授業を進めていきます。

〔教科書〕 教場にて指示します。

基 礎 英 語 I B

A. G. Ryder

The primary aim of this course is to enable every student to make as much progress as possible in his/her ability to communicate effectively in English.

This implies not only ability to express one's meaning clearly in English, but also ability to understand native speakers of English. To achieve this aim, constant drill and exercises, both group and individual will be provided in pronunciation, intonation, word-grouping, tempo and stress, and other factors.

The pace in all of my classes is fast and challenging with all of the students participating actively all of the time. Therefore, motivation is one of the prime requisites. ENGLISH will be the ONLY language spoken in the classroom.

Text to be announced later.

基 礎 英 語 I B

N. Readdy

The textbook used in this class [ENGLISH 900] is an audiolingual method and requires tapes [about 15 minutes per class] as well as class participation, both group and individual. ENGLISH 900 implies the 900 sentences which are considered essential for speaking every day English. The student will be drilled in the sentence patterns contained in this book until he can use them with ease as

well as make substitutions using the sentence base as a guide. There will be two examinations each school year. Students are required to attend both.

TEXTBOOK : ENGLISH 900. BOOK 3. COLLIER MACMILLAN INTERNATIONAL The English 900 series consists of 6 books with 10 chapters per book. In this class we will be using Book 3 only.

基礎英語 I B

T. J. Wright

This will be a comprehensive English course for underclassmen. We will cover the basic to intermediate levels of reading, writing and listening comprehension. Emphasis will be placed on learning how to write a complete English paragraph. There will be weekly homework assignments and periodic tests including a Mid term and Final Exam. Attendance is mandatory and students may not speak Japanese in class. This class will be interesting and educational.

Textbooks to be announced at a later date.

基礎英語 II A

岡崎 寿一郎

カセットテープレコーダーの使用と講義を通じて、英語の基礎的な実力の養成を目指す。

〔教科書〕 教場において指示する。

基礎英語 II A

坂本 武

この科目は、Reading や Translation を対象とするものではない。時事文の各種や、放送英語、更に会話文を、テープを主体とした講義の流れの中で、十分に学習するのが目的である。いわゆる読んで訳してこれをとらない。耳訓練を通じてナマの英語に接するのがこの講義であるを充分理解しておいてほしい。

〔教科書・参考書〕 教場にて指示する。

基礎英語 II A

高野 正夫

英文を読みながら、読み能力の増進をはかり、文法的な知識を活用して授業を進めていきます。

〔教科書〕 教場にて指示します。

基礎英語 II B

A. G. Ryder

The primary aim of this course is to enable every student to make as much progress as possible in his/her ability to communicate effectively in English. This implies not only ability to express one's meaning clearly in English, but also ability to understand native speakers of English. To achieve this aim, constant drill and exercises, both group and individual will be provided in pronunciation, intonation, word-grouping, tempo and stress, and other factors.

The pace in all of my classes is fast and challenging with all of the students participating actively all of the time. Therefore, motivation is one of the prime requisites. ENGLISH will be the ONLY language spoken in the classroom.

Text to be announced later.

基礎英語 II B

N. Readdy

The general outline of the course is the same as that given for English 900, Book 3 except it is of a more advanced nature.

This course consists of exercises in everyday English using tapes [about 15 minutes] and individual participation. Examination requirements are the same as those in conversation I.

TEXTBOOK : ENGLISH 900 Book 4 COLLIER MACMILLAN INTERNATIONAL.

専門教育科目

英語学概論

大 沢 一 雄

英語学とはどういう学問であるか、一口にいえば、それは、英語という言語を研究の対象とする学問であるから、それは、言語について研究する学問すなわち言語学の一部であることは、いうまでもない。すなわち、英語学は英語という言語を研究する言語学なのである。「英語学」が英語で English philology とか English linguistics といわれることは、そのことをよく示している。

ところで、言語学は、音声学、音韻論、文法論、意味論、文体論、語源論、辞書編纂論、言語史等の諸部門に分かれる。したがって、英語学の研究も、結局これらの部門のどれかについておこなわれることになるのであるが、そういう各論的な研究に入る前に、英語学という学問について、英語という言語について、一般的、総論的な知識をもつことも必要なことといわなければならない。「英語学概論」の講義は、英語学や英米文学を勉強しようという学生諸君のために、そのような概説的な知識を提供しようとするものである。

英 作 文 I

佐 藤 千 春

英文を書くことを中心にして、英語の総合力の増進をはかりたい。尚、テキストその他詳細は開講時に連絡いたします。

英 作 文 I

坂 本 武

時事英作文を主体とし、適宜一般文のそれを加味する。又、就職試験問題を意識した演習にも取り組むつもりである。実用手紙文もいかがかと思っている。積極的に受講してほしいものである。

〔教科書・参考書〕 教場にて指示する。

英 作 文 I

河 崎 征 俊

基本的な表現から進めて、一步進んだ文章へと向かってゆきます。予習、復習が欠かせません。辞書類も必ず教室に持参することです。着実な努力によって確実な成果が得られることを期待します。

〔教科書〕 教場にて指示します。

英 作 文 I

高 野 正 夫

文法的な面にも目を向けながら、作文の演習を進めて行きます。

〔教科書〕 教場にて指示します。

英 文 学 史 I

荒 井 良 雄

中世から18世紀までの英文学史を、時代背景、文芸思潮、作家、作品、有名な引用句などの解説を中心に概観する。特に詳しく論じる作家は、Chaucer, Marlowe, Shakespeare, Milton, Defoe, Swift, Pope, Johnson など。

〔教科書〕 『小英文学史』（北星堂） ¥ 1,500

英 文 学 史 II

三 好 弘

近代英文学の作品を通して、作家の理想像としての人間の在り方を話していく予定である。

〔教科書〕 『素足で歩く人たち（ふれあいの英文学）』（朝日出版） ¥ 1,500

米 文 学 史

佐 藤 千 春

本年は、植民地時代から自然主義文学の時代までに焦点をあわせ、時代思潮、各作家の文学史上における位置、その価値、特徴となる中心思想、代表作などにふれてみる。

〔参考書〕 井上謙治『アメリカ文学史入門』（創元社）

英 語 史

岡 田 尚

今日の英語に親しんでいる人には他国語のような感じのする古英語の時代から、一千余年の間に、英語がどのように変化してきたか、その主要な流れを概観する。

〔教科書〕 教場にて指示する。

音 声 学

坂 本 武

調音音声学の概要について、英語を主体とした流れの中で学習することが、本講義の内容である。今更自己流の発音がなおせるかな……ではなくて、英米文学科生は徹底的にこれを第一歩から修正する必要がある。英語の母音、子音からはじめて、各論に至る迄知識を得てほしいものである。英語を専攻していて natives の、発音が判らない、したがって自己の考えも表現不可能では困るのである。積極的に受講してほしい。

〔教科書・参考書〕 教場にて指示する。

批 評 論 研 究

河 崎 征 俊

ジョン・ダンおよびロマン派の詩人の作品をとりあげながら、典型的な批評方法をあてはめてみたいと思います。批評文はコピーにして渡します。さらに批評の種類をも含めた講義を進めたいと思います。

〔教科書〕 『イメージの詩学』(篠崎書林) ￥ 3,200 (予価)

シェイクスピア

三 好 弘

シェイクスピアの作品のイギリス人的理解を話しながら、同時に日本人の禅の精神で読めばどのような読み方になるかを探っていく予定である。

〔教科書〕 『シェイクスピアと日本人のこころ』

(公論社) ￥ 1,900

英 文 学 演 習 I (中世)

河 崎 征 俊

例年どおりチャースターの作品を読んでゆきます。特に

今年は夢物語詩の中から選んで読んでみたいと思います。さらに中世英国社会の文化風土や、社会的背景などを合わせて講義します。作品は F.N.Robinson 版をコピーにして使用します。

〔教科書〕 『イメージの詩学』(篠崎書林) ￥ 3,200 (予価)

〔参考書〕 『チャースターの夢物語詩』(高文堂出版) ￥ 2,500

英 文 学 演 習 II (英文学16・17C)

三 好 弘

シェイクスピアの作品を読んでいく予定であるが、学生の要望によって作品を決める。ただし、テープを使って授業をすすめていくので、多少作品は限定されるだろう。

英 文 学 演 習 IV (英文学18C)

小 林 亨

Oliver Goldsmith の唯一の小説であり「可憐な小古典」と云われる The Vicar of Wakefield を読む。作品中にみられる人間性、感傷性、ユーモアなどは、18世紀の特質を充分現わしているものであり、テキストも重宝なものが出ているので、受講生諸君も楽しめることと思われる。

〔教科書〕 『研究社 小英文学叢書』 ￥ 980

英 文 学 演 習 V (詩19・20C)

高 野 正 夫

The Auden Generation の中心人物であるオーデンをとりあげ、彼がアメリカに渡ってから書いた1940年代の詩を読んでいきます。

〔教科書〕 教場にて指示します。

英 文 学 演 習 VI (小説 I 19C)

三 好 弘

19世紀の小説の代表的な作品を読んでいく予定であるが、何を読むかは学生の希望を聞いてから決定することにする。

英文学演習Ⅶ（小説Ⅱ20C）

飯島淳秀

イギリスの現代小説を読む予定。「演じて習う」という字義どおり常に学生諸君にやってもらう。

前期と後期に各1回（つまり年に2回）課題レポート（単位レポート）を必ず提出してもらう。

〔教科書〕 教場にて指示する。

英文学演習Ⅷ（批評19・20C）

高野正夫

19, 20世紀の代表的な批評家書いたものを読みながら批評の歴史的な変遷をたどっていく予定。

〔教科書〕 教場にて指示します。

米文学演習Ⅰ（詩）

金関寿夫

Emily Dickinson の詩を読む。

〔教科書〕 未定

〔参考書〕 開講時に示す。

米文学演習Ⅱ（小説Ⅰ）

金関寿夫

Carson McCullers の *The Member of the Wedding* 及び短篇数篇を読む。

〔教科書〕 Carson McCullers : *The Member of the Wedding* (Penguin Books)

米文学演習Ⅲ（小説Ⅱ）

佐藤千春

未定、開講時に連絡いたします。

米文学演習Ⅳ（小説Ⅲ）

田中剛

『ウォッシュ』、『デルタの秋』、『黒衣の道化師』、『納屋は燃える』のフォークナーの短篇を精読し、例えば、『ウォッシュ』と『アブサロム、アブサロム』のように短篇が長篇小説と連関がある場合には、その連関性を検討する。

〔教科書〕 研究社小英文叢書『フォークナー短篇集』（研究社） ¥ 880

米文学演習Ⅴ（批評）

赤祖父哲二

Ernest Hemingway の短篇集を読み、とくにその文体の特徴について考える。

〔教科書〕 *Indian Camp (from The Nick Adams Stories)* (朝日出版社)

英米演劇演習

荒井良雄

『わが町』で有名なアメリカの劇作家ソーントン・ワイルダーのピューリッツァ賞受賞劇 *The Skin of Our Teeth* (1942) を読み、この大河ドラマの思想と現代人に必要な巨視的人生観と歴史観を考察する。

〔教科書〕 Thornton Wilder : *Our Town and Other Plays* (Penguin Plays). (英潮社新社) ¥ 880

英文学特講Ⅰ（英文学16・17C）

石原孝哉

ルネッサンス期のイギリス文学について講義する。

当時の文化、社会、風俗、経済、政治、歴史など転換期のイギリスを形成している多くの要素にも目を配りながら、文学活動を追ってゆく、Thomas More, Edmund Spenser, William Shakespeare, John Milton などを中心に講ずるが、文学以外の人文科学の幅広い分野に関心をもつ学生の授講を望む。

〔参考書〕 そのつど教場にて指示。

英文学特講Ⅱ（英文学18C）

小林 亨

ここ数年、近代小説史を16世紀末より始めて講じて来たが、18世紀に時間が多く取れなくなってしまう為、本年度は18世紀をやや詳しく展望し、17、6世紀へと溯って逆にイギリス近代小説の歩みを考究したい。なるだけ原文の一端に接したいので、コピーした英文を多く読むことになる。

〔教科書〕 「コピー」教室にて配布。

英文学特講Ⅲ（詩19・20C）

河崎 征俊

英国ロマン派の詩人を数名とりあげながら、作品に表われた詩的イメージと詩的リアリティーについて講義します。さらに現代詩人を数名とりあげ、両者の詩的エッセンスをとらえてみたいと思います。

〔教科書〕 『イメージの詩学』（篠崎書林） ¥ 3,200
予価

英文学特講Ⅳ（小説Ⅰ19C）

伊藤 廣里

イギリスの19世紀の時代思潮を考えながら、その時代の大御所であるディケンズとサッカレーの小説をあつかう。講義が進んでからは、ディケンズの中篇を味読する予定である。

〔教科書〕 開講時に発表する。

英文学特講Ⅴ（小説Ⅱ20C）

飯島 淳秀

小説の問題を中心に現代英吉利文学の20世紀的諸相について講義をしていく予定。

前期と後期に各1回（つまり年に2回）課題リポート（単位リポート）の提出を必ず求めるので注意されたい。

出席も重視される。テキストは使わない。

英文学特講Ⅵ（批評19・20C）

武田 勝彦

春学期は西欧文芸批評史の概略と Victoria 朝批評の

講義に重点を置く。批評用語の解説と日本の批評用語のズレなどにも言及する。特に、英米の文学の理論と日本の文学の理論との相違にも言及する。

秋学期は20世紀批評の多彩な実態を分析し、現代の批評がどのような方向に向っているかを考究する。特に new criticism を中心として、分析とは何かを実践的に取り上げたい。

〔教科書〕 特になし。

〔参考書〕 『基本文芸用語辞典』（荒竹書版）

米文学特講Ⅰ（詩）

金関 寿夫

アメリカ現代詩のアンソロジーを読みながら、現代詩の創成期から今日に至るまでの詩的状況を検討する。

〔教科書〕 Sixteen Modern American Poets, ed. Pearson 他（英宝社）

〔参考書〕 開講時に示す。

米文学特講Ⅱ（小説Ⅰ）

佐藤 吉介

アメリカ19世紀の作家マーク・トウイン (Mark Twain), ホーソン (Hawthorne), A. ビーアス (A. Bierce) などの作品を教材とし、作家の表現理論、文体、手法、構成、作風などを考察する。

〔教科書〕 プリント。

米文学特講Ⅲ（小説Ⅱ）

田中 剛

二十世紀前期のアメリカ小説の代表的作家、ウォートン、ロンドン、キャザー、アンダソン、ルイス、フィッツジェラルド、ヘミングウェイ、ウルフ、フォークナーの主要な作品を二点ずつ取り上げて、考察する。

〔教科書〕 『The American Novels』（英潮社）

¥ 1,200

米文学特講Ⅳ（小説Ⅲ）

田中 剛

サリンジャーの『ライ麦畑でつかまえて』を読みつつ、1950年代のアメリカの社会状況及び文学状況を考察する。

〔教科書〕 英潮社 ペンギン・ブックス『J. D. Salinger : The Catcher in the Rye』

（英潮社） ¥ 1,700

米文学特講V (批評)

佐藤 吉 介

文学作品における批評の方法を概観的に論述し、その理論を活用して作品にアプローチする方法、更に鑑賞する実用面を兼ねて実践する。

作品はアメリカ文学の十九世紀の作品を用いる。

〔参考書〕 プリント。

英米演劇特講

落 合 和 昭

ギリシャ悲劇, ギリシャ喜劇, 中世奇跡・道徳劇, ルネッサンス劇, ネオ・クラシズム劇, 現代劇を歴史的に鳥瞰して, その特徴を把握し, さらに, 現代劇における大きな潮流, ロマンティズム, リアリズム, エクスプレシニズム, シアトリカリズム, イグジステンシャルスト・ドラマ, 不条理演劇, エピック・シアター, 現代のコメディ・オブ・マナーズ, スープラ・リアリズム, ケイス・スタディーズ, ミュージカルをそれぞれ具体的に作品を通して考察する。また, 年間に, レポート(原稿用紙2枚程度)を4, 5回, ミニ・テスト(15分程度)を義務づけ, 学んだことを整理してもらう。テキストはアメリカの大学生用のドラマのテキストを使用する。

〔教科書〕 『シアター』ブリーフ・エディション(丸善)

英米語学演習(英語学)

大 沢 一 雄

Good English, bad English とはどういうことか, とくに, 口語体の英語について考えてみる。テキストには one-act plays と方言に関する論文を用いる。

英米語学演習(英語史)

繁 尾 久

英語の先史時代, 古期英語, 中期英語, 近代英語の各期の言語的特色を考察する。

〔教科書〕 R. C. Bambas 著『The Origin and History of the English Language』(金星堂) ¥ 2,200

〔参考書〕 岡田・郡司訳・モッセ『英語史概説』(開文社) ¥ 1,500

英米語学演習(英文法)

岡 田 尚

生きた英文に接しながら, 伝統的な文法の知識を確認するとともに, どのような文法がよいかを考えてみたい。

〔教科書〕 教場にて指示する。

英米語学演習(英会話)

N. Readdy

Same as Page 72. However, if the majority of students in this class have already completed ENGLISH 900 Book 4, we will proceed with Book 5.

英米語学演習(英会話)

W. D. Hubbard

The ability to communicate in English is a very useful ability to have. Communication is an exchange of ideas. For successful spoken communication in English you must both speak and be understood, and listen and understand. This result oriented course, based on effective linguistic methods, is designed to help you acquire those skills needed for successful communication in English. The text for this course will be tentatively the *New English* 900, book 4 in addition to supplementary material.

英米語学演習(英会話)

T. J. Wright

This will be an intermediate-advanced level comprehensive English course opened to upperclassmen. This course will work on the four basic skills of English. Emphasis will be placed on cross cultural communication, reading, writing, speaking and listening comprehension. There will be very much written homework and periodic tests

(including two Major Exams). Attendance is mandatory. Students may not speak Japanese in class. This class will be exciting and interesting. For serious students only. Textbooks to be announced at a later date.

英米文化

荒井良雄

前期は、ケネス・クラークの名著の元になったBBCテレビ製作のCivilisation(13回)を使って、欧米の芸術と文明の原点と盛衰を考察する。後期は、英米の映画を使って、映画の中に描かれた英米の文化と生活を、「アメリカの夢」、「ブロードウェイ」、「イギリスの教育」、「結婚式」、「食べ物と飲み物」など12章に分けて論じる。

〔教科書〕『芸術と文明』(英宝社) ¥1,200

時事英語

大沢一雄

時事英語の研究をおこなう。時事英語とは大まかにいようと、新聞、テレビ、ラジオ等のmass mediaすなわちマスコミで用いられる英語である。

商業英語

青山則雄

1年の内、前期は貿易取引のプロセスを追って英文メッセージを適切な日本語で表現する練習。後期は英文ビジネス・ライティングを中心とし、正式なフォームでタイプにより文書を作成する。自発的に行動する受講者を望む。

〔教科書〕『国際貿易英語通信』(梓出版社)

ラテン語特講

佐藤 玖美子

この講座は、英米語をはじめとする現代ヨーロッパの言語のより良い理解者となるための、古典ラテン語の基礎知識の習得、とくに文法規則を学び、動詞、名詞の変化に慣れることを目的としています。また平行して、やさしいラテン語で書かれた読物の講読も行いたいと思います。

〔教科書〕『詳解ラテン文法』(研究社)

日本文化史Ⅱ

圭室文雄

日本文化のなかで、とくに日本の宗教の問題についてとりあげることにしたい。ここでは古代から現代に至るさまざまな宗教について吟味を加えることにし、それぞれの時代の文化にどのような影響を与えたかを検討したいと思う。

〔教科書〕『日本人の宗教の歩み』(大学教育社)

〔参考書〕『神仏分離』(教育社新書)

現代美術

中山典夫

印象主義にはじまる現代美術の流れを、絵画作品を中心にして、追ってゆく。講義にはスライドを用いる。

地 理 学 科

基礎教育科目

基礎地理学(人文地理学)(今朝洞重美)	94
基礎地理学(人文地理学)(長野 覚)	94
基礎地学(自然地理学)(長沼 信夫)	94
基礎地学(自然地理学)(早船 元峰)	94

専門教育科目

人文地理学実習(上野 福男)	94
人文地理学実習(櫻井 正信)	94
人文地理学実習(茨口 善美)	94
人文地理学実習(長野 覚)	95
自然地理学実習(小池 一之)	95
自然地理学実習(中村 和郎)	95
自然地理学実習(長沼 信夫)	95
自然地理学実習(高木 正博)	95
自然地理学実習(早船 元峰)	95
野外巡検Ⅰ(上野 福男)	95
野外巡検Ⅰ(小池 一之)	96
野外巡検Ⅰ(西村 嘉助)	96
野外巡検Ⅰ(高木 正博)	96
野外巡検Ⅰ(早船 元峰)	96
日本地誌Ⅰ(今朝洞重美)	96
外国地誌Ⅰ(茨口 善美)	96
経済地理学Ⅰ(赤川 泰司)	96
郷土地理学(長野 覚)	96
集落地理学(小川 徹)	97
地形学Ⅰ(西村 嘉助)	97
地 図 学(高木 正博)	97
交通地理学(奥野 隆史)	97
地理学総論(小川 徹)	97
地理学総論(中村 和郎)	97
地理学総論(西村 嘉助)	97
野外巡検Ⅱ(小川 徹)	97
野外巡検Ⅱ(今朝洞重美)	97
野外巡検Ⅱ(茨口 善美)	97
野外巡検Ⅱ(櫻井 正信)	98
野外巡検Ⅱ(中村 和郎)	98
野外巡検Ⅱ(A)(長沼 信夫)	98
野外巡検Ⅱ(B)(長沼 信夫)	98
野外巡検Ⅱ(長野 覚)	98
日本地誌Ⅱ(早船 元峰)	98
外国地誌Ⅱ(宮口 侗畑)	98
経済地理学Ⅱ(生井澤 進)	98

歴史地理学(櫻井 正信)	98
人口地理学(上坂 修夫)	99
原書講読(上野 福男)	99
地 質 学(小池 一之)	99
土壤地理学(漆原 和子)	99
気 候 学(中村 和郎)	99
海洋学及び陸水学(長沼 信夫)	99
日本地誌Ⅲ(中島 義一)	99
外国地誌Ⅲ(梅原 弘光)	99
都市地理学(今朝洞重美)	99
計量地理学(奥野 隆史)	100
応用地理学Ⅰ(高木 正博)	100
応用地理学Ⅱ(今野 修平)	100
文化地理学(茨口 重美)	100
空中写真判読法及測量学(小池 一之)	100
地理学特講Ⅰ(長野 覚)	100
地理学演習(上野 福男)	100
地理学演習(小川 徹)	100
地理学演習(今朝洞重美)	100
地理学演習(小池 一之)	101
地理学演習(茨口 重美)	101
地理学演習(櫻井 正信)	101
地理学演習(長沼 信夫)	101
地理学演習(西村 嘉助)	101
地理学演習(高木 正博)	101
地理学演習(長野 覚)	101
地理学演習(早船 元峰)	101

地 理 学 科

基礎教育科目

基礎地理学（人文地理学）

今朝洞 重 美

地理学的な「見方」、「考え方」とはどのようなものであるか、について事例を中心に説明する。

基礎地理学（人文地理学）

長 野 覚

世界的視野において、自然と人間活動の相関性を考えながら、多彩な人文現象の基礎知識を、系統地理的に講義する。テキストは下記のほか、適宜プリントで補足する。受講に際しては地図帳の併用を心掛けること。

〔教科書〕 村上 誠編『現代地理学』（朝倉書店）
¥ 2,200

基礎地学（自然地理学）

長 沼 信 夫

本講義は地理学を専攻する学生諸君のために、自然地理的な立場から基礎的知識を提供しようとするものである。今年度も下記のテキストを使用し、第四紀時代の自然環境の変遷について講義する。

なお、参考書は適時講義中に紹介する予定である。
〔教科書〕 『自然環境の生い立ち』（朝倉書店）
¥ 1,800

基礎地学（自然地理学）

早 船 元 峰

地質年代では最も新しく、かつ、人間と密接なかかわりあいをもつ第四紀の自然環境について講義する。

専門教育科目

人文地理学実習

上 野 福 男

人文地理学を第一次生産部門から第三次生産部門までふくめての経済地理学の分野、並びに集落地理学、都市地理学、人口地理学の諸分野について、それぞれの分野で用いられる統計資料を示し、学生各自に題目を選定させ、それについての図的表現を試みさせる。できあがった図表に説明をつけさせる。以上の実習を通じて人文地理学の理解を増進させる。

人文地理学実習

櫻 井 正 信

人文現象を総合学の立場で実習させていくが、とりわけ地図化することに重点を置く。必要参考文献は、そのつど指示し、実習の成果をあげるようにする。

人文地理学実習

茨 口 善 美

この実習は、人文地理学の諸分野において用いられている技術的表現の理解、および基礎的諸作業の修得を目的としている。実際の授業内容は次の通りである。すなわち、(1)人文地理学にとって基礎的な統計図表に関する講義、(2)産業や人口に関する統計資料の収集、整理および図表化作業の修得、(3)地域を選定し、その地理学的説明のための図表およびレポートの作成、(4)一定地域の変化をテーマとして、種々の資料にもとづくレポートの作成。

人文地理学実習

長野 覚

前期は地形図の読図に習熟するよう、土地利用図・地形段彩図などを作成し、人文現象と自然条件の相関性を考察する。後期は各自で収集した統計資料をもとにして、各種の統計地図類を作成することにより、主として人文現象の図化を習得する。

自然地理学実習

小池 一之

自然地理とくに地形学関係のデータ整理および野外調査方法について実習を行なう。必要に応じパーソナル・コンピュータによるデータ整理についても紹介する。実習内容（予定）

1. 地形図の読図，主題図の作成
2. 各種統計データの整理方法
3. 空中写真判読（含地理調査）
4. その他

自然地理学実習

中村 和郎

自然地理学の基礎的諸作業をとおして、地理学の研究を進める上で必要な技術を修得する。

自然地理学実習

長沼 信夫

この実習は自然地理的な立場から、専門領域を深めるために必要な基礎的諸作業を修得する目的で実施する。実習を通じて種々の資料の蒐集・整理、その結果から図表等の表現化、作成した図表からその読み方などを実施する。また野外調査の際に必要な技術的作業等の方法についても実習する予定である。

出席を重視し、平常点（レポート、図表等の提出物）で評価する。

- 〔参考書〕 谷岡武雄他著『新訂 地理実習』〔人文地理ゼミナール〕（大明堂）
三野与吉編『自然地理調査法』（朝倉書店）

自然地理学実習

高木 正博

自然地理学を研究するうえで必要となる基礎的な諸事項の修得を目的とし、その手段として各種の作業を実施してもらう。作業内容については、つぎのことがらを予定している。

- (1) 市販の地形図，空中写真などを利用し、各種の主題図を作成する。
 - (2) 各種統計資料の図化など、授業の進捗状況に応じて指示する。
- 評価に際しては、提出物と出席の状況を重視する。

自然地理学実習

早船 元峰

地理学を修める上に必要な自然関係の基礎的作業を中心に行なう。

前期

○図上作業（切峰面図・起伏量図・帯状平行投影地形断面図等の作成）

○資料の収集・整理・分析の方法

○調査器械・器具の使用法

後期（班別）

○粒度分析

○空中写真の判読（土地利用図・地形学図・標定図作成）

○水の調査（湖水・河川水・地下水の水温，水質等）

○微地形・表層地質調査（元荒川・古利根川流域）

野外巡検 I

上野 福男

長野県白馬村における観光業発展と土地利用調査項目として以下のものを考える。

1. 白馬登山開発の推移
2. スキー場の開発と土地利用の競合
3. 観光業の発展と自給農業
4. 民宿，旅館，ホテルの性格分析
5. 観光開発における地元資本と外来資本
6. 来訪者の行動分析

野外巡検 I

小池 一之

2年次学生を対象とする。野外調査方法の習得を中心とする巡検である。

- (1) 巡検地域 未定（候補地：那須野ヶ原，三宅島，長岡周辺など）
- (2) 巡検期間 昭和58年10月末
- (3) 巡検内容 自然地理学（地形学）の基礎的な野外調査法の習得

野外巡検 I

西村 嘉助

初夏の数日間，東北地方の一地域を選び，終始徒歩で野外調査の基礎を訓練する。対象は主として自然地理学の問題である。地形学 I を受講している者でないと参加の意味がない。

野外巡検 I

高木 正博

地域の実態調査をとおして，それぞれの地域が有する自然的・人文的な特長的一端を明らかにしたい。

現地では，班別行動し，各種の実測調査や聞き取り調査などを実施する。

具体的な地域，期日などは，ガイダンスの際に発表する。

野外巡検 I

早船 元峰

教室の講義のみでは理解しがたい地理的事象（自然的・人文的）を，学生自らの現地での体験（観察・調査）を通じて理解させる。班別行動・現地集合・現地解散の予定。巡検地は追って発表する。

日本地誌 I

今朝洞 重美

地誌学の本質論を考察しつつ，「日本」，「日本各地方」の個性を追求する。

〔参考書〕 藤岡謙二郎『日本地誌』（大明堂）

¥ 1,600

外国地誌 I

菱口 善美

本講義では、『地域』の概念について述べ，次に具体的地域区分の方法を吟味し，さらに北米の「地誌」を概説する。都市の発生的，地域論的立場に重点を置く。

経済地理学 I

赤川 泰司

経済地理学 I はその内容を農業地理においている。

- 1) 世界農業の発生と発展，農業地域形成についての諸説に触れながら，現代世界農業地域の特色と類型化について，従来の研究事例から概説する。
- 2) 世界農業地域と食糧需給について，国際化時代の中で，農業地理学的に考察し，わが国の農業地域形成と食糧自給についてもグローバルな視点から考察したい。
- 3) 日本農業地域及び農業地域構造の把握に際し，従来の接近方法（学説史）と代表的な研究成果を紹介する。受講生に課する前期レポートを通して，現代日本農業の特質と農業地域形成について考察してみたい。

〔教科書〕 特に指定しない。全体を通してプリントで講義内容をまとめ，補足していく。

〔参考書〕 文献，研究事例（論説）をその都度紹介する。

郷土地理学

長野 覚

郷土地理学の概念を求めて過去から現在までの推移を学習し，自然・歴史・民俗・現代社会などを総合した地理的視野から，郷土地理学の意義やその方法論などを探究する。以上を概観したのち，郷土地理研究の素材として，山岳信仰・門前集落等について，全国的視野から郷土に存在するものの位置づけやその意義などを考える。講義はプリントを主体に進める。なお後期には各自の調査結果を発表してもらうこともある。

〔参考書〕 『山岳宗教史研究叢書』（名著出版）

藤本利治『門前町』（古今書院）

集 落 地 理 学

小 川 徹

居住の地理学という観点から、民家と村落構成の両側面について講義する。プリント・テキストは開講後指示する。巡検もその趣旨に沿って行うので、小川巡検を希望するものは、この科目を選択しておいて欲しい。

地 理 学 総 論

中 村 和 郎

内外の地理学者の著名な業績を通して、地理学の最も中心的な課題が何であるかを考えることにする。

地 形 学 I

西 村 嘉 助

地形学の基礎的な部分を講義する。営力地形学から発達地形学に亘る解説を行う。

〔教科書〕 西村嘉助『自然地理学Ⅱ』（朝倉書店）

地 理 学 総 論

西 村 嘉 助

詳細は開講直後に指示する。「地理を学ぶとは何如なることか」を考えてゆくことである。各自も充分考えてほしい。

地 図 学

高 木 正 博

まず、地図の歴史をとおして、地図の重要性を認識する。つぎに、地図の作成、表現方法などのちがいによる多様な地図をもとに、解説、利用法について考える。

授業内容に応じて実習を伴うので、定規、コンパス、分度器を揃えてほしい。

野 外 巡 検 II

小 川 徹

開講後指示する。

交 通 地 理 学

奥 野 隆 史

交通現象の地域的構造と特色について、(1)交通の地域的意味合い、(2)交通の変革と地域の関係、(3)交通の地域的諸モデル、というトピックに沿って説明する。教科書としては下記のことを指定する。

〔教科書〕 『地域交通論』（大明堂） ¥ 2,000

野 外 巡 検 II

今 朝 洞 重 美

山陰地方（出雲または隠岐）の巡検を行う。実施時期は夏期休暇（7月）。

地 理 学 総 論

小 川 徹

詳細は開講直後に指示する。講義の趣旨は「地理を学ぶとは如何なることか」を考えてゆくことである。各自も、このテーマに沿って、考えてみて欲しい。

旧科目（地理学研究法及び地理学史）未履修者はその対策について教務部担当者に相談すること。

野 外 巡 検 II

茨 口 善 美

目 的：地域の変貌についての実態把握
調査地：未定（ガイドンスの際に発表）

野外巡検Ⅱ

櫻井正信

地域現象の歴史と地理的条件を、その地域で確認する立場で巡検します。巡検地は研究室前に発表します。

野外巡検Ⅱ

中村和郎

主として気候学に関連する事象の観察と調査を行なう予定である。

野外巡検Ⅱ(A)

長沼信夫

次の要領で実施する予定であるが、詳細についてはガイダンス（申込）の際に発表する。

- (1) 巡検地域：只見川上流域と魚野川流域（主要調査地域は六日町あるいは入広瀬村を予定）。
- (2) 巡検期日：昭和59年6月下旬（3泊4日）
- (3) 巡検テーマ：豪雪地帯における自然と人文環境。

野外巡検Ⅱ(B)

長沼信夫

次の要領で実施する予定であるが、詳細についてはガイダンス（申込）の際に発表する。

- (1) 巡検地域：鶴見川流域と横浜市区の中小河川（特に戸塚区の舞岡川源流域）
- (2) 巡検期日：昭和59年5月～11月の間に数回、日帰りで行なう。また調査成果のまとめ報告会を1泊2日で行う予定である。
- (3) 巡検テーマ：都市化に伴う土地利用と水文環境の変化

野外巡検Ⅱ

長野 覚

紀伊半島を南端から北上縦断し、その自然と人文を考察する。陸繋島の潮岬、捕鯨基地の太地、平安時代から信仰の盛んな熊野三山を経て十津川に一泊。大峰山に登り（女性は山麓まで）、吉野の山上集落で一泊し、現地調査などを行なったのち解散。2泊3日。6月初旬実施の予定。

日本地誌Ⅱ

早船元峰

若干の地域を選び、そこでの自然の人間への影響、人間の自然へのはたらきかけについて論じ、地形図の作業をまじえ自然地誌的観点に立って「地域」の個性をみていく。

外国地誌Ⅱ

宮口侗廸

ECの本質的理解を通じてヨーロッパ的なものを理解するようにつとめたい。いくつかの英文文献から抜粋したものを使用して授業を進めるが、受講者は予習・報告等を通じて積極的な参加が要求される。

経済地理学Ⅱ

生井澤 進

地域経済の振興と活性化を目的として自治体、産業組織、住民等が行なっている様々な活動についての講義を行なう。

〔教科書・参考書〕 講義開始日に指定する。

歴史地理学

櫻井正信

歴史と地理を、実証と理論に基礎をおいて、総合的にみていきます。

人口地理学

上坂修夫

人口現象は、周知の通り社会地理、文化地理、歴史地理、経済地理などの重要な構成要素であるが、それは単に量として捉えるだけでなく、質的に深くほりさげる必要がある事象である。この講義では、人口の分布や移動に関する従来の研究を跡づけながら、人文地理の諸分野において人口現象をいかに消化すべきかを考えるとともに、いままで地理学ではあまり活用されていなかった人口の地域的分析に関する種々の考え方や手法の説明も加え、人口現象にみられる一般的法則性と地域的特性とのかかわり合い方について考えていく予定である。

原書講読

上野福男

英語の地理学文献を選びプリントして輪読形式で講義を進める。とくに Marphey, R. : The Scope of Geography を主要参考書とする。英語の文献に親しめるようにする。

地質学

小池一之

地質学の基礎を中心に講義を進める。内容は、

- (1) 地球と地史、(2) 地球上に分布する岩石と地層
- (3) 地殻変動、(4) 火山

などを中心に、スライドその他をまじえてわかりやすく説明する予定である。各人に夏休みの地質調査レポートを出す予定。

〔教科書〕 ホームズ著（上田ほか訳）『一般地質学 [I]』（東大出版会） ¥ 3,400

土壌地理学

漆原和子

土壌の生成について解説し、多くの土壌生成因子のうち、特に時間、気候、地形について詳しく考察する。さらに人為によって、土壌がどのように変りつつあるのかも考察する。

〔教科書〕 『地形と土壌』〔新地学教育講座9〕（東海大学出版会）

気候学

中村和郎

気候学の基礎を講義する。気候諸要素、総観気候学、世界と日本の気候誌、気候と人間との関わり、気候変化をとりあげる。

海洋学及び陸水学

長沼信夫

水を研究対象としている学問分野はいろいろあるが、ここでは自然地理学（水文学）の立場から水に関するテーマを選び講義していく。また隣接分野における水の研究についても紹介する予定である。

〔教科書〕 『海洋と陸水』〔新地学教育講座10〕（東海大学出版会）

〔参考書〕 『陸水』〔地球科学講座10〕（共立出版KK）

日本地誌Ⅲ

中島義一

歴史地理学上の諸問題に重点をおく。下記教科書のほか地図帳を忘れずに持ってくること。

〔教科書〕 矢守一彦『空からみた歴史景観』（大明堂）
¥ 2,000

外国地誌Ⅲ

梅原弘光

主に東南アジア地域を対象とし、前半でその自然、住民、歴史を概観、後半で独立後の東南アジア諸国の直面する諸問題を南北問題のコンテキストの中で検討する。参考図書は授業の中で適宜紹介する。

都市地理学

今朝洞重美

都市の地理学的研究とは具体的にはどのようなものか、日本、外国にテーマをとり学習する。

〔参考書〕 山鹿誠次『都市地理学』（大明堂）

計量地理学

奥野隆史

1960年代より発展を遂げた計量地理学について平易に説述する。その順序は、地理学研究の筋道に沿って、(1)データの入手と吟味より始まり、(2)分布解析、(3)構造分析へと進む。数学的知識は初歩的なもので十分である。しかし、講義は累積的知識を必要とするので、毎回出席しないと理解不能となることに注意されたい。

〔教科書〕『計量地理学の基礎』(大明堂) ¥ 2,600

応用地理学Ⅰ

高木正博

自然環境の変貌について、災害や各種の人為的な変化との関係からとらえる。また、治水・利水に関する問題を、地理学と他の研究分野を関連させてのべる。

〔参考書〕西村嘉助『応用地形学』(大明堂)
大矢雅彦『河川の開発と平野』(大明堂)

応用地理学Ⅱ

今野修平

応用地理学として、地域開発論の講義を行う。地域開発論の学的体系をのべる他、第三次全国総合開発計画を使用し、現行国土計画の内容を講ずる他、長期展望下の日本列島の将来や、地域開発政策の流れ等全般に亘る。

〔教科書〕『第三次全国総合開発計画』『2000年の日本』

文化地理学

茨口善美

本講義では、まず文化地理学の中心的課題、すなわち(1)文化、(2)文化領域、(3)文化景観、(4)文化史(誌)、(5)文化生態について概説する。さらに内・外の研究事例を紹介しながら、文化地理学的手法による地域分析について議論する。

空中写真判読法及測量学

小池一之

測量学の基礎的事項を中心に講義する。随時課題を出すので、かならず締切日までに提出すること(課題数は

年間5—6)。また、対数、三角函数(数学Ⅰ程度)の復習もしておくこと。実習も含まれる。

(1)誤差論 (2)角の測定 (3)距離測定 (4)水準測量 (5)多角測量 (6)地形測量 (7)写真測量 (8)写真判読法 (9)リモートセンシング

〔教科書〕小田部和司『図解土木講座測量学』(技報堂出版) ¥ 2,800

地理学特講Ⅰ

長野 覚

高等学校・中学校の社会科地理教員の採用試験を受験する者を対象とする。指導内容は1学年以来、学習した地理学の教科内容を整理・集約することに重点を置く。また、小・中・高校一貫した社会科教育カリキュラムの改訂に対応した受験が可能のように、地理以外の教科についてゼミ形式の補講を予定している。テキストはプリントを主体とするが、下記参考書も必備のものである。

〔参考書〕『教育小六法』(学陽書房)・学習指導要領
・日本国勢図会・高校地理教科書・中学校社会科教科書・地図帳

地理学演習

上野福男

卒業論文の作製指導に重点をおいて演習を行う。現地調査の方法、資料の整理、論文作製の基本的態度等について述べ、事物を把握し理解する力をひきだし、論文作製能力を達成させる。

地理学演習

小川 徹

卒業論文の指導を中心に。およその日程であるが、(1)春休みを利用することが前提なので、この点については別個にガイダンスを行う。(2)登録のためのテーマ決定・題目の検討 (3)調査資料・調査方法の検討 (4)秋学期に調査結果の報告と論述の検討。以上の日程にしたがって、各人少くとも3回発表の必要がある。この規定は厳密に実施する。

地理学演習

今朝洞重美

地理学の本質論の研究と地誌学および一般地理学(人文地理学)に関する卒業論文の演習を行う。

地理学演習

小池 一之

前期：自然地理とくに地形学を中心とする基礎的調査方法の習得とその応用について、指導する。コンピューターによるデータ処理の基礎も学ぶ予定。

後期：各人のテーマにそった具体的な指導を中心とする演習。

地理学演習

菱口 善美

ここでは4年生を対象とする卒業論文の作成の指導を行う。前期においては、各履修者の論文の主題に含まれる問題点の指摘と研究方法について、後期には、実態調査にもとづく論文作成の技術的方法について重点をおく。

地理学演習

櫻井 正信

地理学の演習を通じて、最終学生の成果をあげるよう努力します。ことに卒業論文の作成の指導もしたい。

地理学演習

長沼 信夫

卒業論文の作成指導を中心におこなう。前期は論文の書き方、文献資料の蒐集・整理、調査方法、文献紹介等についておこなう。後期は各自のテーマでおこなった夏期休暇中等の調査・研究成果を報告してもらい、出席を重視し、平常点で評価する。なお、前期および後期に1～2回の合宿（総合報告・検討会）を行う予定である。

地理学演習

西村 嘉助

卒業論文を作成する学生に対し、問題の設定・情報の収集・論理のたて方など、討論を主として指導する。

地理学演習

高木 正博

卒業論文の作成指導を主体とする。まず、各自のテーマや、参考文献・資料の選択整理、現地調査の方法などを検討する。現地調査後は、各自その成果を発表し、討論のうえ論文作成へと導く。

調査地域へはできるだけ多く出かけ、問題点を整理しておくこと。

地理学演習

長野 覚

卒業論文の作成を目標にして、前期は参考文献・資料収集・実地調査・成果の整理などの方法を指導する。後期は論文作成の進度に合わせて中間発表を行ない、討論を重ねて内容を充実させ、完成までの指導をする。

地理学演習

早船 元峰

卒業論文を作成する学生に対する演習である。前半には論文の作成、現地調査、文献資料の収集、整理等の方法について講じ、後半は卒業論文のテーマにしたがって調査研究した成果（中間報告）の発表や関連した論文の内容の紹介をさせる。

歴史学科

基礎教育科目

基礎歴史学(飯島 武次)	104
基礎歴史学(山口 一之)	104
基礎歴史学(所 理喜夫)	104

専門教育科目

史学概論(椽川 一朗)	104
日本史概説Ⅰ(古代・中世)(杉山 博)	104
日本史概説Ⅱ(近世・近代)(吉田 常吉)	104
東洋史概説Ⅰ(阿部 肇一)	104
東洋史概説Ⅱ(前田 正名)	105
西洋史概説Ⅰ(秀村 欣二)	105
西洋史概説Ⅱ(椽川 一朗)	105
考古学概説Ⅰ(日本)(倉田 芳郎)	105
考古学概説Ⅱ(外国)(飯島 武次)	105
日本史学史(葉貫 磨哉)	105
東洋史学史(前田 正名)	105
西洋史学史(石川 澄雄)	105
考古学史(飯島 武次)	105
演習Ⅰ(大野達之助)	105
演習Ⅱ(大野達之助)	106
演習Ⅰ(葉貫 磨哉)	106
演習Ⅱ(葉貫 磨哉)	106
演習Ⅰ(杉山 博)	106
演習Ⅱ(杉山 博)	106
演習Ⅰ(箭内 健次)	106
演習Ⅱ(箭内 健次)	106
演習Ⅰ(所 理喜夫)	106
演習Ⅱ(所 理喜夫)	106
演習Ⅰ(吉田 常吉)	106
演習Ⅱ(吉田 常吉)	107
演習Ⅰ(山口 一之)	107
演習Ⅱ(山口 一之)	107
演習Ⅰ(阿部 肇一)	107
演習Ⅱ(阿部 肇一)	107
演習Ⅰ(前田 正名)	107
演習Ⅱ(前田 正名)	107
演習Ⅰ(石川 澄雄)	107
演習Ⅱ(石川 澄雄)	107
演習Ⅰ(椽川 一朗)	107
演習Ⅱ(椽川 一朗)	108
演習Ⅰ(飯島 武次)	108

演習Ⅱ(飯島 武次)	108
演習Ⅰ(鶴丸 俊明)	108
演習Ⅱ(倉田 芳郎)	108
日本史各説Ⅰ(大野達之助)	108
日本史各説Ⅱ(杉山 博)	108
日本史各説Ⅲ(箭内 健次)	108
日本史各説Ⅳ(山口 一之)	108
東洋史各説Ⅰ(前田 正名)	108
東洋史各説Ⅱ(宇都木 章)	109
東洋史各説Ⅱ(光嵐 督)	109
東洋史各説Ⅲ(吉田 寅)	109
東洋史各説Ⅳ(岡本 敬二)	109
西洋史各説Ⅱ(石川 澄雄)	109
西洋史各説Ⅲ(伏島 正義)	109
西洋史各説Ⅳ(中村 道雄)	109
西洋各国史Ⅰ(青木 道彦)	109
西洋各国史Ⅱ(阿部 重雄)	110
西洋各国史Ⅲ(椽川 一朗)	110
西洋各国史Ⅳ(石川 澄雄)	110
考古学各説Ⅰ(伊藤 玄三)	110
考古学各説Ⅱ(関根 孝夫)	110
古文書学(今枝 愛真)	110
古文書講読Ⅰ(葉貫 磨哉)	110
古文書講読Ⅱ(所 理喜夫)	110
古文書講読Ⅱ(宮本由紀子)	110
日本史特講Ⅱ(中世)(今枝 愛真)	110
日本史特講Ⅲ(中世)(杉山 博)	111
日本史特講Ⅳ(近世)(箭内 健次)	111
日本史特講Ⅴ(近世)(所 理喜夫)	111
日本史特講Ⅴ(近世)(土肥 鑑高)	111
日本史特講Ⅵ(近代)(吉田 常吉)	111
日本史特講Ⅶ(近代)(山口 一之)	111
東洋史特講Ⅱ(近世・近代史)(光嵐 督)	111
東洋史特講Ⅲ(中世史)(前田 正名)	111
東洋史特講Ⅳ(近・現代史)(吉田 寅)	111
東洋史特講Ⅴ(中央西アジア史)(岡本 敬二)	111
東洋史特講Ⅶ(古代史)(宇都木 章)	112
西洋史特講Ⅰ(伏島 正義)	112
西洋史特講Ⅱ(秀村 欣二)	112
西洋史特講Ⅴ(中村 純)	112
考古学特講Ⅰ(飯島 武次)	112
考古学特講Ⅲ(狩野 千秋)	112
日本仏教史Ⅱ(葉貫 磨哉)	112
日本仏教史Ⅲ(大野達之助)	112
日本文化史Ⅱ(圭室 文雄)	112
西洋文化史Ⅰ(椽川 一朗)	113
西洋文化史Ⅱ(阿部 重雄)	113
考古発掘実習(飯島 武次)	113
考古学実習Ⅰ(写真)(斎藤 孝哉)	113
考古学実習Ⅱ(記録)(前期)(水村 孝行)	113

考古学実習Ⅱ（記録）（後期）（酒井 清治）……	113
考古学実習Ⅲ（測量）（栗山 稔）……………	113
考古学実習Ⅳ（調査）（関根 孝夫）……………	113
地誌学（今朝洞重美）……………	114
地誌学（長野 覚）……………	114
地誌学（渡邊 盾夫）……………	114
人文地理学概説（高木 久）……………	114
歴史地理学（櫻井 正信）……………	114
哲学史（山下 太郎）……………	114
歴史哲学（久保 陽一）……………	114
有職故実（鈴木 敬三）……………	114
美術史概説（林 良一）……………	114
西域美術史（林 良一）……………	115
仏教美術（林 良一）……………	115
中国歴史文学（中村璋八）……………	115
ラテン語特講（佐藤玖美子）……………	115
日本民俗学（小島 清志）……………	115

歴史学

基礎教育科目

基礎歴史学

飯島武次

考古学より見た東洋の歴史について。

基礎歴史学

山口一之

政治過程を主とした幕末維新史の講義。明治維新というものを考える材料にしていきたい。

基礎歴史学

所理喜夫

新入生諸君を、歴史学へと導入することを目的とする科目である。歴史学における基礎概念について考えたのち、日本史学に例をとりながら、方法論についても講述する。

(教科書) 堀米庸三『現代歴史学入門』(有斐閣)

¥ 1,000

専門教育科目

史学概論

椽川一朗

史学研究の基礎的方法を略説したのち、総合的記述のための学説史整理と史料分析および理論構成の方法を、比較的研究の実例を挙げて講述する。

日本史概説Ⅰ(古代・中世)

杉山博

鎌倉幕府と室町幕府の政治機構と政治過程を概説してこの時代の特色と意義について明らかにしたい。

〔教科書〕佐藤進一著『日本の中世国家』(岩波書店)

¥ 1,400

日本史概説Ⅱ(近世・近代)

吉田常吉

江戸幕府の幕藩体制の成立と崩壊への推移を述べ、明治政府の成立とその中央集権的統一国家形成への過程について論述する。

東洋史概説Ⅰ

阿部肇一

古代より唐・宋あたりまでの概説を行う。主として政治・社会・経済を中心としながら、文化を対応させて説明してゆく。

〔教科書〕山崎宏編『東洋史概説』(南雲堂深山社刊)

東洋史概説Ⅱ

前田正名

元・明・清の概説をする。13世紀初めにチンギス汗が興起する時期から説きはじめ、アヘン戦争の時期に至るまでの中国史を中心として述べ、併せて周辺異民族の歴史にもふれる。政治・経済・社会を中心に説明するが、できるだけ文化についてふれる。

〔教科書〕 前田正名『東アジア史概説』（文化書房博文社）

西洋史概説Ⅰ

秀村欣二

本講義においては古代オリエン特世界における西洋史の源流よりはじめ、ギリシア・ローマの古典古代の政治・社会・文化の本質と展開を辿り、キリスト教の成立と発展を明らかにして、西洋中世の社会構造と文化の性格を探究して西洋近代への道を示す。

〔教科書〕 秀村欣二編著『西洋史概説』第3版（東京大学出版会） ¥ 2,000

西洋史概説Ⅱ

椽川一朗

西洋近代史を、社会・経済・政治および思想の各方面から総合的・理論的に講述する。

考古学概説Ⅰ（日本）

倉田芳郎

日本考古学研究の基礎的知識が身につくよう、講義するつもりである。年度第1週の授業には必ず出席してほしい。

考古学概説Ⅱ（外国）

飯島武次

『考古学ゼミナール』の講義を通じて世界考古学について講義を行なう。

〔教科書〕 江上波夫監修『考古学ゼミナール』（山川出版社、1976年 学生版） ¥ 2,800

日本史学史

葉貫磨哉

古代から近代に至る歴史書の成立過程と、その概要について講義する。

東洋史学史

前田正名

中国における東洋史学の発達過程を史料に則して説明する。

西洋史学史

石川澄雄

西洋史学の発達を、文化史の動きをからませて概観する。1年で完結する短い講義であるから、受講者は、西洋史概説の知識を十分にこなして出席されたい。プリント併用の予定だが、参考書類は授業をとおして指示・説明する。

〔参考書〕 西洋史概説のテキストを持参されるとよい。

考古学史

飯島武次

本年も東洋考古学史の講義を行なう。

演習Ⅰ

大野達之助

天平宝字元年正月から史料講読。古代史漢文の読解力を涵養することに力を入れ、併せて主要な史実を考究する。

〔教科書〕 国史大系本『続日本紀』前篇

演習Ⅱ

大野達之助

宝亀四年正月から史料講読、漢文の読解力を涵養するとともに卒業論文の指導も行う。
〔教科書〕 国史大系本『続日本紀』後篇

演習Ⅰ

箭内健次

近世史料を用い、史料の読解力、批判力を養い総合的理解をつかむこととする。史料としては「折たく柴の記」を用いる予定。詳細は開講時に指示する。

演習Ⅰ

葉貫磨哉

蔭涼軒日録の文正元年九月より日次を追って講読し、將軍義政の生活・習慣・趣味及び、幕府の動静を考える。また五山派のあり方を理解するため見学なども行う。

演習Ⅱ

箭内健次

卒業予定者を対象とし、その論文のテーマに則して適宜教材を提示し、史料の解釈、批判力をたかめることを目標とする。

演習Ⅱ

葉貫磨哉

満濟准后日記の応永廿一年十一月より講読し、政治・宗教などのあり方を探る。なお卒業論文の指導もあわせて行う。

演習Ⅰ

所理喜夫

「石川正西聞見集」原本の影写本をコピーして講読し、江戸幕府創業史を考える。
〔教科書〕 影写本のコピー。実費 約 ¥ 1,000

演習Ⅰ

杉山博

前年度に引き続き、記録を歴史研究にいかに対応するか、その実例を「快文僧都記」によって、具体的に検討してみたい。
〔教科書〕 プリント使用

演習Ⅱ

所理喜夫

戦国期より、近世初頭にかけての、松平・徳川氏関係の古文書をコピーし、解読する。なおこの時間に卒業論文の指導を重点的に行なうので、受講者は卒業年度生に限定する。
〔教科書〕 プリント

演習Ⅱ

杉山博

室町・戦国時代の諸様相を概観し、この時代の研究の状況を詳論し、あわせて卒論の指導を行いたい。
〔参考書〕 網野・石井・笠松・勝俣著『中世の罪と罰』
(東京大学出版会) ¥ 1,400

演習Ⅰ

吉田常吉

江戸末期の下級武士の手記により、その生活を考察する。読解力を養うため、手記原本を複写してテキストに使用する。

演 習 II

吉 田 常 吉

「山本政恒手記」により、徒士の修業・勤仕の状態を考察する。解講力を養うため、手記原本を複写してテキストに使用する。なお併せて卒業論文の指導を行う。

演 習 I

前 田 正 名

資治通鑑巻 201 竜朔 2 年 8 月より講読する。主として学生自身が交代して講読し、これを訂正し、指導する。
〔教科書〕 資治通鑑をコピーして学生に配布する。

演 習 I

山 口 一 之

近代の書翰類を使って、史料の解読力、批判力を養う時間になりたいと思っている。教材はこちらで準備するが、参考書として下記の書物を用意すると有用である。

〔参考書〕 児玉幸多編『くずし字解読辞典』〔増補版〕
(近藤出版社)

演 習 II

前 田 正 名

本年度の前半期は二十二史劄記を講読する。学生が交互に読み、その誤読を訂正し、指導する。後半期は学生各自の卒業論文について研究した結果を発表させ、その指導を行う。

演 習 II

山 口 一 之

下記の書物を使用して、各自の研究発表と全員参加の討論を行う時間とする。

〔教科書〕 筒井若水等編『法律学教材 日本憲法史』
(東京大学出版会 ¥ 3,200)

演 習 I

石 川 澄 雄

西洋史、3 年。テキストは英文から選ぶ予定。私の専攻の関係から、中欧・ドイツ史中心になることを諒解されたい。山川出版社「世界史小辞典」、平凡社「カラー世界史百科」を携行すること。プリント使用予定。

演 習 I

阿 部 肇 一

「二十二史劄記」の講読及びその歴史的解釈を個人個人の研究発表を兼ねながら行う。

〔参考書〕 『二十二史劄記』プリント

演 習 II

石 川 澄 雄

卒業年次生の卒論指導を兼ねるので、該当者は必ず出席すること。モンテスキュー『法の世界』英訳文を輪読し、またトインビーの『歴史の研究』の一部をも講読予定。

演 習 II

阿 部 肇 一

「入唐求法巡礼行記」の講読及びその歴史的意義について個人研究発表をして貰いながらすすめる。

〔参考書〕 プリント：東寺本『入唐求法巡礼行記』

演 習 I

椽 川 一 朗

ロック『市民政府論』(英語原典)第12章より講読。

演習Ⅱ

椽川 一朗

ルソー『民約論』（フランス語原典）第3編の講読。
兼ねて卒業論文の指導をおこなう。

日本史各説Ⅰ

大野 達之助

邪馬台国の研究史から説き始めて大和朝廷の成立、倭の五王の問題、朝鮮半島への進出、仏教・儒教の伝来、聖徳太子の政治と文化などについて講義する。

演習Ⅰ

飯島 武次

『史記』平準書講読

日本史各説Ⅱ

杉山 博

戦国時代の政治・経済・文化の諸相を概説し、今日この時代を研究することの意義について明らかにしたい。
〔教科書〕『日本の歴史 11』（中央公論社）中公パックス ¥1,200

演習Ⅱ

飯島 武次

卒業論文の指導を兼ね、考古資料の調査研究を行なう。発表方法については、最初の授業の折りに指示する。

日本史各説Ⅲ

箭内 健次

いわゆる「キリシタンの世紀」についてその概観と意義について講述する。

演習Ⅰ

鶴丸 俊明

日本を含めた東北アジアの先史文化を、原書講読を通し学ばせる予定である。

〔教科書〕NORTHEAST ASIA IN PREHISTORY
Chester S. Chard

日本史各説Ⅳ

山口 一之

下記の書物に収められた資料を読みながら、近代日本の問題をつかむ時間になりたいと思っている。

〔教科書〕筒井若水等編『法律学教材 日本憲法史』
（東京大学出版会） ¥3,200

演習Ⅱ

倉田 芳郎

日本の6世紀から8世紀にかかわる考古学・古代史の論文・報告書を1篇ずつ選ばせ、論評するか、あるいは資料を調べて補強させ、考古学の方法を身につけるように仕向けたい。あわせて、この時間を用いて、卒業論文の指導も行う。年度1時限目に必ず出席のこと。

東洋史各説Ⅰ

前田 正名

乾燥アジアにおけるオアシス国家について述べ、併せてシルクロードにふれる。

〔参考書〕伊瀬仙太郎『中国西域経営史の研究』
前田正名『河西の歴史地理学的研究』

東洋史各説Ⅱ

宇都木 章

〔秦漢時代史〕

秦漢帝国の成立事情を考え、その発展の状況をたどり、中国古代帝国の性格並びにその特色を明らかにする。次に社会史上の諸問題を取りあげ、豪族社会成立の推移を考察し、出来得れば当代の主要な遺跡、遺物を紹介し度い。

東洋史各説Ⅱ

光 島 督

中国とならんでアジアで最も早く文化の開けた印度について、古代印度の文化を代表するヴェーダ文学から、その影響を大きく受けた仏教の成立までの思想的変遷を中心に、ヴェーダ、マハーバーラタ、ラーマヤーナ、原始仏教の成立などをテーマとして印度の古代史を考察する。

〔教科書〕 『アジア古代史概説』（成文堂）¥ 1,800

東洋史各説Ⅲ

吉 田 寅

五代・宋の社会経済史を中心に、中国中世史の歴史的動向を考察する。なお時に応じて史料の解説を行ない、唐・宋時代史研究への手引きとする。

〔参考書〕 『中国の歴史5（五代・宋）』（講談社）
¥ 1,500

東洋史各説Ⅳ

岡 本 敬 二

政治的にも文化的にも東アジアの歴史世界に多大な影響を与えていた中国の唐朝が衰退すると、契丹族や女真族などの諸民族が抬頭して、新しい歴史の展開がみられた。やがて蒙古族によって、世界史的大帝国が建設され、東アジア歴史世界は大きく進転する。こうした問題について考察する。参考書は適時に紹介する。

西洋史各説Ⅱ

石 川 澄 雄

フランス革命時代を中心に、近代史の諸問題を考察す

る。「近代」の歴史的意義を検討する点に重点を置くので、概説的知識を十分こなしたうえで出席されたい。

〔参考書〕 『カラー世界史百科』（平凡社）
『世界史小辞典』（山川出版社）

西洋史各説Ⅲ

伏 島 正 義

中世史に興味がひかれる契機として、ある伝説的物語のもつ魅力に負うところが少なくないと考え、ロビン＝フット物語について採りあげるのが第1案である。アンリ＝ピレンヌの見解によれば、「最早キリスト教徒に板子一枚地中海に浮かべること」を不可能ならしめたイスラム教徒の地中海進出は、西方世界と東方世界との交通の閉鎖を意味した。しかしその孤立はノルマン人（ヴァイキング）により救われた。彼らが与えた少なからぬ社会・経済的発展の役割に着目し、彼らの海外遠征や植民、故国での生活や文化等について検討するのが第2案である。いずれの案にせよ、講義、関係文献・論文の輪読、演習形式を採る。具体的には受講生と相談のうえ決める。

西洋史各説Ⅳ

中 村 道 雄

昨年度につづき、主として19世紀後半以後、現代に至るアメリカ合衆国の歴史を考察する。西洋史専攻者のみでなく、ひろく日本史・東洋史専攻の学生諸君の受講を希望する。

〔参考書〕 有賀 貞・大下尚一編『概説アメリカ史』

西洋各国史Ⅰ

青 木 道 彦

昨年はクロムウェルの第一部を講義したが、今年はそれに続いて、第二次内戦・軍と議会の対立・国王処刑と共和政といった時期のクロムウェルの活動、革命の動向とその意義について講義したい。

英文の年表や英文プリントを配布して、イギリス史を英語を通して理解することも、多少加味して行きたいと考えている。

〔教科書〕 今井 宏『クロムウェル―ピューリタン革命の英雄』（清水書院）

〔参考書〕 浜林正夫『増補版 イギリス市民革命史』（未来社）

西洋各国史Ⅱ

阿部重雄

ロシアの革命史を概観する。

〔教科書〕 フランソワ＝クサヴィエ・コカン『ロシア革命』（白水社、文庫クセジュ）

〔参考書〕 ハリソン・ソールズベリ『黒い夜・白い雪』（上・下）（時事通信社）

西洋各国史Ⅲ

椽川一朗

デカルト『方法叙説』（フランス語原典）の講読を中心に、フランス思想史を概観する。

西洋各国史Ⅳ

石川澄雄

やさしいドイツ語テキスト（プリント）使用、ドイツ史を研究する。卒業年次生の卒論指導をも兼ねたいので、4年演習出席者は、卒論題目にかかわりなく、選択するように。3年生の出席も歓迎する。

考古学各説Ⅰ

伊藤玄三

古墳時代の講義を行なう。特に古墳文化を中心とする課題を取扱い、政治的背景を考慮していく予定。

〔教科書・参考書〕 教室で指示

考古学各説Ⅱ

関根孝夫

土師器研究の現況とその問題について講義を行う。

古文書学

今枝愛真

概説と解説法

古文書講読Ⅰ

葉貫磨哉

古文書の読解力を養う授業であるので、演習的に行うので予習も必要であり、また時折に現物も使用する。

〔教科書〕 教科書『演習古文書選』〔古代中世編〕（吉川弘文館）

古文書講読Ⅱ

所理喜夫

織豊期から、近世末期までの古文書の解説と分析の方法について講述する。

〔教科書〕 日本歴史学会編『演習 古文書選（近世編）』（吉川弘文館） ￥1,000

〔参考書〕 林英夫監修『古文書解説・解説字典』（柏書房） ￥3,000

古文書講読Ⅱ

宮本由紀子

近世古文書の基礎的な知識を修得し、各自が古文書を解説できるまでの一連の学習をする。テキスト使用。

〔教科書〕 『演習古文書選（近世編）』（吉川弘文館） ￥980

日本史特講Ⅱ（中世）

今枝愛真

碧山日録の講読

日本史特講Ⅲ（中世）

杉 山 博

16世紀末の日本社会の状況を、フロイスのみた視点を検討することによって、各方面の諸相を明らかにしたい。

〔教科書〕 松田毅一・E. ヨリッセン著『フロイスの日本覚書』（中央公論社「中公新書」707）
¥ 480

日本史特講Ⅳ（近世）

箭 内 健 次

昨年度に引きつづき日本人及びヨーロッパ人の相互認識の変遷について論ずる。時代は18世紀末より日本の開国まで。

日本史特講Ⅴ（近世）

所 理 喜 夫

日本封建制論と近世国家論につき概述し、ついで松平・徳川氏権力の発展につき講述する。

日本史特講Ⅴ（近世）

土 肥 鑑 高

「米遣い経済」といわれる近世について、全国に目をくばりつつ、米の流通、統制などについてみ、さらに米商人の動向にふれたい。

〔教科書〕 土肥鑑高著『米と江戸時代』（雄山閣）
¥ 1,800

日本史特講Ⅵ（近代）

吉 田 常 吉

幕府の長州再征の失敗とその後の政局について講述する。

日本史特講Ⅶ（近代）

山 口 一 之

日本近代史における対外問題をとりあげての講義。

東洋史特講Ⅱ（近世・近代史）

光 畠 督

中国の辺疆であるチベットについて、古代から近代にかけての変遷とラマ教王国の成立、変転、ボン教とラマ教の関係、清代のチベット政策などを概説するものである。

東洋史特講Ⅲ（中世史）

前 田 正 名

東洋歴史地理学の発達過程を概説する。主として中国におけるこの学問の発達をあとづけて説明するが、日本における斯学の発達にもふれる。

東洋史特講Ⅳ（近・現代史）

吉 田 寅

明・清時代のキリスト教を中心に、中国の近・現代における東西交渉史の一面を考察する。なお時に応じて史料の解説を行ない、明・清時代史研究への手引きとする。

〔参考書〕 『アジアキリスト教史Ⅰ』（教文館）
¥ 1,500

東洋史特講Ⅴ（中央西アジア史）

岡 本 敬 二

古くから中央アジアは、ユーラシア大陸の東西文化交流の要路であった。有名なシルクロードは、まさにこの地を通っている。歴史上この地域には幾多の諸民族が興亡した。こうした歴史的諸相を具体的史料に基づいて考えてみたい。

東洋史特講Ⅶ（古代史）

宇都木 章

〔戦国時代〕

戦国時代に関する主要な史料（諸子を含む）について解説し、近年の重要な考古学上の発見遺物を紹介する。主要な論題は戦国各国に生じた社会的政治的変動と、それともなうて発生した変法運動の内容とその意味について考察することである。

西洋史特講Ⅰ

伏島正義

西洋史を専攻する学生諸君は、将来に備えて語学力を養うことが望まれる。この特講Ⅰでは、平易な英文をテキストとして、西洋史の概説的知識を身につけるよう、演習形式をとる。新2年生および北海道教養部からの3年生で、西洋史を希望する学生は必ず出席すること。テキストは第一時限目に指示する。

西洋史特講Ⅱ

秀村欣二

仏教・イスラム教などとならんで世界宗教の一つで、現代世界にも大きな影響力をもつキリスト教の歴史を、イエスの時代より現代まで概説する。キリスト教の古典・美術などの紹介、比較宗教的なアプローチをも併せて行なうつもりである。

〔教科書〕 R. H. ベイントン著 気賀重躬・気賀健生訳『世界キリスト教史物語』（教文館）
¥ 1,800

西洋史特講Ⅴ

中村 純

ペロポネソス戦争開始以来、マケドニアの軍事力に膝を屈するに至るまで、ギリシア世界は、絶え間ない戦争に明け暮れた。この慢性的戦争状態とも言うべき事態がボリス世界の政治構造の変化にどのような影響を与えたかという問題に考察の眼を向けてみたい。

具体的には、シンリーのディオニュシオスをはじめとする、いわゆる後期僭主達の存在を視野に入れながら、主として、前5世紀後半以降のアテネの内政史における政治と軍事の関連のあり方の一端を検討していくこととなる。

〔参考書〕 随時紹介

考古学特講Ⅰ

飯島武次

WANG ZHONGSHU “Han Civilization” の講読を行なう。

〔教科書〕 WANG ZHONGSHU, “Han Civilization”, Yale University Press 1982
¥ 12,800（コピー可）

考古学特講Ⅲ

狩野千秋

アメリカ大陸の古代文明のうち、とくにマヤ、アステカを対象として、それぞれの文化の生成過程と特質について考察する。

〔参考書〕 『マヤとアステカ』（近藤出版社）
¥ 3,500

日本仏教史Ⅱ

葉貫磨哉

五山派の学問が日本史の上で如何なる位置を占めるか、日本の学制のなかで考えて見たい。

日本仏教史Ⅲ

大野達之助

平安朝の仏教、すなはち日本天台宗と真言宗の成立と特色を説いて奈良朝仏教との相違を論じ、天台・真言二宗の発展を説き、ことに天台宗の密教化の中から鎌倉新仏教が誕生するに至る経過を論ずる。そして新仏教諸宗派の宗祖の伝記、各宗の思想的特色、さらに旧仏教の復興にも触れる予定である。

〔教科書〕 『新稿 日本仏教思想史』（吉川弘文館刊）

日本文化史Ⅱ

圭室文雄

日本文化のなかで、とくに日本の宗教の問題についてとりあげることにしたい。ここでは古代から現代に至るさまざまな宗教について吟味を加えることにし、それぞ

れの時代の文化にどのような影響を与えたかを検討したいと思う。

〔教科書〕 『日本人の宗教の歩み』(大学教育社)

〔参考書〕 『神仏分離』(教育社新書)

西洋文化史 I

椽川 一朗

西洋都市史を、経済・社会構造・政治・文化の諸方面から概観する。

西洋文化史 II

阿部 重雄

ヨーロッパ文明の源流にさかのぼり、ギリシア古典文化、ヘレニズム文化、ローマ文化などの特色を探る。

〔教科書・参考書〕 その都度指示する。

考古発掘実習

飯島 武次

野外における発掘実習を行なう。夏休みの発掘実習に、20日間以上参加することが必要である。年度始めの講義時間に必ず出席のこと。

考古学実習 I (写真)

斎藤 孝哉

主として、考古資料写真のための基礎的写真撮影および処理技術に重点を置き、次の様な内容で講義する。

- ①写真の用語と撮影の基礎
- ②小型カメラの扱い方
- ③フィルムの写真特性
- ④大型カメラ(4×5)
- ⑤露出計
- ⑥シンクロフラッシュ
- ⑦ネガ処理技術
- ⑧印画処理技術
- ⑨カラーフィルム
- ⑩ライティング
- ⑪その他

1日も欠席しない人に限る。

〔参考書〕 『よい写真へのアドバイス』(毎日新聞)

¥ 1,800

考古学実習 II (記録)

前期 水村 孝行

先土器、縄文時代の遺跡から出土した石器、石製品の実測(記録)技術の習得を目的とする。

その前提として、石の割れ方の基本原理、実測図作成上の約束事項、図化に必要な道具とその使い方の説明を行なう。また、各文献に示されたいろいろな実測図を検討し、その概要をのべる。

その後、実際に学生達に実測図を作成させ、図中に不備があれば、個々にその都度指導する。

〔参考書〕 加藤晋平・鶴丸俊明共著『図録 石器の基礎知識II先土器(下)』(柏書房) ¥ 2,000

考古学実習 II (記録)

後期 酒井 清治

古墳時代の土師器を使い、実測の基礎をみっちり行なう。

〔参考書〕 『埋蔵文化財発掘調査の手びき』(国土地理協会)

『野外考古学』(東京大学出版会)

考古学実習 III (測量)

栗山 稔

考古学における遺跡等、土地と関連する調査では、調査の規模の大小は問わず、調査の事象の位置・規模・状況などを正確・詳細に把握、結果を適切に整理するを要す。調査の過程での距離や高低差、方向を明らかにする測定結果からは、距離・角・方向・高さ・面積などの計算や地図・縦横断図が書かれる。調査区の広がりが大きくなると測定にも、必要精度の設定・測定方法の撰択、測定値の精度、誤差範囲、更に経費や時間を要しない高精度の成果取得方法、器材の選定など事前に十分な技術上の検討と手順の決定を要する。皆出席者に限る。

この教課では、上記に関する測量の基礎知識と基準点測量の技術取得とに重点を置いた教課内容とする。

〔教科書〕 榎原 毅著『測量の基礎』(山海堂出版)

考古学実習 IV (調査)

関根 孝夫

文化財保護法の解説と検討

地誌学

今朝洞 重美

地誌学の本質を考察しつつ、前期に日本地誌、後期に外国地誌を講義する。

地誌学

長野 覚

世界的視野において地理学の発達・概念を理解したのち、現代世界の地域的特色を、自然環境やそれと関連性をもつ人文現象について考察する。

後期には幾つかの国を対象に、その国の地誌を学習する。受講にさいしては、できるだけ地図帳を併用してほしい。

〔教科書〕 藤岡謙二郎他共著『世界地誌』〔改訂版〕
(大明堂)

地誌学

渡邊 盾夫

読図の方法を理解したのちに、各国の地誌について講義をする。受講の際には地図帳を持参すること。

人文地理学概説

高木 久

地理学の思想・歴史を述べ、人文地理学の方法論を考察する。「地理的な見方、考え方」の基礎の上に立って、人文地理学の各部門（地図、自然、人文関係）について概説し、人文地理学の理解と関心を深める。

歴史地理学

櫻井 正信

歴史と地理を、実証と理論に基礎をおいて、総合的にみていきます。

哲学史

山下 太郎

西洋近世哲学、とくにドイツ理想主義の流れを中心に講義し、カントから始めて、フイヒテ、シェリング、ヘーゲルに及び、ついでヘーゲル学派の分裂から、意志哲学の出現を辿り、ショーペンハウエルをへて、ニーチェに至る実存哲学出現までの経過を概説する。とくに社会哲学、国家哲学、政治哲学を重視し、テキストに「社会存在の理法」を用いて、ヘーゲルとショーペンハウエルの思想の比較をとくにくわしくのべることとする。

〔教科書〕 山下太郎『社会存在の理法——ヘーゲルとショーペンハウエル』（公論社）¥ 2,300

歴史哲学

久保 陽一

歴史哲学とは、歴史に関する哲学である。そしてこの哲学によって、われわれは「いかに生き、何を為すべきか」を学ぶのである。そこで、次のような歴史についての反省や考察をする。

I 歴史の概念。II 歴史の意義。III 歴史の叙述〔1〕 a. 文書の選択, b. 記録命題 c. 還元推理による因果的説明。IV 歴史の叙述,〔2〕 a. 歴史を動かす意志, b. 表現。

〔参考書〕 その都度示す。

有職故実

鈴木 敬三

公家・武家の故実の中で、装束・装身具・調度の類を中心として、文献所載の用語・名称の構造と、それらの時代・環境による特殊性について講述する。

美術史概説

林 良一

中国の魏晋南北朝より朝鮮の三国時代を経て、わが国の飛鳥・白鳳期の美術にいたる様式的展開について講述する。各地の寺院遺跡や遺品などのカラー・スライドを映写し、視覚的に理解を深めるように努める方針である。

西域美術史

林 良 一

西域美術，ことに仏教美術の東伝を中心として，各地遺跡および遺品について講述する。各地の遺跡や遺品のカラー・スライドを映写し，視覚的に理解を深めるように努める方針である。

〔参考書〕 林 良一『シルクロード』（美術出版社）

仏教美術

林 良 一

仏教美術の図像学ならびに古代インド美術の様式的展開について講述する。寺院の遺跡や仏菩薩等の尊像を，原地撮影のカラー・スライドによつて映写し，視覚的に理解を深めるように努める方針である。

中国歴史文学

中 村 璋 八

中国では夙に佚し，日本にのみ伝存した五行大義を，平易な解説を加えながら，演習方式で読んで行く。この陰陽五行説を集大成した五行大義は，奈良朝より江戸陽に至るまでの陰陽道，仏教，神道，国文学，年中行事，民間信仰など多方面に大きな影響を及ぼした書で，国文学や日本史，東洋史を専攻する人々には必読のものであると思う。

〔教科書〕 『五行大義校註』（汲古書院）

ラテン語特講

佐 藤 玖 美 子

この講座は，英米語をはじめとする現代ヨーロッパの言語のより良い理解者となるための，古典ラテン語の基礎知識の習得，とくに文法規則を学び，動詞，名詞の変化に慣れることを目的としています。また平行して，やさしいラテン語で書かれた読物の講読も行いたいと思います。

〔教科書〕 『詳解ラテン文法』（研究社）

日本民俗学

小 島 清 志

前半は，柳田国男以来展開されてきた民俗学の学説史を概観し，何が問われ，どのような方法によってきたのかということ，いささかなりとも明らかにしたい。後半は奄美・沖縄におけるフィールドワークにもとづきながら，現代の民俗学の諸問題，特に民俗社会の変化，都市・農村問題について考察することとしたい。

〔参考書〕 講義の中で随時指示する。

社 会 学 科

基礎教育科目

社会学概論(坪井 健)	117
社会福祉概論(高橋 重宏)	117
心理学概論(篠原 英寿)	117

専門教育科目

社会統計学(指田 隆一)	117
社会学史(安藤喜久雄)	117
社会学方法論(金丸 由雄)	118
社会調査(川本 勝)	118
社会調査実習(安藤喜久雄・川本 勝)	118
マスコミュニケーション(川本 勝)	118
産業社会学(安藤喜久雄)	118
都市社会学(岡田 真)	118
家族社会学(山根 常男)	119
法社会学(小林 弘人)	119
宗教社会学(桜井徳太郎)	119
社会心理学(坪井 健)	119
社会病理学(中本 博通)	119
外書講読Ⅰ(金丸 由雄)	119
外書講読Ⅱ(坪井 健)	119
社会学特講Ⅰ(橋爪 敏)	119
社会学特講Ⅱ(石田 昇)	120
社会学特講Ⅲ(加藤 譲治)	120
社会学原論(渡辺 源樹)	120
図書館学Ⅰ(若林元典・山崎慶子)	120
図書館学Ⅱ(若林 元典)	120
社会保障概論(小沼 正)	120
社会福祉法制(小林 弘人)	121
社会福祉方法総論(高橋 重宏)	121
社会福祉実習Ⅰ(高橋 重宏)	121
公的扶助論(小沼 正)	121
障害福祉論(原田 信一)	121
老人福祉論(奥山 正司)	122
児童福祉論(原田 信一)	122
母子福祉論(林 千代)	122
医療社会事業論(春見 静子)	122
地域福祉論(岡田 真)	122
社会福祉事業発達史(林 千代)	122
社会福祉管理運営論(重田 信一)	123
福祉外書講読(岡田 真)	123
リハビリテーション論(原田 信一)	123

ケースワーク論(高橋 重宏)	123
グループワーク論(松本 栄二)	123
海外社会福祉論(星野貞一郎)	124
社会福祉学特講Ⅰ(高橋 重宏)	124
社会福祉学特講Ⅱ(星野貞一郎)	124
社会福祉学特講Ⅲ(星野貞一郎)	124
異常児教育方法論(橋本 泰子)	124
異常児教育原論(橋本 泰子)	125
心理学史(萩野 源一)	124
心理統計学(篠原 英寿)	125
心理学実験(実習)(篠原 英寿・小野 浩一)	125
心理学研究法(小野 浩一)	125
基礎心理学Ⅰ(人格)(谷口 泰富)	125
基礎心理学Ⅱ(発達)(篠原 英寿)	125
基礎心理学Ⅲ(学習)(小野 浩一)	125
基礎心理学Ⅳ(社会)(水原 泰介)	125
基礎心理学Ⅴ(臨床)(中村 昭之)	125
心理学研究Ⅰ(実習)(萩野 源一)	126
心理学研究Ⅱ(実習)(水原 泰介)	126
心理学研究Ⅲ(実習)(中村 昭之)	126
心理学研究Ⅳ(実習)(篠原 英寿)	126
心理学研究Ⅴ(実習)(小野 浩一)	126
心理学研究Ⅵ(実習)(谷口 泰富)	126
生理心理学(谷口 泰富)	126
児童心理学(天野 珠子)	126
産業心理学(大塚 秀治)	127
グループ・ダイナミックス(花沢 成一)	127
カウンセリング(鈴木 順一)	127
心理検査法(花沢 成一)	127
禅心理学(脇本 平也)	127
心理学特講Ⅰ(佐々木雄二)	127
心理学特講Ⅱ(佐々木宏幹)	127
心理学特講Ⅲ(古賀 義亮)	128
精神医学(植村 肇)	128
心身医学(佐々木雄二)	128
社会政策(清水 英彦)	128
民法(青山 尚史)	128
労働法(平岡 一実)	128
行政法(高橋 政美)	128
経済原論(和田 禎一)	128
青少年問題研究(和田 謙寿)	129
教育社会学(村山 輝吉)	129
社会教育概論(磯野 昌蔵)	129
社会教育方法論(磯野 昌蔵)	129

社 会 学 科

基礎教育科目

社会学概論

坪 井 健

社会学は何をどのように明らかにする学問なのか。本講義は初学者を対象にした講義である点に留意しつつ、専門教育への導入でもある点を考慮して、社会学の学問的性格と基礎的概念を解説しつつ、現代社会の諸問題に社会学的分析がどのような有効性を発揮しうるか、われわれの身近な日常的経験と照らし合せながら講述する。

〔教科書〕 『新版社会学概論』（学文社）

〔参考書〕 『統計からみる社会学』（学文社）

社会福祉概論

高 橋 重 宏

近年、社会福祉は流行語の一つとなっているが、社会福祉とは何か？ ということになる、その解釈は人さまざままで、その内容や課題についての一致した見解が、必ずしもあるとはいえない。

日常生活のなかでも「慈善」、「慈善事業」、「社会事業」、「社会福祉事業」、「社会福祉」、「福祉」、さらに、「ソーシャル・ワーク」、「社会保障」などのことばを安易に混同し使用している場合が多い。

本講義では、まず、これらの基礎的な概念の整理をすることから始めたい。ついで、社会福祉の歴史的展開過程、社会福祉のしくみ、分野などについて論及し、社会福祉の諸制度の現状と課題について、一応の体系的理解ができるようつとめたい。

〔教科書〕 高橋重宏・島村忠義編著『社会福祉を考える』（川島書店）

〔参考書〕 『社会福祉六法』（第一法規）、『現代社会福祉事典』（全国社会福祉協議会出版部）
なお、その他の参考文献については図書館発行の『読書案内』（昭和59年版）を参照してほしい。

心理学概論

篠 原 英 寿

この講座は基礎教育科目に組入れられているが、専門科目であるので、心理学の関与している問題を全般的に取上げたい。そこで、心理学とはどのような学問か。その研究方法・研究対象、及び意義について講義し、さらにこれまでの研究成果をもとに具体的事例に即して、上述したこととの関連を紹介したい。

〔教科書〕 『心理学概説』（八千代出版）

専門教育科目

社会統計学

指 田 隆 一

社会調査ないし社会学に 응용される統計的方法について説明する。主な内容は、(1)測定と数量化、(2)代表値・散布度・回帰・相関、(3)標本抽出、(4)推定、(5)検定、(6)多変量解析法である。

講義科目であるが、(1)～(5)については作業を行ない、レポートを提出することが要求される。特別な予備知識は前提にしていない。

〔教科書〕 西平重喜『統計調査法 補訂版』（培風館）

〔参考書〕 安田三郎『社会調査ハンドブック（第3版）』（有斐閣）

社会学史

安 藤 喜 久 雄

社会学の形成、発展の歴史を概観する場合、主としてフランス、ドイツ、イギリス、アメリカ諸国のそれらについての足跡をたどることになる。社会学の歴史を学ぶということは、各国各時代の歴史的社会的背景の中から社会学的諸問題が発生していることから、それが現代社会の諸問題とどのようにかかわっているかを知ることにある。この点を考慮に入れながら講義を進めたい。

〔教科書〕 阿閉吉男・内藤莞爾編『社会学史概論』
(勁草書房刊)

社会学方法論

金丸由雄

社会学的な物の見方を身につけられるように、基本的概念を丁寧に学習し、次に社会学における古典といわれるような諸理論の構造を分析する。

〔参考書〕 セタバーグ著、安積・金丸訳『社会学的思考法』(ミネルヴァ書房)

社会調査

川本勝

社会調査は、社会的現実を科学的、実証的に把握、分析するための研究方法である。それは、直接現地調査によってデータを蒐集し、分析することに特色がある。

そこで、まず社会学理論と仮説と社会調査との関係を考察し、社会調査の手順にしたがって講義を進める。社会調査実習で具体的なテーマのもとに調査を行うので、実習とのかねあいを考えながら、調査を実施する上で特に注意しなければならない点や技法を具体的な例を用いながら検討してみたい。社会調査実習では実施上の技法をマスターすることになるので、社会調査の講義では社会学の方法論として社会調査の持つ意義などを中心に考察する。

〔参考書〕 福武・松原編『社会調査法』(有斐閣双書)
安田・原著『社会調査ハンドブック』
(有斐閣双書)

社会調査実習

安藤喜久雄・川本勝
坪井健

社会調査の技法をマスターすることを目的として、主として統計調査の実習を行う。まず社会調査の手順をひとつとおり理解した上で、調査の企画、設計、データの蒐集、集計、分析、報告書の作成の一連の作業を実施する。

本年度は、調査対象を都内大学生とする。データの集計及び解析にはコンピュータも併用する予定である。尚、調査実習は、実際の作業を通して社会調査の技法を習得することが目的であるので、出席は厳しくチェックする。

〔参考書〕 その都度指示する。

マスコミュニケーション

川本勝

マス・コミュニケーションの生産過程から受容過程にいたるまでの主要なメカニズムを、これまでのマス・コミ研究の成果、理論を紹介しながら考察する。

マス・コミュニケーションの特質、社会的機能、効果などを検討しながら、今日のマス・コミュニケーションと人びとの社会生活とのかかわりを社会学的に分析する。

また、ニュー・メディアといわれる新しいマス・メディアについての諸問題とそのインパクトなども考える。

〔参考書〕 竹内・児島編『現代マスコミュニケーション論』(有斐閣大学双書)

産業社会学

安藤喜久雄

現在、日本の経営の功罪が問われ、あり方が模索されているから、日本の経営の社会学的諸問題を抽出しながら分析する。その場合、日本の経営の普遍的側面と特殊な側面との両者がどのような関連性をもっているか、各側面にわたって分析することになる。このような分析を通じて日本の経営の特質やその変化についてみてみたい。

〔教科書〕 安藤喜久雄・石川晃弘編『日本の経営の転機』(有斐閣)

都市社会学

岡田真

「都市問題」の科学的究明に当る学問のうち、社会学に拠るものが、「都市社会学」である。だが、本講は科学的事実究明に終るのでなく、その上に、都市計画に関しても議論をすすめるものとする。

都市計画のソーシャル・プランニングに関して、福祉学者は、「なかなか参考になる」(大橋純一)研究成果をあらわしている。だから、もしあなたが「月給のとれる専門家」になるというのであるならば、「地域福祉論」(社選択単位・社福資格単位)をあわせて知ることが望ましい。(もちろん本講だけを履修する人に不利や理解困難が生じないように細心の工夫はするが)。

昨年はたまたま「臨調」最終答申が春に発表されたので、それをパワー・ストラクチャー論との関連で分析した。今年も、あるいは具体的・現実的問題をとりあげて、教室の討議の発火点とすることもあるかもしれない。

〔教科書〕 岡田真『都市化日本の学歴社会』（大明堂）

〔参考書〕 岡田真『コミュニティ・ワーク論』（大明堂）

日本都市学会『日本都市学会年報』（最新号）（ぎょうせい）

家族社会学

山根常男

以下のテーマについて講義する。少なくとも三分の二の出講を要す。三年になって山根ゼミを希望する者の聴講を必要とする。

1. 社会学と家族の研究
2. 家族と人間存在
3. 人格発達の弁証法と家族
4. 結婚の意味
5. 核家族化の意味と問題
6. 性・結婚・家族の未来

〔教科書〕 山根常男『家族の論理』（柿内出版）
¥ 2,400

法社会学

小林弘人

前期は、法社会学の基礎理論、後期は、法と社会との関連について、具体的テーマを設定して、そのテーマについての講義を行う。

その他、諸般のことがらについては、講義初日に説明する。

〔教科書〕 及川伸『法社会学入門』（法律文化社）

宗教社会学

桜井徳太郎

現代社会がかかえる宗教上の諸問題をとりあげ、それらを多角的な視野から分析する。とくに民衆の宗教的ニーズが志向する方向をとらえてその社会的特徴を思考したい。

〔教科書〕 桜井徳太郎『民間信仰と現代社会一人間と呪術』（評論社）

社会心理学

坪井健

本講義は、社会心理学をめぐる諸問題に配慮しつつ、基本的には社会生活をしている人々の社会心理諸現象

を、これまでの社会心理学が明らかにしてきた知見に依拠して、その社会的過程と心理的過程を分析的に解明することを目的とする。

〔参考書〕 講義の中で指示する。

社会病理学

中本博通

人格、家族および地域社会における社会病理を解説する。そこで、まず、社会病理の原理、人格における精神病理、非行、犯罪、売春、自殺等をのべ、家族における離婚、片親世帯、保育問題、老人問題、家庭内暴力等、地域社会における過密、過疎問題等に論及する。

〔教科書〕 中本博通編『社会病理と社会問題』（亜紀書房） ¥ 1,500

〔参考書〕 大橋薫編『社会病理学』（有斐閣）

外書講読Ⅰ

金丸由雄

講読する英文は難しすぎても易しすぎてもいけない。又内容は参加者の興味と出来るだけ合致することが望ましいので、テキストはクラスの諸君と相談して決定する。

外書講読Ⅱ

坪井健

外書講読Ⅱは、原書（英文）の講読力を培うと共に、原書を通じて社会学的分析力を培うことを目的とする。具体的には、いくつかの論文を輪読することになるが、テキストは開講時に指示する。

社会学特講Ⅰ

橋爪敏

本講では、政治社会学的諸問題についての講義を行なう。政治社会学は、政治現象について社会学的アプローチを試みる一分野である。したがって、社会学の対象である人間諸関係の政治的側面とそれ以外の諸側面との関連が問題となってくる。そこでまず、政治社会学とは何かを問うことから始め、大衆民主主義社会の状況、大衆とエリート、政治（社会）運動、政治的社会化などを取り扱うこととしたい。

〔教科書〕 未定（追って指示する）。

社会学特講Ⅱ

石田 昇

街の中を慌しく走り抜ける一枚の号外は、民衆の驚ろきと悲しみの中で、ひとつの終焉と変革、ひとつの挫折と期待を刻印するその時代の処方箋といえよう。

そこで、現象的シミュレーションの活性化ともいへば号外ジャーナリズムを掘り起すことによって、その時代を迷走した社会心理のうねりを実証的に問診してみた。それが本講の狙いである。

〔教科書〕 講義が多岐に亘り特定できないので必要なし。

〔参考書〕 『近代日本思想史の基礎知識』（有斐閣）
¥ 1,200（注）在庫無し

社会学特講Ⅲ

加藤 譲 治

変動する現代産業社会の諸相を理解し、労使関係諸課題を討究することを授業の目的とする。変動要因としては技術進歩と欲望の肥大化が挙げられるが、そうした変動が日本社会に固有に見出される謂ゆる「日本的なもの」をつき崩し、産業社会一般に見出される普遍的な原理に収練するとの問題意識のもとに、労使関係問題の変容をみていきたい。また、「脱」工業社会への展望のもとでの、企業、労働組合の役割、労働の意味内容の変化にも触れていきたい。学生諸君との討論を大いに期待する。

〔教科書〕 加藤譲治著『生産性と労使関係』（日本生産性本部）
大塚久雄著『社会科学における人間』（岩波新書）
津田真淑著『労使関係』（日経文庫）

社会学原論

渡辺 源 樹

“現実科学として社会学”の立場から、現代社会学の基礎理論の諸問題について体系的且つ具体的に論述するとともに、とりわけ準拠集団論に依拠しつつ、リーダーシップと凝集性・集団圧力、モラル、並びに社会規範と逸脱行動、アノミー、群衆と大衆等々についての解明に努める。

図書館学Ⅰ

若林 元典・山崎 慶子

児童、生徒の学習活動や教養・趣味を豊かにするには教科書の他に各種の資料を必要とする。最も有効適切な資料は何か、どうしたらそれらをすべての生徒に提供できるか、それらを利用する力を高めるにはどうしたらよいか、又人間形成に役立つ読書のあり方等の追求を学校図書館活動として考えて行きたい。

前期の講義内容は「学校図書館通論」と「学校図書館の管理と運用」で、後期は「学校図書館の利用指導」と「読書指導」である。

〔教科書〕 図書館教育研究会『学校図書館通論』（学芸図書）

図書館学Ⅱ

若林 元典

小・中・高校における教育活動の肉付けとなる教材資料のうちで最も基本的な図書資料とを主とし、それに図書以外の資料を加えて、各種資料の収集・整理・利用のために必要とされる知識・技能の修得を目指している。

整理は利用のための整理であり、利用の能率と効果は良質な資料の収集と適切な整理によって裏付けられる。したがって図書館学は収集・整理・管理・利用の全領域にわたる資料運用の学である。

「図書の分類」、「図書の目録」、「資料の選択」、「図書以外の資料の利用」が講義内容である。

〔教科書〕 図書館教育研究会『学校図書館通論』（学芸図書）
『図書館学演習資料 後編』（全国学校図書館協議会）

社会保障概論

小 沼 正

先ずわが国制度の現実を把握するため、その主要な所得保障（年金保険、公的扶助、児童手当など）、医療保障その他について概観し、それぞれの問題点を挙げる。

ついでこれらをふまえて、その生成と発展に視点を置いて、欧米諸国をも含めて、社会保障の体系、社会経済的条件、財政、国際比較などについて、論点を進める。

〔教科書〕 小沼 正・地主重美・保坂哲哉編『社会保障概論』（川島書店）

〔参考書〕 地主重美編『社会保障読本』〔新版〕（東

洋経済新報社)
社会保障研究所編『社会保障の基本問題』
(東京大学出版会)
福武 直著『社会保障論断章』(東京大学
出版会)

社会福祉法制

小林 弘 人

本講義は、憲法25条を具体化する社会保障・社会福祉に関する法を検討・整理・体系化することを目的とする。前期の前半は、『社会学研究』15号所収の「西ドイツにおける社会行政法」を資料にして、主として西ドイツにおける社会福祉に関する法の問題点を検討する。この検討を終えた後は、教科書『社会事業法制』に準拠して、当初の目的達成のための講義を行う。

〔教科書〕小川政亮『社会事業法制』(ミネルヴァ書房)

社会福祉方法総論

高 橋 重 宏

社会福祉実践の専門技術の基礎について学ぶことが中心となる。

具体的には、ソーシャル・ワークの基礎知識及び関連理論・歴史的展開過程、現代社会におけるその独自の社会的機能を明確化させつつ、ソーシャル・ワークについての入門的解説を中心に展開したい。

さらに、事例を用いながら、ソーシャル・ワーカーになるための基礎理解を深め、ソーシャル・ワーカーとしての基本的姿勢についても追究する。

〔教科書〕高橋重宏・宮崎俊策・定藤丈弘編著『ソーシャル・ワークを考える』(川島書店)

〔参考書〕必要に応じ指示する。

社会福祉実習Ⅰ

高 橋 重 宏

社会福祉実習は、社会福祉を学び専門性を体得していくために必要不可欠な科目である。具体的には、修得しつつある社会福祉の専門科目の理論や基礎知識を、社会福祉機関や施設での実践体験と統合化させつつ深め、社会福祉の専門性を体得したソーシャル・ワーカーに一歩ずつ迫ることになる。

配属された実習の場において、社会福祉の理論や基礎知識の有効性、妥当性を検証したり、現場の実態や今後の課題、自己の研究課題を探るための貴重な体験の場と

して有効に活用してほしい。さらに、自からが既存の講義の中で学んだものを、現場の目を通して再検証していく努力を忘れてはならない。主体的積極的な参加を必要とする。

- 〔参考書〕1) 『国民の福祉の動向』(昭和58年版、厚生統計協会)
2) 仲村優一・岡村重夫・阿部志郎他編『現代社会福祉事典』(全国社会福祉協議会出版部)
3) 『社会福祉六法』(第一法規)
4) なお、「社会福祉実習」に関する資料コーナーがあるので活用してほしい。

公的扶助論

小 沼 正

公的扶助は、社会保障とくに所得保障において、社会保険と並ぶ主要な部門であり、貧困救済の最後の安全網 Safety net といわれる。わが国では生活保護制度によって代表される。

生活保護について、欧米諸国を念頭において、歴史的生成過程とそのもつ問題点——貧困と最低生活保障、最低生活水準とその算定方法、保護率、受給者の権利意識その他一および将来の方向などを取上げる。

これら諸問題は、ひろく社会保障そのものをも規定する基本的条件である。

〔教科書〕小沼正著『貧困—その測定と生活保護—』〔第二版〕(東京大学出版会)

〔参考書〕籠山 京著『公的扶助論』(光生館)
仲村優一著『生活保護への提言』(全社協選書)

障害福祉論

原 田 信 一

主としてわが国における心身障害児(者)福祉の発展過程をその淵源にさかのぼりつつ講じたい。なかでも、とくに、思想面(社会的規範)と政策面等の二面的視角にたち、その原点を探るとともに、さらに欧米先進国のそれとの対比から、わが国の心身障害福祉の見直しをはかり、新たな課題構築の素としてもらう。

〔教科書〕星野他編『障害福祉論』〔第二版〕(有斐閣)
〔参考書〕林邦雄他『心身障害児(者)福祉』(田研出版)

老人福祉論

奥山正司

I 老後・老人問題の背景

1. 人口の老齢化
2. 老人と家族
3. 老人の経済状況と職業
4. 老人の身体的、精神的障害

II 老人福祉対策の現状と課題

1. 施設福祉対策の課題
2. 在宅福祉対策の課題
3. 老人に対する処遇

児童福祉論

原田信一

今日、児童をめぐる法律・制度は整備され、社会福祉分野においても、いちじるしい進歩をみた。しかし、現実面では必ずしもそうとばかりはいきれない。つまり、日々、目まぐるしく激動する社会で、引切り無しに生起する種々の児童福祉侵害問題に対応しきれない状態が今日の姿である。児童の人権無視にはじまり、公害・家庭崩壊・機能低下など限りなく現出し、まさしく児童福祉の危機的様相をみせている。そこで、本講においては、児童福祉を広い視座から考察し、児童への理解と併せて、児童に関連ある法制度にも言及しさらに、狭義の児童福祉事業にもふれ講じてゆきたい。

〔教科書〕 原田信一『現代児童福祉学』（学文社）

〔参考書〕 高橋重宏編『児童福祉を考える』

母子福祉論

林千代

私は、婦人問題の視点から婦人福祉を組立てているが、それは、性差別を根底に婦人の生存や生活が不安定化する局面、その解決へのプロセス、施策が主な内容になる。そして、婦人の生存さえあやぶまれる状況の一つが母子家庭になった時なのである。これらは、いわば婦人問題の集約であり、福祉施策の最も具体的な対応がせまられる。このような問題意識に立って、講義のあらすじを示すと次のようになる。1. 母子家庭とは（法的規定、生成要因など）、2. 母子家庭の生活実態とその困難（所得、消費生活、家事機能、住宅等）、3. 母子家庭の生活問題に対応する母子福祉施策（経済的負担に対して、育児、病気、住宅について、母子寮についてなど）

〔教科書〕 特になし

〔参考書〕 その都度紹介していく。

医療社会事業論

春見静子

英国、アメリカ、日本における医療社会事業の発達、医療社会事業の分野とその特色（病院、保健所、社会福祉施設）をふまえて、医療社会事業の方法、すなわち患者とどうかかわるかという具体的な問題をバーガーの手引書に従って検討し考察する。

〔教科書〕 ミルトン・M. バーガー『病むということ』（星和書店）

〔参考書〕 中島さつき『医療社会事業』（誠信書房）

地域福祉論

岡田真

「地域住民に“根廻し”をするにはどうすべきか」を中心に論ずる授業である。「根廻し」はなぜ施さなければならないのだろうか。それは、ケースワークやグループワークを、現実の住民生活のなかに定着させるためである。

「ワーカーは福祉三大技術を総合的に駆使しなければならない」（integration）と言われるが、その具体的な意味は、上記の通りである。その点で本講は「方法総論」、「ケースワーク論」、「グループワーク論」と補充関係にたつものである。

①地域福祉の基本課題。②コミュニティ・ケア。③コミュニティ・オーガニゼーションが、本講の内容であるが、第①のテーマはそのまま地域問題論である。従って、同じ担当者の都市社会学を、ともに知ってほしい。もちろん本講だけを履修する人に不利や理解困難が生じないように細心の工夫はするが）。

〔教科書〕 岡田真『コミュニティ・ワーク論』（大明堂）

〔参考書〕 岡田真『都市化日本の学歴社会』（大明堂）

小沼正『日本の福祉の課題と展望』、『日本都市学年報』（1983）、『駒大文学部研究紀要』（1981）、『駒沢社会学研究』（1982）の岡田論文

社会福祉事業発達史

林千代

社会事業は、近代社会がスタートするにつれて生成し

たと考えられている。もちろん、いつの時代にも、生活の不安は自然の変化と社会の変動によって生み出されてきたといえる。社会の変動期には、常に多くの問題が生じ人々は生活困難におちいった。こんにちの社会福祉事業、社会福祉、社会保障、福祉国家に至るプロセスは長く、かつ遠かった。外国、特に英国そして日本において、対象の存在と問題解決の方法、方法の意図や施策の背景をなす社会福祉の思想等々を中心に講義していきたい。一定の歴史的産物である社会福祉その本質は何か、その現状は等々を考えるためにこそ、歴史を学ぶ意義がある。

〔教科書〕 未定

〔参考書〕 その都度紹介していく。

社会福祉管理運営論

重 田 信 一

社会福祉の実践を推進するには、社会福祉の制度を整えるとともに、その制度を効果的に運営するための福祉専門性の関連を問題にしなければならない。その手段・方法を地域ぐるみ、施設ぐるみの形態を通して展開するが、その効果をたかめるには、いかなる配慮が必要かもあわせ検討する。講義を福祉経験の浅い学生にも理解しやすいよう事例を引用して説明する。特に社会福祉行政、社会福祉実践に関心のたかい学生を歓迎する。

〔教科書・参考書〕 開講時に指示する。

福祉外書講読

岡 田 真

第1案：履修者各々が選んだ文献について、それぞれの履修者ごとに個別指導。この場合には、それぞれの文献の選定に関しても、要請があれば、アイデアを提供する。

第2案：「地域の根廻し」(C.O.)は、どのように実施すれば具体化するものであるかを考える。この場合には、担当者の下記著作の「本論」(第II部)のネタを公開する。

昨年は第1案を採用することが履修者から希望され、D. Jones の論文の、ケース、グループ、C. O., コミュニティ・デベロップメント、ソーシャル・プランニングに関する節をそれぞれの関心に従って選択分担し、内容についての討議を重ねた。

〔教科書〕 両案いずれの場合にも、原文献をコピーにとる場合が多からう。

〔参考書〕 岡田真『コミュニティ・ワーク論』(大明堂)

リハビリテーション論

原 田 信 一

リハビリテーション領域のなかで、いちじるしく遅れをみせているのが、社会リハビリテーションであるといわれている。この分野は、内蔵する問題が広汎・多岐に亘っているばかりか、いずれも、困難な問題を抱えていることが、いちじるしい遅滞をもたらす原因につながっているといわれている。そこで本年はとくに、社会リハビリテーションに視点を絞り、その基本問題をふまえながら、社会・文化的環境を考察し、政策と実践的方法論、それらを支える隣接科学面ならびに、リハビリテーションの国際的展望等について概説していきたい。

〔教科書〕 講義ノートによる。

〔参考書〕 随時指示する。

ケースワーク論

高 橋 重 宏

ソーシャル・ワーク実践の専門技術の一つであるソーシャル・ケースワークについて、まず、ケースワークの意義、定義、歴史的展開過程、原理、トリートメント過程、関連理論などについて論及する。さらに、ケースワークの臨床事例を紹介し、ソーシャル・ケースワークとは何かが体系的に理解できるようにつとめたい。

なお、後期の臨床事例研究では、小グループでのディスカッション、発表など、学生の主体的参加を求めるので留意しておくこと。

さらに、講義を効果的に展開するために『社会福祉方法総論』の単位を修得した学生の履修を原則とする。

〔教科書〕 久保 絃章・高橋重宏編著『ケースワークを考える』(川島書店)

〔参考書〕 必要に応じ指示する。

グループワーク論

松 本 栄 二

社会福祉実践の方法としてのグループワークについて具体的実例を用いて解説する。そのなかで、グループ活動との相異点から更らに Social work with group の立場をとる理論についての説明も行う予定。受講者はボランティア活動であるとか、何らかの福祉分野における経験をもっていることが望ましい。

授業方法は出来るだけ講義はさげ、(前期の暫らくはやむを得ないが)、受講者による報告やバス、セッションなどを採り入れたものでやる予定。事例は適時配布する。(実費徴収)

海外社会福祉論

星野 貞一郎

北欧諸国の社会福祉、ソビエト社会主義共和国連邦の社会福祉及び中華人民共和国の社会福祉。

〔教科書〕 今岡健一郎・星野貞一郎・吉永清『社会福祉発達史』（ミネルヴァ書房）

〔参考書〕 追って通知する。

社会福祉学特講Ⅰ

高橋 重宏

本年度は、「親子関係の病理とソーシャル・ワーク」のテーマをとりあげる。

「親と子」の問題は古くて新しいテーマであり、社会変動ともななって常に種々な形で問題が現出し、生活破壊が生起している。

具体的には、子殺し、親子心中などの社会病理現象の実態を把握しつつ、その背後に存する社会的諸問題と、社会福祉的支援のあり方について、履修者の主体的な学習と発表の方法で究明していきたい。なお、『社会福祉方法総論』、『ケースワーク論』の単位を修得している、または、修得中の学生の履修を原則とする。

- 〔参考書〕 1) 高橋重宏・坂田澄・渡部治編著『児童福祉—その福祉と倫理の探究—』（八千代出版）
- 2) 中谷瑾子編『子殺し・親殺しの背景』（有斐閣新書）
- 3) 高橋重宏・江幡玲子編著『児童福祉を考える—子供のしあわせと家族福祉の接点』（川島書店）
- 4) その他、必要に応じて指示する。

社会福祉学特講Ⅱ

星野 貞一郎

社会的事例調査法を中心に、ケース研究をあわせて行ない社会福祉調査の技法の習得を目指す。

〔教科書〕 星野貞一郎・児玉幹夫編『社会福祉調査』（ミネルヴァ書房）

社会福祉学特講Ⅲ

星野 貞一郎

福祉社会学 社会福祉の課題と社会福祉理論の間にある齟齬は、これまでの社会福祉の方法に関する科学的解

明と、その理論的体系化への試みにもかかわらず、いぜんとして埋めつくされていない。こうした問題に他の社会諸科学と同様に社会学の貢献という観点からみれば問題があるにしても、社会福祉への社会学的接近とその体系化は、現代社会の変動に対応し、多様化する社会福祉に対して寄与するところが大きい。そこで本講義では、体系化の試みとして、家族、コミュニティ等の問題やソーシャル・ワーカーの役割分析等を中心に講義を展開したい。

〔教科書〕 追って通知する。

異常児教育方法論

橋本 泰子

普通教育と障害児教育との相違は、本来、その教育方法における違いにすぎないと考える。ひとりひとりの心身障害児が、そのもてる能力を最高に発揮しながら、個性豊かに自己実現していくよう教育することを目標に、個別性の高い教育をいかに実践するか考究していきたい。

精神遅滞児の場合を中心に、教育の場（養護学校、特殊学級及び精神薄弱児者施設等）のそれぞれにおける教育・訓練の方法、家庭における障害児へのかかわり方、障害児教育における教育者像等について論じたい。

なお、講義に加えて、教育・訓練の現場の見学等も適宜行いたい。

〔教科書〕 開講時に指示する。

〔参考書〕 随時紹介する。

異常児教育原論

橋本 泰子

教育の究極の目的は、心身障害児の場合であろうと健全児の場合であろうと何ら異なるものではない。しかし、障害児にあっては、その障害のゆえに教育方法上特別な配慮が必要である。

ひとりひとりの障害児にとって、のぞましい教育とはどのようなものなのか、どうすれば実現できるかを考えていきたい。

このため、まず、教育上特別な配慮を必要とする障害児とはどのような児童か（障害の種類と程度及び発生原因）、障害児教育（広義）の体系はどうなっているか、障害児教育の現状と課題などについて学んでいきたい。

〔教科書〕 開講時に指示する

〔参考書〕 随時紹介する

心理学史

萩野源一

心理学史に関し、ことに科学的心理学の歴史について、その課題、方法論につき論述し、現代心理学の動向につき述べる。

心理統計学

篠原英寿

精神現象の測定に伴う問題点——精神現象の数量化と尺度化に関する問題点、統計的、推計的处理方法の心理学への適用とその限界、心理学において工夫された測定法、処理方法などについて説明したい。

〔参考書〕 随時示す

心理学実験（実習）

篠原英寿・小野浩一
谷口泰富

心理学の各領域から基礎的な実験を選び、心理学における実験のデザインの組み方、実施方法、結果の処理法等を実習を通して理解してもらう。さらに、実験レポートの作成法についても指導する。

〔教科書〕 依田新監修『基礎実験』〔心理学実験演習Ⅰ〕（金子書房）

心理学研究法

小野浩一

心理学における主要な研究法について概観する。その中で、心理学の方法一般に横たわる根本的な問題、個々の技法の根底にある基本的な考え方や問題点を明らかにしながら、それぞれの具体的な手続き、また効用や限界について解説する。

基礎心理学Ⅰ（人格）

谷口泰富

人格（パーソナリティ）とは、個人の内部に存在する複雑で力動的な体制である。この講義は人格心理学の概論として、人格の本質論、形成発達論、諸々の人格理論

の紹介、研究法の考察などを中心に進めてゆくつもりであるが、折りに触れて人格に関する興味あるトピックスを盛り込んでゆく予定である。

〔参考書〕 随時紹介する。

基礎心理学Ⅱ（発達）

篠原英寿

基礎心理学Ⅱにおいては、発達心理学を講述する。その内容は、心理学的成長の各位相である幼乳時期から青年期までを取扱う連続的過程としてのパーソナリティ発達に主眼を置きたい。

上述のことを特に、E.H.エリクソンの精神分析的理論、及び、J.ピアジェの認知理論を中心に取上げたい。

〔参考書〕 随時指示する。

基礎心理学Ⅲ（学習）

小野浩一

学習心理学の基礎的な理論ならびに手法について解説し、それらが現代の行動科学の中でどのように活用されているかについて概観する。さらに、人間を含む生物体の行動をコントロールしている変数について実験的行動分析の立場から吟味する。

教科書はとくに指定しないが、参考書および参考文献については講義の際に詳しく教示する。

基礎心理学Ⅳ（社会）

水原泰介

この講義では、社会的知覚（印象形成・因果の帰属など）、社会的影響（同調、態度変化など）、対人関係（協力、競争、援助、攻撃など）などの領域におけるこれまでの社会心理学的研究がどのような成果をあげているかを解説する。そして、これらの研究によって明らかにされた原理の社会生活への応用について考察する。

〔参考書〕 水原泰介『社会心理学入門』（東京大学出版会）

基礎心理学Ⅴ（臨床）

中村昭之

I 臨床心理学的人格理論（症状形成と治療）

- (1) 総論
- (2) 自己理論（ロージャズ）

- (3) 精神分析
- (4) 森田療法, 内観療法
- (5) 行動療法
- (6) その他

II 人格の測定・評価

- (1) 総論
- (2) 心理テスト

〔教科書〕 中村昭之『カウンセリング事例集 第二輯』
(臨床心理研究所 1982)

心理学研究Ⅰ (実習)

萩野 源一

実験心理学に関する種々の基本的実験の装置の作成, 実験の実施, 結果の集計, 考察を行ないレポートとしてまとめる。

〔参考書〕 今田 恵『心理学史』(岩波書店)

心理学研究Ⅱ (実習)

水原 泰介

社会心理学の代表的な実験について, 実験計画の立て方, 結果の整理の仕方, 実験報告の書き方の実習をおこなう。

心理学研究Ⅲ (実習)

中村 昭之

- 1. 人格の測定と評価
- 2. カウンセリングの実習
 - テープの聴取
 - ロールプレイング

心理学研究Ⅳ (実習)

篠原 英寿

心理学研究Ⅳは, これまで開講されていた実験実習(上級)が各領域ごとに分化されて開設されたものである。したがって本来ならば実験心理学の内容を備えるべきものである。しかし取扱う領域が発達心理学であるため, 装置及び被験者等の関係上, 実験的内容を実習的に行なうことには問題もある。

そこで本年は, 欧文の専門書及びジャーナルを精読し, その中で扱われている実験・調査研究の方法を習得し, 追試可能なものを選択し, その方法に準拠して実験等を行ないたい。

なお主たる参考書は下記のもので, そのコピーを用いる。

〔参考書〕 Readings in Child Development & Personality : Edited by P. H. Mussen, J. J. Conger, J. Kagan. Harper & Row, 1965.

心理学研究Ⅴ (実習)

小野 浩一

心理学研究のプロセスを統一的に習得することを目的として, 文献検索法, 論文の読み方, 実験デザインの組み方, 実験の実施方法, 結果のまとめ方, 論文の書き方などを含めた総合的な実習を行う。前期は学習, 記憶, 思考に関する代表的な研究をモデルとして, そこでなされた実験を追試するという形で進めるが, 後期には受講者と相談の上適当なテーマを設定して実験を計画したいと考えている。

心理学研究Ⅵ (実習)

谷口 泰富

ここでは主に, 生理学的指標を用いた種々の測定を行なう。実習内容については, 初めの時間に説明する。

〔参考書〕 随時紹介する

生理心理学

谷口 泰富

統合的有機体としての人間の行動を明らかにするため, 本講は, 心理学と生理学の隣接するところから出発し, 意識・学習・知覚・情動などの諸概念について考えてゆく。

〔参考書〕 随時紹介する

児童心理学

天野 珠子

児童心理学とは, 乳児期・幼児期・児童期の精神発達の諸特性を探ることである。成人は誰でも児童期を経過しているため, 児童の行動や心理を理解していると思いがちだが, その実, 一方的先入観による解釈が多い。

正しい児童理解は、大人と子どもの関係を円滑にするため、又教育やしつけのためにも必要なことである。豊富な具体例を紹介しながら、児童心理学の今日の進歩の水準にたつて、概要を捉えていきたい。

〔参考書〕 『児童心理学』（東京大学出版会）
『新版 児童心理学』（学芸図書）

産業心理学

大塚 秀治

産業心理学は様々な産業場面での心理学的諸問題を扱う応用心理学の一分野であり、心理学の全ての分野と密接な関係をもっている。ここではコンピュータに代表される人間-機械系のあり方を中心に ①作業とは何か ②作業環境と作業者の心理 ③ヒューマン・エラーは何故生じるか、等を講義し時間が許せば、航空機事故の事例研究や、簡単な実験を行ない理解を深める。

〔教科書〕 開講時に示す

〔参考書〕 『心理学8 [産業心理]』（有斐閣双書）、
『情報処理心理学』（サイエンス）、
『産業心理学』（恒星社厚生閣）

グループ・ダイナミックス

花沢 成一

集団の形成、集団の発達、集団内のコミュニケーション、同調行動、集団の生産性などについて講義する。講義だけではなく、体験的学習も試みたい。

〔参考書〕 随時指示する。

カウンセリング

鈴木 順一

講義形式的な教師中心の授業ではなく、体験学習を中心とする学習者中心の授業にしたいと考えている。前半は、構成的 Encounter Group を展開する中で、精神分析・来談者中心カウンセリング・行動療法・交流分析・ゲシュタルト療法・論理療法などのカウンセリング理論を、自己分析・相互分析・ロールプレイなどを通して体験的に理解することをめざす。後半は、学習者中心の動きにゆだね、非構成的 Basic Encounter Group を体験する中で、お互いのパーソナリティの理解と開発をめざしたい。教科書は特に定めない。概念学習は、下記の参考書をもとに各人で学んで欲しい。授業では、むしろ一人一人の人格が、学ぶべき教科書であると考えたい。

〔参考書〕 『カウンセリングの理論』『エンカウンタ

ー』『新訂カウンセリング』『ニュー・カウンセリング』（以上、誠信書房）『カウンセリング』（芸林書房）『エンカウンター・グループ』（創元社）

心理検査法

花沢 成一

心理検査に関する基礎理論（心理検査の作成法・妥当性と信頼性・問題形式・利用法など）を講義するとともに、主要な現行心理検査の施行や採点などの実習をおこなう。

〔教科書〕 安藤公平他『心理検査の理論と実際』（駿河台出版社）

禅心理学

脇本 平也

禅心理学という用語には二重の意味がある。一つは、禅を対象とする心理学の立場からの研究である。もう一つは、禅仏教がもっている人間心理に関する知見である。前者を西洋に出発した宗教心理学との関連において、後者を東洋における伝統的仏教思想との関連において、それぞれに考察し、さらに両者の関係について考えてみたい。

〔参考書〕 適時指示する。

心理学特講Ⅰ

佐々木 雄二

自律訓練法は、神経症や心身症の治療法として、あるいは教育効果を高めたり創造性を開発するための技法として、広く用いられるようになった。本講では、このような自律訓練法の理論と方法を学ぶ。

〔参考書〕 佐々木雄二『自律訓練法の実践』（創元社）

心理学特講Ⅱ

佐々木 宏幹

日本を含むアジア各地の通過儀礼を手がかりにして、誕生後の人間がどのような段階と手続きを経て社会化・文化化してゆくかについて考察する。文化・社会と人格との関係を儀礼の具体的展開のなかに捉えていくという態度をとってみたい。テキストは講義の進展に応じて取りあげてゆく。

心理学特講Ⅲ

古賀義亮

コンピュータに関する知識、技能等が基本的な素養として要求されるようになってきている。本講義では、コンピュータに関する基礎的な内容から始めて、プログラムの作成方法を通じ、コンピュータに関する理解を深めることを目的とする。

これにより、心理学実習における統計処理、実験などにコンピュータを応用する能力を養うことができる。従って、2学年、3学年からの履修が、効果的であろう。

〔教科書〕大河内、他『基礎電子計算機』(実教出版)

〔参考書〕古賀『マイコンソフトウェア入門』(講談社)

精神医学

植村肇

前期には精神の健康(精神保健)、精神医学・精神衛生の歴史、脳の構造と生理学的機能などを基礎に精神機能の異常性、精神障害の原因と行政施策、精神障害の診断と治療心身相関などの大要を述べ、更に精神医学の進歩と課題にも触れる。

後期には各論的に離婚・嗜癖(慢性中毒)、自殺、非行・犯罪などの適応障害と精神薄弱、性格異常、神経症、精神病などの精神障害について、具体的に説明する。

〔教科書〕植村肇『現代人のための精神保健』(ぎょうせい) ¥1,600

心身医学

佐々木雄二

心身医学とは、心身症——心理・社会的要因がその発病や経過に影響を及ぼしているからだの病気——を対象とする医学である。心身医学の領域では、心理面接、心理テスト、心理療法などの実践や研究で、臨床心理学者が大きな役割を担っている。本講では、臨床心理学者に必要な心身医学の基礎的事項を学ぶ。

〔教科書〕池見酉次郎『心療内科』(中公新書)

社会政策

清水英彦

社会政策の中心テーマである、賃金、労働時間、社会

保障、雇用・失業、労使関係に関して、労働経済学の立場から分析を行い、その意味を検討してみる。

〔教科書・参考書〕開講時に指示する。

民法

青山尚史

生活の基礎である根源をなす保族生活を規律した親族法は、最も身近な法律である。講義では、夫婦・親子・親族を中心としつつ、民法全般の基礎知識をも加えるつもりである。すなわち、民法総則の簡単な説明、ついで物権と債権につき必要最少限度の説明、そして親族法に大部分の時間を充て、最後に時限の残余状況により相続法の大系的説明を加えようと考えている。

〔教科書〕教場にて指示する。

労働法

平岡一実

労働法の全般に亘り、特に基本的な事項を中心に解説を施す。この場合、最近の重要判例等を取り上げて、新しい動向等の把握に遺憾なからしめたいと考える。

〔教科書〕平岡一実『改訂 労働法の基本問題』(八千代出版)

行政法

高橋政美

社会的法治国家への歩みは、「行政改革」に象徴されるように、行政の肥大現象をもたらしていると思われる。本講では、それら行政の法的根拠である行政法について、その基礎理論の理解を主たる目的として、判例、学説を中心に講義を進める。

なお、各種公務員試験にも役立つ内容として考えている。

〔教科書〕小林弘人・高橋政美他著『事例法学入門』(東京教学社)

経済原論

和田禎一

経済は、われわれにとって最も身近な日常生活の側面である。家庭における主婦やわれわれの日常の買物、すなわち消費行為も、企業の生産活動や金融上の取引、そしてまた国家の財政活動や国際貿易も、重要な経

済行為である。経済学は、このような人間の営む経済行為と、それらが全体として形成する社会経済の動きを、一つの理論体系によって捉えようとする学問である。そこでこの講座では、身近な経済現象をとりあげながら、その経済的意味、それから発生する経済問題、それに関する経済理論、経済政策などを説明しながら、経済学的思考の必要性や、経済学の概要を理解できるように進めて行く予定である。

〔教科書〕 『現代経済学概論』（税務経理協会）

¥ 2,900

社会教育方法論

磯野昌藏

社会教育の諸形態と施設について検討する。

青少年問題研究

和田謙寿

中学校や高等学校の教師をめざす者。または、青少年の指導者を志す人を対象とし、理論と現実の両者をみつめつつ講義を行いたい。特に学校の教師になる場合は、専攻した学科は当然の事、受持クラスの生活指導にも大きな比重をかけて尽くさねばならぬ。その点に深く留意して授業をすすめる事にする。（特に少年の問題に興味のある者は、青少年問題研究室の研修生として入室されるのも一方法であろう。）家庭内暴力・校内暴力・暴走族・薬物乱用など、種々社会問題としてとりあげられているが、これらの問題も時間の許す限り取組みたいと思っている。教科書は考慮中。

教育社会学

村山輝吉

人間の発達というテーマを、主として社会環境と文化の変容という観点から考察する。

1. 教育社会学の性格
2. 家族の訓育機能
3. 仲間集団と人間形成
4. 学校の陶冶・形成機能
5. 地域社会と教育
6. 文化の変容と子どもの発達

社会教育概論

磯野昌藏

社会教育制度と法
学校教育と社会教育
社会教育関係団体

教 職 お よ び 資 格 講 座

教 職 課 程
学 校 図 書 館 司 書 教 諭 講 座
博 物 館 学 講 座
社 会 福 祉 主 事 講 座
社 会 教 育 主 事 講 座

※ 上記の教職および資格講座授業科目の講義内容が掲載されているが、各学部において受講出来る課程および講座は以下のとおりである。（履修についての詳細は「教職課程・資格講座受講の手びき」を参照）

課 程 ・ 講 座 名	資 格 取 得 学 部
教 職 課 程	全 学 部
学 校 図 書 館 司 書 教 諭 講 座	全 学 部
博 物 館 学 講 座	文 学 部 ・ 仏 教 学 部
社 会 福 祉 主 事 講 座	文 学 部 ・ 仏 教 学 部
社 会 教 育 主 事 講 座	文 学 部 ・ 経 済 学 部 ・ 法 学 部 ・ 経 営 学 部

目次

教育原理(上岡 安彦)	1	哲学特講Ⅱ(西洋)(国嶋 一則)	7
教育原理(村山 輝吉)	1	宗教学特講Ⅰ(松田 文雄)	7
教育原理(坂本 信昭)	1	宗教学特講Ⅱ(脇本 平也)	7
教育原理(木戸 三子)	1	宗教学特講Ⅲ(洗 建)	7
青年心理学(大浜幾久子)	1	教育史(磯野 昌藏)	8
青年心理学(武井 澄江)	1	宗教教育(櫻井 秀雄)	8
青年心理学(牟田 悦子)	1	教育関係法規(木戸 三子)	8
青年心理学(渡辺三和子)	1	教育関係法規(船木 正文)	8
教育心理学(大浜幾久子)	2	図書館学Ⅰ(若林元典・山崎慶子)	8
教育心理学(武井 澄江)	2	図書館学Ⅱ(若林 元典)	8
教育心理学(中村 均)	2	博物館学(倉田 芳郎)	8
教育心理学(渡辺三和子)	2	博物館実習Ⅰ(館務)(倉田芳郎・鶴丸俊明) ..	9
道德教育の研究(半期)(万羽 晴夫)	2	博物館実習Ⅱ(収集)(倉田芳郎・葉貫磨哉 所理喜夫・伊藤玄三) ..	9
教育実習(上岡 安彦)	2	博物館実習Ⅲ(見学)(倉田芳郎・狩野千秋) ..	9
教育実習(村山 輝吉)	2	博物館実習Ⅳ(特講)(石井則孝)	9
教育実習(坂本 信昭)	3	視聴覚教育(赤堀 正宜)	9
教育実習(木戸 三子)	3	日本文化史Ⅱ(圭室 文雄)	9
国語科教育法(神谷 道倫)	3	西洋文化史Ⅰ(椋川 一朗)	9
書道科教育法(谷村 義雄)	3	西洋文化史Ⅱ(阿部 重雄)	9
宗教科教育法(松本 皓一)	3	仏教美術(林 良一)	10
英語科教育法(大沢 一雄)	3	現代美術(中山 典夫)	10
社会科教育法(地理)(高木 久)	3	禅美術(竹内 尚次)	10
社会科教育法(地理)(中島 義一)	3	美術史概説(林 良一)	10
社会科教育法(歴史)(野呂 肖生)	4	西域美術史(林 良一)	10
社会科教育法(谷敷 正光)	4	考古学概説Ⅰ(日本)(倉田 芳郎)	10
社会科教育法(古屋野素材)	4	考古学概説Ⅱ(外国)(飯島 武次)	10
社会科教育法(大久保治男)	4	考古学特講Ⅰ(飯島 武次)	10
職業科教育法(山田 勇治)	4	考古学特講Ⅲ(狩野 千秋)	10
商業科教育法(谷敷 正光)	5	日本民俗学(小島 清志)	11
商業実習(前田 幸一)	5	仏教民俗学(和田 謙寿)	11
職業指導(山田 勇治)	5	宗教人類学(佐々木宏幹)	11
産業概説(和田 禎一)	5	考古発掘実習(飯島 武次)	11
世界史概説(前田 正名)	5	社会福祉概論(高橋 重宏)	11
世界史概説(青木 道彦)	6	障害福祉論(原田 信一)	11
日本史概説(芥川 龍男)	6	社会福祉実習Ⅰ(原田 信一)	11
地誌学概説(今朝洞重美)	6	社会福祉法制(小林 弘人)	12
地誌学概説(長野 覚)	6	公的扶助論(小沼 正)	12
地誌学概説(渡辺 盾夫)	6	児童福祉論(原田 信一)	12
自然地理学概説(早船 元峰)	6	老人福祉論(奥山 正司)	12
人文地理学概説(高木 久)	6	社会保障概論(小沼 正)	12
社会学原論(渡辺 源樹)	6	地域福祉論(岡田 真)	13
経済原論(小野 俊夫)	7	ケースワーク論(高橋 重宏)	13
政治学原論(飯山 勇)	7	グループワーク論(松本 栄二)	13
民法Ⅰ(鶴井 俊吉)	7	社会福祉事業発達史(林 千代)	13
哲学特講Ⅰ(東洋)(篠原寿雄)	7		

母子福祉論（林 千代）	13
医療社会事業論（春見 静子）	14
社会福祉方法総論（高橋 重宏）	14
社会福祉管理運営論（重田 信一）	14
リハビリテーション論（原田 信一）	14
社会教育概論（磯野 昌蔵）	14
社会教育方法論（磯野 昌蔵）	14
社会教育行政財政（酒匂 一雄）	14
教育社会学（村山 輝吉）	15
社会心理学（坪井 健）	15
社会教育施設（村山 輝吉）	15
児童教化（富田 博之）	15
青少年問題研究（和田 謙寿）	15
青少年指導演習（和田 謙寿）	15
社会教育演習（上岡 安彦）	16
教育評価（大浜幾久子）	16
教育法規研究（神田 修）	16
成人指導及青少年指導（酒匂 一雄）	16
生活指導（秋山さと子）	16
教育哲学（汐見 稔幸）	16
教育調査（大塚 雄作）	17

教育原理

上岡安彦

『エミール』(上・中・下)を年間を通して読みます。次にそこで、でてくる問題について日本の現象を例として教育学的に考察します。

そして最後に原典に直接触れ、ルソーの音楽の音色を身体で感じることにします。

〔教科書〕 『エミール』〔上・中・下〕(岩波文庫)

上 ¥ 550, 中 ¥ 450, 下 ¥ 450

『教育学研究入門』(東大出版会)

¥ 1,800

教育原理

村山輝吉

下村湖人ほか二・三の教育論を紹介しながら、教育とは何かについて、その目的・内容・方法・制度・歴史と現状、展望と課題等にわたって講じる。

教育原理

坂本信昭

1. 教育とは何か
2. 教育の目的
3. 教育の内容
4. 教育の方法
 - (1) 学習指導
 - (2) 生活指導
5. 教育の経営
6. 教育の制度
7. 教師

おおむね上記についてテキストにそって論究していきます。

〔教科書〕 教師養成研究会編『教育原理』

〔参考書〕 デューイ著・宮原誠一訳『学校と社会』(岩波文庫) その他授業で適宜紹介する。

教育原理

木戸三子

前半は教育について何がその基本的な問題であるかを考え、後半はそれにもとづき青年期や青年期教育について

検討する。(テキストを定め読み合うこともありうる。)

青年心理学

大浜幾久子

まず青年期に限らず一般に、人間の発達とは何か、について考察する。その上で青年期の様々な問題を取りあげ、それらに対する心理学的な分析の方法と最近の研究を紹介、解説していく。また性格テストなどの実習も行う。

青年心理学

武井澄江

青年期を乳幼児、児童期から成人への発達系列の中に位置づける。その上で、人間に特有だといわれるこの時期の発達上の特徴をとらえていく。特に、人格、人間関係、価値観など社会的生活の側面が中心となるだろう。なお、講義の中で、人格検査等の実習も行う予定である。

青年心理学

牟田悦子

青年期は、時間的な展望の中で自己を再編成する時期であるといわれるが、人間の発達の流れの中での青年期を理解すると共に、教師が、今の教育の現場で出会うさまざまな問題にかかわるとき、どのような基本的な視点をもちうるかについて共に考えていきたい。

〔教科書〕 藤永保也編『青年心理学 テキストブック 心理学(5)』(有斐閣) ¥ 1,200

青年心理学

渡辺三和子

前期は人格が形成されるとはどういうことか、青年期は人格の形成にとってどんな位置にあるのか、青年期の特徴は何か、等を検討する。後期は、中・高校生に起こりがちな問題行動について述べる。

教育心理学

大 浜 幾 久 子

前半では、発達心理学・学習心理学・人格心理学など現代心理学の諸分野の基礎理論のうち、教育にかかわるものを解説する。後半では、学校教育を中心に、教育の現場の様々な問題を取りあげ、教育心理学的な考え方と、それに関連した最近の心理学研究を紹介、解説していく。また知能テストなどの実習も行う。

教育心理学

武 井 澄 江

「発達」「学習」「パーソナリティと適応」「集団」「評価」などに関する心理学的知見を概説する。心理テストの実習も含む。

教育心理学

中 村 均

子どもが大人になる途上でどのような変貌をとげ、それにはどんな規則性または特殊性があるか、年齢との関連で(発達)および特定の訓練や経験との関連で(学習)検討する。また、そういった事柄が一人一人でどんな風に違うか(個人差)、個人差が教室や家庭での適応にどう影響するか、これまでの知見を紹介する。

〔教科書〕『目でみる教育心理学』(ナカニシヤ出版)
¥ 1,500

教育心理学

渡 辺 三 和 子

前期は教育を受ける子どもをよりよく理解するために次の点を考察する。発達と学習、学習活動のメカニズム、知的な発達のみならず、動機づけ、個人差について。

後期は、教育方法と評価について述べる。個人差に応じた教育とは。さまざまな授業方法の試み、評価の方法について。

道徳教育の研究(半期)

万 羽 晴 夫

昨年度は、公教育の近代的原则をふまえながらもとりたてて道徳教育を行うことの根拠として、根源的価値意識論に言及した。今年度は、それを発展させる意図の下に、人格形成学校としての今日の学校の任務と役割を明らかにしつつ、子どもたちの抱える様々な問題を考えながら、道徳教育の今日的課題に迫ってみたい。また他方で、根源的価値意識論そのものの倫理的検討も行ってみてみたいと考えている。

〔参考書〕中野光・藤田昌土編『史料道徳教育』(総合労働研究所) ¥ 2,000

教育実習

上 岡 安 彦

事前指導

学校の教師としての仕事について講義
学習指導案作成実習, カリキュラム編成実習

訪問指導

実習期間中の研究授業参加

事後指導

デューイの『学校と社会』によって自分の教育実習の体験を吟味し、日本の教育を考えてみる。

〔教科書〕『中学校 学習指導要領』(大蔵省印刷局) ¥ 250

『高等学校 学習指導要領』(大蔵省印刷局) ¥ 300

デューイ『学校と社会』(岩波文庫)
¥ 300

教育実習

村 山 輝 吉

教育実習に主体的にとりくみ、教育についての理解と関心が深まるよう、年間を通じて次の事項を取りあげる。

1. 教育実習の意義と心がまえ
2. 学習指導について
3. 生活指導について
4. 学校と教師に関する諸問題

現場における実習体験をはさんで、講義・討議・レポート作成・面接指導等、適宜の方法と形態で進めていく。

教育実習

坂本信昭

駒沢大学の教育実習は“通年履修”となっており、教育実習前後の大学での授業はおおむね下記のとおりに進めます。

教育実習前の段階では、(1)教育実習の意義及び目標・内容(領域)に関する講義とそれに並行して、(2)実習校における教育実習の事例を示し、(3)教育実習の心得などについての事前指導を行なう。

教育実習後は、(1)教育実習の口答報告、(2)レポート作成→提出、(3)グループ編成による授業(ディスカッション)を行ない教育への理解を深め、望ましい教師のあり方などについて考える、いわゆる事後指導を行なう。

〔参考書〕大村はま『教えるということ』(共文社)など、授業で適宜紹介する。

教育実習

木戸三子

前半は教育実習についての諸注意や心構えについて述べることを中心とし、後半は実習体験をもとにして、教育現場の諸問題や学習指導や生活指導のあり方を考える。

国語科教育法

神谷道倫

中学校・高等学校の国語科教育の意義・動向、ならびに学習内容(領域)、教材に即したそれぞれの指導方法等について講義、しかるのち実際の教材にあたって、教材研究のあり方、指導事項、方法等々、主に模擬授業の形態で具体的に研究を深め、実践に際しての指導力を養成する。

〔教科書〕『中学校・高等学校 国語科教育法(新版)』(桜楓社) ¥880

書道科教育法

谷村義雄

中学および高校に於ける書教育が近年やや低調であるといわれるのは、専門の教員の實力の貧困に起因することが大きい。書教育の現場教師として必須の条件は何かを考え、これを充すにはどうすべきかを講じたい。また

理論として書論の講読演習を行なう。

〔参考書〕『中国書論集』(二玄社刊)

宗教科教育法

松本皓一

宗教科教育に際しての理論的な基本問題、現実に教師となって必要とされる実際上の諸問題を講義する。カリキュラム作成や教材研究等に主眼をおく。

〔参考書〕講義中適時指示してゆく。

英語科教育法

大沢一雄

各種教授法について述べたあとで、新しい教授法がどうあるべきかを考える。なお、初級から上級までの各段階の英語教授について演習をおこなう。

社会科教育法(地理)

高木久

1. 生徒指導を中心とした教師の在り方
2. 地理学方法論の確認
3. 地理教育について
4. 新学習指導要領の内容
5. 地図指導
6. 教育実習の意義
7. 学習指導案の研究
8. 模擬授業

前期において講義を中心とし、後期においては教室での演習を専一とし、その批判・反省を行なって行く。

社会科教育法(地理)

中島義一

年度の当初は社会科教育の実際的方法につき、担当者の経験にもとづき講義する。後は毎時間学生諸君が交代で壇上に立ち、授業演習する。下記教科書のほか、地図帳(中学生または高校生の時使用したもの)と中学校の社会科教科書(これについては授業時指示)が必要である。出席を重視する。

〔教科書〕山崎謹哉『新訂地理教育の本質と実践』(古今書院) ¥2,200

社会科教育法（歴史）

野呂肖生

中・高等学校における社会科の授業をどのように展開してゆかかを、とくに歴史分野について実践的に考えてゆきたい。そのため、後期は自ら実習する機会を設定して行う。

社会科教育法

谷敷正光

社会科は、民主主義の発展と平和的な国家・社会の形成者の育成をめざす上で、重要な使命を負って誕生した教科であり、日本の将来を担ったと云っても過言ではない教科である。しかし、この社会科教育も、戦後日本資本主義発展とともに大きく変遷し、動揺し続けてきた。

したがって、しっかりとした社会科教育を樹立するため、単なる教授方法の技術論ではなく、より基本的な「教育とは何か」といったところまでさかのぼって充分検討してみたい。その上で、社会科教育の基本原則とその内容・方法の把握につとめ、教科担当の専門職としての認識を深めたい。

①戦後日本資本主義の発展と教育、②教育の基本概念、③日本資本主義の発展と社会科教育、④社会科教育の基本概念、⑤中学校・高等学校の教育課程と社会科、⑥社会科の学習指導、⑦学習指導案の作成、⑧中学校社会科の目標・内容、⑨高等学校社会科の目標・内容・取り扱い、⑩教育評価、⑪教育実習の意義、⑫模擬授業を通じての社会科授業実践の研究、⑬社会科教師論、⑭教育採用試験の準備と今年度の採用について（教員採用試験の受験希望者は授業とは別に指導する）。

〔教科書〕 梶 哲夫『中等 社会科教育研究』(1) (高陵社)

遠山 啓『競争原理を超えて』(太郎次郎社)

〔参考書〕 矢川徳光『教育とは何か』(新日本出版新書)

無着成恭『山びこ学校』(角川文庫)その他、若干のルポ、小説、社会科の教科書、学習指導要領も使用する。

〔注意〕 年間かなりの資料を作成配布するので、必ずファイルを用意すること。また年間、数回校外研修（授業参観）などを行う予定である。

社会科教育法

古屋野 素材

我が国において社会科について考えるということは、一教科の問題にとどまらず、必然的に教育問題全体の極めて重要な側面—政治状況と教育の緊張関係をはじめとして—を考察する方向へむかわざるを得ない。当講義では、この点をふまえつつ、社会科に関連する歴史的な問題構造を検討し、かつ今後の社会科教育が果すべき役割とその可能性の検討を通じて、各自が教職に主体的にかかわってゆく手がかりをさぐりたい、特に、大学生として、各自が専攻する領域で深い学識を得てゆく過程をこそ、教職志向のバネとしてゆくことに価値を求める Open System の主旨にそうべく、人文・社会諸科学と社会科の関係についても、具体的に検討してゆきたい。

〔教科書〕 特に用いない。

〔参考書〕 講義中に紹介する。

社会科教育法

大久保 治 男

現下山積する教育上の諸問題を意識しつつ、社会科の教科教育法のより効果的実践方法を探究する。学校教育における高校の「政治・経済」「現代社会」中学の「公民」など社会科系列の検定教科書や学習指導要領を分析しつつ社会科教育法の目標、構成、内容等について考究する。さらに具体的に指導計画、指導案、指導方法、教材研究、教育評価については、受講生をグループ別にし模擬教育実習を通じて実践させることで合同的な教育方法を発見させるよう努める。OHP、スライド、8ミリ、ビデオ等視聴覚教育器機も使用しつつ一方的講義でなく受講生にも積極的に学習参加させ、将来の教師としての自覚や意欲を持たせ楽しい講義となるよう配慮する。

〔教科書〕 その都度指示する。

〔参考書〕 『学習指導要領（中学、高校の社会）』、各自が使用した社会関係の教科書

職業科教育法

山田 勇 治

教職についたときに役立つように職業教育の次のような項目について取り扱う。

1. 新しい職業教育観
2. 高校の大衆化と職業教育の盛衰
3. 職業教育の諸機会

4. 各国の職業教育

〔教科書〕 宮地誠哉・倉内史郎編「職業教育」講座
『現代技術と教育4』（開隆堂）
¥ 1,600

〔参考書〕 宮地誠哉『中等教育と職業生活』（川島書店） ¥ 1,600

商業科教育法

谷 敷 正 光

「職業教育」の一つである商業教育は、日本の資本主義をささえる重要な一環としてつねに重視され、産業構造の高度化、経営革新にもなつてめまぐるしく変遷してきた。そして、今回の高校教育の「多様化」政策の破綻にもなつて、再び大きく、軌道修正されている。従つて、本講は「職業教育」のあり方そのものが問われている現在、しっかりとした商業教育を樹立するため、この「教科法」を商業教育の単なる技術論に終わらせることなく、より基本的な「教育とは何か」といったところまでさかのぼり、本格的な意味での商業教育論、職業教育論を展開し、教科担当の専門職としての認識を深めたい。

①日本資本主義発展と教育・職業教育、②教育の基本概念、③職業教育（商業教育）の概念、④高等学校における商業教育の現状と課題、⑤高等学校の教育課程、⑥商業科の教育課程、⑦商業科目の学習指導、⑧学習指導案の作成、⑨商業教科・科目の個別目標・内容・取り扱い、⑩教育評価、⑪教育実習の意義、⑫模擬授業を通じての商業科授業実践の研究、⑬商業科教師論、⑭教員採用試験の準備と今年度の採用試験について（教員採用試験の受験希望者は授業とは別に指導する）。

〔教科書〕 田中義雄『商業科教育論』（多賀出版）
矢川徳光『教育とは何か』（新日本新書）

〔参考書〕 国民教育研究所『高校職業教育の改革』（草土文化社）、遠山 啓『競争原理を超えて』（太郎次郎社）、田代三良『高校生』（岩波新書）、『あしたに甦れ』（文理閣）
その他商業の教科書、学習指導要領、新聞の切り抜き、雑誌なども使用する。

〔注 意〕 年間かなりの資料を作成配布するので、必ずファイルを用意すること。また年間、数回校外研修（授業参観）などを行う予定である。

商業実習

前 田 幸 一

会社設立から商品取引に係わる事務手続きについて勉

強していく。

〔教科書・参考書〕 未定

職業指導

山 田 勇 治

学校における進路指導とは、中学・高校の卒業時における就職や進学のみならず、個々の生徒の発達段階に応じて、その能力・適性等を伸長し、生徒自ら望ましい進路を選択・決定させ、その後の職業生活において自己実現できるように指導し、援助する活動をいう。ところが現状では、学力などによる振り分けが横行し、本来あるべき進路指導には程遠い。

そこで、こういった学校進路指導の現状を文部省の実施した実態調査などによって明らかにしてみたい。

また、将来職業につくための準備教育、つまり職業教育についても講述する予定である。

〔教科書〕 山田勇治著『会計教育論』（創成社）

¥ 1,300

文部省『進路指導の現状と問題』（ぎょうせい） ¥ 200

〔参考書〕 近藤大生・有本 章編著『職業と教育一職業指導論』（福村出版） ¥ 1,500

産業概説

和 田 禎 一

資本主義経済発展の原動力は、産業革命以後の新しい産業の群生、その変化に負うところが大きい。そこで本講座では、まず産業の概念、産業構造、産業組織を、現代的視点で解説し、それらを基礎に、戦後日本の経済の展開にかかわった日本の産業と産業政策を概観、分析、評価することにした。

〔教科書〕 授業にさいし適宜指示する。

世界史概説

前 田 正 名

世界史の流れを政治・経済を中心にしておいて簡潔に概説する。

〔教科書〕 前田正名『東アジア史概説』（文化書房・博文社）

世界史概説

青木道彦

ヨーロッパ世界の形成と発展を中心とするが、古代地中海世界やイスラム世界など、他の文化世界との関係にもふれながら講義を進めたい。特に近代において、欧米諸国が世界の覇権をにぎる形で、世界が一体化していったことの意義と背景に重点をおいてみたいと考えている。特に教科書は指定しないが、下記の参考書のうち一冊を読みこなすつもりで受講されるとよいと思う。

年間3～4回小テスト実施の予定、理由なくこれに欠席する者には、定期試験の受験資格を与えないので注意のこと。

〔参考書〕衣笠茂他『概説西洋史』（東京創元社）
祇園寺信彦編『西洋史要綱』（御茶の水書房）
堀米庸三監修『西洋史展望』（晶文社）

日本史概説

芥川龍男

日本の中世に焦点をおいて講義するが、一方的な講義形式はとらず、質問、レポート等を加味して行なう。歴史の研究手法の事例をあげながら講義をすすめるので、受講生の積極的学習を強く希望する。

テキストは特に指定しないが、講義の進行によって参考文献を紹介するので積極的に読破してほしい。

年間を通じて、受講生は「歴史的な物の見方」・「歴史的な考え方」を身につける努力を、自らの計画によってすすめることを要望する。したがって、受身的な学習態度とみなされる諸君は評価の対照にしないこともあり得る。

地誌学概説

今朝洞重美

地誌学の本質を考察しつつ、前期に日本地誌、後期に外国地誌を講義する。

地誌学概説

長野覚

世界的視野において地理学の発達・概念を理解したの

ち、現代世界の地域的特色を、自然環境やそれと関連性をもつ人文現象について考察する。

後期には幾つかの国を対象に、その国の地誌を学習する。受講にさいしては、できるだけ地図帳を併用してほしい。

〔教科書〕藤岡謙二郎他共著『世界地誌』（改訂版）
（大明堂）

地誌学概説

渡邊盾夫

読図の方法を理解したのちに、各国の地誌について講義をする。受講の際には地図帳を持参すること。

自然地理学概説

早船元峰

人間生活の舞台である大地の形成過程について講じ、人間と自然とのかかわりあいについて論じる。

さらに受講生に2.5万分の1、5万分の1の地形図を用意（10枚程度）させ、それらをもとに種々なる作業（土地利用図・切峰面図・帯状平行投影地形断面図等を作成）をさせてより一層の理解を深めさせる。トレース紙・方眼紙・色鉛筆・黒インク等各人用意のこと。

人文地理学概説

高木久

地理学思想・歴史を述べ、人文地理学の方法論を考察する。「地理的な見方、考え方」の基礎の上において、人文地理学の各部門（地図、自然、人文関係）について概説し、人文地理学の理解と関心を深める。

社会学原論

渡辺源樹

“現実科学として社会学”の立場から、現代社会学の基礎理論の諸問題について体系的且つ具体的に論述するとともに、とりわけ準拠集団論に依拠しつつ、リーダーシップと凝集性・集団圧力、モラル、並びに社会規範と逸脱行動、アノミー、群衆と大衆等々についての解明に努める。

経済原論

小野俊夫

いわゆる近代経済学の立場から、近年の学問的成果をも考慮して、現代経済学の基本を解説し、複雑な現代経済を理解しうる力を養うことを目指す。

〔教科書〕 開講の際に指示する。

政治学原論

飯山 勇

本講義は、政治学の基礎理論的部分をとりあげ、その原理的究明に主眼を置いて講義を行なう。特に本講義では現代政治についての理解を深める意図から、現代国家と政治過程に力点を置き、そのなかで大衆社会と政治的諸問題、政治過程と政治集団などに触れつつ、さらに主として、政治権力、国家、政治機構などを解明する。

〔教科書〕 飯山 勇『政治学要論』（八千代出版）

民法 I

鶴井俊吉

本講義は民法のなかの財産法を対象とする。

財産法は、われわれ日常生活で最も密接に関係する法分野であり、その内容は、私有財産制の保持・活用のための法制度である。民法典のうち、総則・物権・債権編がこれに属するが、そのなかで、総則・物権に関する基礎的な解説を通じて、主要の原理・原則を理解できるように講義を進める予定である。

〔教科書〕 教場にて指示する。

哲学特講 I（東洋）

篠原寿雄

中国の哲学・東洋思想を理解しようとする、儒教・仏教、そして道教の学習は欠かせない。そこで前期は老荘の学と道教を学びたい。後期には墨子の非命、非儒などの精神が韓非子にいかにか受容されたかなどを中心に、先秦の人びとの心にあるものを探りたい。

〔教科書〕 その都度紹介したい。

哲学特講 II（西洋）

国嶋 一 則

人間は、何かを頼りとし支えとしなければ生きてゆけない。しかし日常、われわれは自己の人生の頼りとなり支えとなるものを自覚していない。それを自覚することは、自分がどのような生き方をしているのかを知ることである。つまり主義に拠り主張をもって生きることである。

歴史上の大きな主義を検討することによって、現代世界の有力な主義を明確にし、自己の持つべき主義を選択する手掛りとしたい。

〔参考書〕 その都度示す。

宗教学特講 I

松田文雄

——宗教思想および用語の概説——、特に教職単位であることを考慮し、宗教思想の潮流、および宗教思想史上の基本的用語を概説する。今年度は日本仏教を取り上げる。

〔教科書〕 プリント

〔参考書〕 随時指示する。

宗教学特講 II

脇本平也

——宗教現象の構造——宗教現象は、その内部にさまざまな構成要素をはらんだ複合的な体系をなしている。たとえば、宗教体験、思想・教義、儀礼、教団などの諸契機が構造的に関連しながらこれを形成している。そうした構造の分析と類型化を試みる。

〔教科書〕 脇本平也『宗教を語る—入門宗教学—』（日新出版）

宗教学特講 III

洗 建

現代社会における宗教の問題、とりわけ政教関係の問題をとりあげる。国家と宗教の関係を規定する法制度とその価値規範、更に底流をなす宗教文化との関係などについて考察する。

〔参考書〕 適時、指示する。

教育史

磯野昌蔵

わが国及び欧米諸国における青年期教育の発達を検討する。

宗教教育

櫻井秀雄

宗教教育の原理を究明し、できるだけ実証的な調査資料によって宗教意識をさぐり、これに対する具体的方法について考察し、家庭・学校・社会教育のそれぞれにおける宗教教育の意義と実際を研究する。

〔教科書〕 日本宗教学会編『現代青少年の宗教意識抄』

教育関係法規

木戸三子

教育関係諸法規（ことに教育基本法など）の歴史的成立やそれらの性格等を検討することを通し教育の本質と法との関係について考える。

〔参考書〕 『教育小六法』（学陽書房）

教育関係法規

船木正文

現代日本の教育法制度のしくみと内容及び教師にとって必要な教育法知識について、現実に生起するさまざまな教育問題を具体的に紹介・検討しながら、概観する。

〔教科書〕 牧木正名・平原春好編著『教育法入門』（学陽書房） ¥ 1,500

〔参考書〕 『解説教育六法』（昭和59年版）（三省堂） ¥ 2,000

図書館学Ⅰ

若林元典・山崎慶子

児童、生徒の学習活動や教養・趣味を豊かにするには教科書の他に各種の資料を必要とする。最も有効適切な

資料は何か、どうしたらそれらをすべての生徒に提供できるか、それらを利用する力を高めるにはどうしたらよいか、又人間形成に役立つ読書のあり方等の追求を学校図書館活動として考えて行きたい。

前期の講義内容は「学校図書館通論」と「学校図書館の管理と運用」で、後期は「学校図書館の利用指導」と「読書指導」である。

〔教科書〕 図書館教育研究会『学校図書館通論』（学芸図書）

図書館学Ⅱ

若林元典

小・中・高校における教育活動の肉付けとなる教材資料のうちで最も基本的な図書資料を主とし、それに図書以外の資料を加えて、各種資料の収集・整理・利用のために必要とされる知識・技能の修得を目指している。

整理は利用のための整理であり、利用の能率と効果は良質な資料の収集と適切な整理によって裏付けられる。したがって図書館学は収集・整理・管理・利用の全領域にわたる資料運用の学である。

「図書の分類」、「図書の目録」、「資料の選択」、「図書以外の資料の利用」が講義内容である。

〔教科書〕 図書館教育研究会『学校図書館通論』（学芸図書）

『図書館学演習資料 後編』（全国学校図書館協議会）

博物館学

倉田芳郎

学芸員課程の必修科目であり、社会教育主事課程の選択必修科目でもある。「博物館実習Ⅲ（見学）」ならびに「実習Ⅳ（特講）」と有機的に関連をもたせるので、同年度に併せて受講していただきたい。また、後期は午後いっぱい使って見学を行うことになるので、時間割を組むうえで、各自研究してもらいたい。なるべく2～3年生の時に受けておくことが望ましい。4年生で受けると、学芸員資格を卒業時に取得するのは難かしいかもしれない。本講義は博物館学の基本を講ずるので、この講義を聴くだけでは博物館を全く識るには程遠いのである。その点からいえば社教主事の資格を取得しようとする方は、なるべくは他の選択科目を受けていただきたい。4月第1週の時間に必ず出席すること。

博物館実習Ⅰ（館務）

倉田 芳郎・鶴丸 俊明

博物館で10日間学芸員について実習を行う。学芸員課程の必修科目である。この科目は学芸員課程の総仕上げでもあり、無条件に、誰でも履修できるわけではないので、年度第1週のこの科目の時間に必ず出席すること。欠席した場合は来年度履修することになる。

博物館実習Ⅱ（収集）

倉田 芳郎・葉貫 鷹哉
所 理喜夫・伊藤 玄三

学芸員課程の必修科目である。詳しくは、年度第1週の講義時間に話すので、必ず出席すること。実習の種類・時期は下記の予定である。このうちの、1つを履修すればよい。

1. 考古学発掘調査 7月中旬から8月中旬
2. 民俗調査 8月下旬と2月中旬
3. 文書・石仏調査 9月下旬
4. 石仏調査 10月上旬
5. 遺跡分布調査 2月中下旬

博物館実習Ⅲ（見学）

倉田 芳郎・狩野 千秋

学芸員課程の必修科目である。

都内および都周辺の博物館を見学する。博物館・学芸員の使命・役割を識るためには教室の講義だけでは不足である。そのため、現場で学芸員の方のご講義を承り、博物館運営上の諸問題について考えたい。実習は前期・後期のいずれかの半期行うのであるが、組分けを決定する関係上、今年度履修しようとする学生は、必ず4月第1週に出席すること。

博物館実習Ⅳ（特講）

石 井 則 孝

昭和58年3月国立歴史民俗博物館が、千葉県佐倉市に誕生した。最近における博物館建設ブームの頂点に立つものと注目されている。こういった環境の中で、今後いかなる博物館が建設されていくのか、公立の美術館建設が一段落した中で、過去の実績を評価することによって将来像を考えてみる。文化を、行政体では行政の文化化などと使い、博物館をその中心的存在として位置づけよ

うとしている。しかし、博物館を実際に運営するのは、学芸員そのものであり、その資質によってはいかようにも変化するのである。21世紀へ向けて、今後の博物館はどのように活用され市民に定着していくのか、首都圏の博物館の動向をさぐりながら、現実を考えていきたい。

視聴覚教育

赤 堀 正 宜

学校教育や社会教育における視聴覚教材の利用について考える。

学校教育番組や社会教育番組の利用は、教育方法・内容の革新につながり、教育工学の一部となっている。視聴覚教育の原理・具体的な利用方法、その教育的効果を明らかにしていく。

〔注〕 特別教科書は使用しない。

〔教科書・参考書〕 大内茂男・中野照海他編『視聴覚教育の理論と研究』（日本放送教育協会）

日本文化史Ⅱ

圭 室 文 雄

日本文化のなかで、とくに日本の宗教の問題についてとりあげることにしたい。ここでは古代から現代に至るさまざまな宗教について吟味を加えることにし、それぞれの時代の文化にどのような影響を与えたかを検討したいと思う。

〔教科書〕 『日本人の宗教の歩み』（大学教育社）

〔参考書〕 『神仏分離』（教育社新書）

西洋文化史Ⅰ

椽 川 一 朗

西洋都市史を、経済・社会構造・政治・文化の諸方面から概観する。

西洋文化史Ⅱ

阿 部 重 雄

ヨーロッパ文明の源流にさかのぼり、ギリシア古典文化、ヘレニズム文化、ローマ文化などの特色を探る。

〔教科書・参考書〕 その都度指示する。

仏教美術

林 良 一

仏教美術の図像学ならびに古代インド美術の様式的展開について講述する。寺院の遺跡や仏菩薩等の尊像を、原地撮影のカラー・スライドによって映写し、視覚的に理解を深めるように努める方針である。

現代美術

中山典夫

印象主義にはじまる現代美術の流れを、絵画作品を中心に、追ってゆく。講義にはスライドを用いる。

禅美術

竹内尚次

禅林美術は禅宗教団の形成展開にともなって自然に発生したもので、禅そのものとは明確に切断されなくてはならない。この禅林美術の本質を究めるために、上代仏教美術とくに平安初期に空海将来の密教美術と対比して考える。

なお、禅林美術の豊かな爛熟した開花と結実とを、その中心となる絵画作品群の主題を根底から分析することによって、そのなかに在る本質を解明する。具体的には国宝・重要文化財のうち、代表的なものを採りあげて、教材すなわち研究対象として、現時点におけるデータを手がかりとして、いっしょに考えてみる。

〔参考書〕 玉村竹二著『夢窓国師』（京都平楽寺書店）
同氏著『五山禅僧伝記集成』（至文閣）
竹内尚次著『近世禅林美術』（至文堂 日本美術シリーズ）

美術史概説

林 良 一

中国の魏晋南北朝より朝鮮の三国時代を経て、わが国の飛鳥・白鳳期の美術にいたる様式的展開について講述する。各地の寺院遺跡や遺品などのカラー・スライドを映写し、視覚的に理解を深めるように努める方針である。

西域美術史

林 良 一

西域美術、ことに仏教美術の東伝を中心として、各地遺跡および遺品について講述する。各地の遺跡や遺品のカラー・スライドを映写し、視覚的に理解を深めるように努める方針である。

〔参考書〕 林 良一『シルクロード』（美術出版社）

考古学概説Ⅰ（日本）

倉田芳郎

日本考古学研究の基礎的知識が身につくよう、講義するつもりである。年度第1週の授業には必ず出席してほしい。

考古学概説Ⅱ（外国）

飯島武次

『考古学ゼミナール』の講義を通じて世界考古学について講義を行なう。

〔教科書〕 江上波夫監修『考古学ゼミナール』（山川出版社、1976年、学生版） ¥ 2,800

考古学特講Ⅰ

飯島武次

WANG ZHONGSHU, "Han Civilization" の講義を行なう。

〔教科書〕 WANG ZHONGSHU, "Han Civilization," Yale University prss, 1982
¥ 12,800（コピー可）

考古学特講Ⅲ

狩野千秋

アメリカ大陸の古代文明のうち、とくにマヤ、アステカを対象として、それぞれの文化の生成過程と特質について考察する。

〔参考書〕 『マヤとアステカ』（近藤出版社）
¥ 3,500

日本民俗学

小島清志

前半は、柳田国男以来展開されてきた民俗学の学説史を概観し、何が問われ、どのような方法によってきたのかということ、いささかなりとも明らかにしたい。後半は奄美・沖縄におけるフィールドワークにもとづきながら、現代の民俗学の諸問題、特に民俗社会の変化、都市・農村問題について考察することとした。

〔参考書〕 講義の中で随時指示する。

仏教民俗学

和田謙寿

文化財の集いや郷土史研究会などに臨んだ時、必ず仏教文化的な知識が必要となってくる。また、葬式や法事などに出かけると必ず仏事などに関する質問を受けるものである。このような場合に対処できるように、冠婚葬祭のうち、特に葬祭の面に比重を置き、今年の講座を進めて行きたいと思う。なお、実地巡検や特殊ゼミを実施する場合もあるので、年額1～2万円位の費用を用意する必要があると思う。

〔教科書〕 和田謙寿著「仏教の発展—民俗学・歴史地理学的考察—」（仏教民俗学研究会発行）
¥ 2,900

宗教人類学

佐々木宏幹

日本・東アジア・東南アジア各地の諸社会に関する宗教人類学的な研究成果を取りあげ、検討する。宗教的観念と社会組織との関係や宗教儀礼の構造、社会—文化的意味についても考察する。テキストはその都度紹介する。

考古発掘実習

飯島武次

野外における発掘実習を行なう。夏休みの発掘実習に、20日間以上参加することが必要である。年度始めの講義時間に必ず出席のこと。

社会福祉概論

高橋重宏

近年、社会福祉は流行語の一つとなっているが、社会福祉とは何か？ということになると、その解釈は人さまさまで、その内容や課題についての一致した見解が、必ずしもあるとはいえない。

日常生活のなかでも「慈善」、「慈善事業」、「社会事業」、「社会福祉事業」、「社会福祉」、「福祉」、さらに「ソーシャル・ワーク」、「社会保障」などのことばを安易に混乱し使用している場合が多い。

本講義では、まず、これらの基礎的な概念の整理をすることから始めたい。ついで、社会福祉の歴史的展開過程、社会福祉のしくみ、分野などについて論及し、社会福祉の諸制度の現状と課題について、一応の体系的理解ができるようつとめたい。

〔教科書〕 高橋重宏・島村忠義編著『社会福祉を考える』（川島書店）

〔参考書〕 『社会福祉六法』（第一法規）

『現代社会福祉事典』（全国社会福祉協議会出版部）

なおその他の参考文献については図書館発行の『読書案内』（昭和59年版）を参照してほしい。

障害福祉論

原田信一

主として、わが国における心身障害児(者)福祉の発展過程をその淵源にさかのぼりつつ講じたい。なかでも、とくに、思想面（社会的規範）と政策面等の二面的視角にたち、その原点を探るとともに、さらに欧米先進国のそれとの対比から、わが国の心身障害福祉の見直しをほかり、新たな課題構築の素としてもらう。

〔教科書〕 星野他編『障害福祉論』（第二版）（有斐閣）

〔参考書〕 林邦雄他『心身障害児(者)福祉』（田研出版）

社会福祉実習Ⅰ

原田信一

これまで自らが、大学の場において学びとってきた福祉学という学問を、実習現場において、実際の福祉従事体験等を通してそこにかなる相反や矛盾面があるかなどの現実認識を深めながら、福祉の本質の一端を学びと

ってもらふ。一方、大学においては、実習前に、オリエンテーション、現業機関の組織、機能等を実践に即した概説などをトータルの指導し、さらに実習後においては、反省・討議を行う予定である。また、実習にのぞむにさいしては、各自が、実習の目的を適確にとらえ、何をとくに実習するかの問題意識を整理し実習にのぞんでもらうことについては今更言うまでもないことである。

〔教科書〕 橋本泰子他編『社会福祉実習』（相川書房）

社会福祉法制

小林 弘 人

本講義は、憲法25条を具体化する社会保障社会福祉に関する法を検討・整理・体系化することを目的とする。前期の前半は、『社会学研究』15号所収の「西ドイツにおける社会行政法」を資料にして、主として西ドイツにおける社会福祉に関する法の問題点を検討する。この検討を終えた後は、教科書『社会事業法制』に準拠して、当初の目的達成のための講義を行う。

〔教科書〕 小川政亮『社会事業法制』（ミネルヴァ書房）

公的扶助論

小 沼 正

公的扶助は、社会保障とくに所得保障において、社会保険と並ぶ主要な部門であり、貧困救済の最後の安全網 Safety net といわれる。わが国では生活保護制度によって代表される。

生活保護について、欧米諸国を念頭において、歴史的生成過程とそのもつ問題点——貧困と最低生活保障、最低生活水準とその算定方法、保護率、受給者の権利意識その他、および将来の方向などを取上げる。

これらの諸問題は、ひろく社会保障そのものをも規定する基本的条件である。

〔教科書〕 小沼 正著『貧困—その測定と生活保護—』〔第二版〕（東京大学出版会）

〔参考書〕 籠山 京著『公的扶助論』（光生館）
仲村優一著『生活保護への提言』（全社協選書）

児童福祉論

原 田 信 一

今日、児童をめぐる法律・制度は整備され、社会福祉分野においても、いちじるしい進歩をみた。しかし、現実面では必ずしもそうとばかりはいいきれない。つま

り、日々、目まぐるしく激動する社会で、引切り無しに生起する種々の児童福祉侵害問題に対応しきれない状態が今日の姿である。児童の人権無視にはじまり、公害・家庭崩壊・機能低下など限りなく現出し、まさしく児童福祉の危機的様相をみせている。そこで、本講においては、児童福祉を広い視座から考察し、児童への理解と併せて、児童に関連ある法制度にも言及しさらに、狭義の児童福祉事業にもふれ講じてゆきたい。

〔教科書〕 原田信一『現代児童福祉学』

〔参考書〕 高橋重宏編『児童福祉を考える』

老人福祉論

奥 山 正 司

I 老後・老人問題の背景

1. 人口の高齢化
2. 老人と家族
3. 老人の経済状況と職業
4. 老人の身体的、精神的障害

II 老人福祉対策の現状と課題

1. 施設福祉対策の課題
2. 在宅福祉対策の課題
3. 老人に対する処遇

社会保障概論

小 沼 正

先ずわが国制度の現実を把握するため、その主要な所得保障（年金保険、公的扶助、児童手当など）、医療保障その他について概観し、それぞれの問題点を取上げる。

ついでこれらをふまえて、その生成と発展に視点をおいて、欧米諸国をも含めて、社会保障の体系、社会経済的条件、財政、国際比較などについて、論点を進める。

〔教科書〕 小沼正・地主重美・保坂哲哉編『社会保障概論』（川島書店）

〔参考書〕 地主重美編『社会保障読本』（新版）（東洋経済新報社）

社会保障研究所編『社会保障の基本問題』（東京大学出版会）

福武 直著『社会保障論断章』（東京大学出版会）

地域福祉論

岡田 真

「地域住民に“根廻し”をするにはどうすべきか」を中心に論ずる授業である。“根廻し”はなぜ施さなければならないのだろうか。それは、ケースワークやグループワークを、現実の住民生活のなかに定着させるためである。

「ワーカーは福祉三大技術を総合的に駆使しなければならない」(integration)と言われるが、その具体的な意味は、上記の通りである。その点で本講は「方法総論」、「ケースワーク論」、「グループワーク論」と補完関係にたつものである。

①地域福祉の基本課題。②コミュニティ・ケア。③コミュニティ・オーガニゼーションが、本講の内容であるが、第①のテーマはそのまま地域問題論である。従って、同じ担当者の都市社会学を、ともに知ることが望ましい。(もちろん本講だけを履修する人に不利や理解困難が生じないように細心の工夫はするが)

〔教科書〕 岡田真『コミュニティ・ワーク論』(大明堂)

〔参考書〕 岡田 真『都市化日本の学歴社会』(大明堂)

小沼 正『日本の福祉の課題と展望』、『日本都市学会年報』(1983),『駒大文学部研究紀要』(1981),『駒沢社会学研究』(1982)の岡田論文。

ケースワーク論

高橋 重宏

ソーシャル・ワーク実践の専門技術の一つであるソーシャル・ケースワークについて、まず、ケースワークの意義、定義、歴史的展開過程、原理、トリートメント過程、関連理論などについて論及する。さらに、ケースワークの臨床事例を紹介し、ソーシャル・ケースワークとは何かを体系的に理解できるようにつとめた。

なお、後期の臨床事例研究では、小グループでのディスカッション、発表など、学生の主体的参加を求めるので留意しておくこと。

さらに、講義を効果的に展開するために『社会福祉方法総論』の単位を修得した学生の履修を原則とする。

〔教科書〕 久保紘章・高橋重宏編著『ケースワークを考える』(川島書店)

〔参考書〕 必要に応じ指示する。

グループワーク論

松本 栄二

社会福祉実践の方法としてのグループワークについて具体的実例を用いて解説する。そのなかで、グループ活動との相異点から更らに Social work with group の立場をとる理論についての説明も行う予定。受講者は、ボランティア活動であるとか、何らかの福祉分野における経験をもっていることが望ましい。

授業方法は出来るだけ講義はさげ、(前期の暫らくはやむを得ないが)、受講者による報告やバズ、セッションなどを操り入れたものでやる予定、実例は適時配布する(実費徴収)。

社会福祉事業発達史

林 千代

社会事業は、近代社会がスタートするにつれて生成したと考えられている。もちろん、いつの時代にも、生活の不安は自然の変化と社会の変動によって生み出されてきたといえる。社会の変動期には、常に多くの問題が生じ人々は生活困難におちいった。こんにちの社会福祉事業、社会福祉、社会保障、福祉国家に至るプロセスは長く、かつ遠かった。外国、特に英国そして日本にわけて、対象の存在と問題解決の方法、方法の意図や施策の背景をなす社会福祉の思想等々を中心に講義していきたい。一定の歴史的産物である社会福祉その本質は何か、その現状は等々を考えるためにこそ、歴史を学ぶ意義がある。

〔教科書〕 未定

〔参考書〕 その都度紹介していく。

母子福祉論

林 千代

私は、婦人問題の視点から婦人福祉を組立てているがそれは、性差別を根底に婦人の生存や生活が不安定化する局面、その解決へのプロセス、施策が主な内容になる。そして、婦人の生存さえあやぶまれる状況の一つが母子家庭になった時なのである。これらは、いわば婦人問題の集約であり、福祉施策の最も具体的な対応がせまられる。このような問題意識に立って、講義のあらすじを示すと次のようになる。1. 母子家庭とは(法的規定生成要因など)、2. 母子家庭の生活実態とその困難(所得、消費生活、家事機能、住宅等)、3. 母子家庭の生活問題に対応する母子福祉施策(経済的負担に対し

て、育児、病気、住宅について、母子寮についてなど)

〔教科書〕 特になし。

〔参考書〕 その都度紹介していく。

医療社会事業論

春見 静子

英国、アメリカ、日本における医療社会事業の発達、医療社会事業の分野とその特色(病院、保健所、社会福祉施設)をふまえて、医療社会事業の方法、すなわち患者とどうかかわるかという具体的な問題をバーガーの手引書に従って検討し考察する。

〔教科書〕 ミルトン・M・バーガー『病むということ』(星和書店)

〔参考書〕 中島さつき『医療社会事業』(誠信書房)

社会福祉方法総論

高橋 重宏

社会福祉実践の専門技術の基礎について学ぶことが中心となる。

具体的には、ソーシャル・ワークの基礎知識及び関連理論、歴史的展開過程、現代社会におけるその独自の社会的機能を明確化させつつ、ソーシャル・ワークについての入門的解説を中心に展開したい。

さらに、事例を用いながら、ソーシャル・ワーカーになるための基礎理解を深め、ソーシャル・ワーカーとしての基本的姿勢についても追究する。

〔教科書〕 高橋重宏・宮崎俊策・定藤丈弘編著『ソーシャル・ワークを考える』(川島書店)

〔参考書〕 必要に応じ指示する。

社会福祉管理運営論

重田 信一

社会福祉の実践を推進するには、社会福祉の制度を整えるとともに、その制度を効果的に運営するための福祉専門性の関連を問題にしなければならない。その手段・方法を地域ぐるみ、施設ぐるみの形態を通して展開するが、その効果をたかめるには、いかなる配慮が必要かもあわせ検討する。講義を福祉経験の浅い学生にも理解しやすいよう事例を引用して説明する。特に社会福祉行政、社会福祉実践に関心のたかい学生を歓迎する。

〔教科書・参考書〕 開講時に指示する。

リハビリテーション論

原田 信一

リハビリテーション領域のなかで、いちじるしく遅れをみせているのが、社会リハビリテーションであるといわれている。この分野は、内蔵する問題が広汎・多岐に亘っているばかりか、いずれも、困難な問題を抱えていることが、いちじるしい遅滞をもたらす原因につながっているといわれている。そこで本年はとくに、社会リハビリテーションに視点を絞り、その基本問題をふまえながら、社会・文化的環境を考察し、政策と実践の方法論、それらを支える隣接科学面ならびに、リハビリテーションの国際的展望等について概説したい。

〔教科書〕 講義ノートによる。

〔参考書〕 随時指示する。

社会教育概論

磯野 昌蔵

- 社会教育制度と法
- 学校教育と社会教育
- 社会教育関係団体

社会教育方法論

磯野 昌蔵

社会教育の諸形態と施設について検討する。

社会教育行政財政

酒匂 一雄

社会教育行政は、施設の設置・運営、集会の開催、資料の作製その他の方法で、「すべての国民があらゆる機会、あらゆる場所を利用して、自ら實際生活に即する文化的教養を高め得るような環境を醸成するように努める」ことを課題としている。

この視点から、①社会教育の本質と社会教育行政、②わが国の戦前の社会教育行政、③戦後の社会教育行政の理念と制度——法制・施設・職員など——、④経済政策

と社会教育政策, ⑤住民と社会教育行政, ⑥社会教育の民主化, ⑦社会教育行政の動向と課題などを講義する。

〔教科書〕 必要によりプリントを用意する。

〔参考書〕 小林文人他『社会教育ハンドブック(改訂版)』(エイデル研究所)

『社会教育行政必携』〔58年版〕(第一法規)

教育社会学

村山輝吉

人間の発達というテーマを、主として社会環境と文化の変容という観点から考察する。

1. 教育社会学の性格
2. 家族の訓育機能
3. 仲間集団と人間形成
4. 学校の陶冶・形成機能
5. 地域社会と教育
6. 文化の変容と子どもの発達

社会心理学

坪井健

本講義は、社会心理学をめぐる諸問題に配慮しつつ、基本的には社会生活をしている人々の社会心理諸現象を、これまでの社会心理学が明らかにしてきた知見に依拠して、その社会的過程と心理的過程を分析的に解明することを目的とする。

〔教科書〕 講義の中で指示する。

社会教育施設

村山輝吉

1. 社会教育施設とはなにか
2. 社会教育施設の歴史と現状
 - (1) 日本 (2) 外国
3. 関係法規等
4. 施設各論
 - (1) 公民館 (2) 図書館 (3) 博物館
 - (4) その他
5. 施設職員の問題

児童教化

富田博之

「児童教化」の現代的形態としての〈子ども文化(児童文化)〉の成立過程(歴史)と現状を探り、併せて〈子ども文化〉の現場で働く人のための実習を行なう。

〈子ども文化〉の歴史では、主として、子どものためのコミュニケーション・メディアの発達史を扱い、その現状では、主として、子どものためのマス・コミの状況について学習する。

実習は、〈子ども文化〉の活動家にとって必須な、身体とことばによる表現とコミュニケーションの方法の初歩を学習する。

〔参考書〕 ホグベン著・寿岳文章他訳『洞窟絵画から連載漫画へ』(岩波文庫) ¥ 450
富田博之『学校文化活動論』(明治図書) ¥ 2,000

青少年問題研究

和田謙寿

中学校や高等学校の教師をめざす者。または、青少年の指導者を志す人を対象とし、理論と現実の両者をつめつつ講義を行いたい。特に学校の教師になる場合は、専攻した学科は当然の事、受持クラスの生活指導にも大きな比重をかけて尽くさねばならぬ。その点に深く留意して授業をすすめる事にする。(特に少年の問題に興味のある者は、青少年問題研究室の研修生として入室されるのも一方法であろう。)家庭内暴力・校内暴力・暴走族・薬物乱用など、種々社会問題としてとりあげられているが、これらの問題も時間の許す限り取組みたいと思っている。教科書は考慮中。

青少年指導演習

和田謙寿

国や地方公共団体が年々増加する青少年の非行化に対応して万全の策を尽しているが焼石に水の現状である。この種の問題は理論だけで済まされるものでなく、現実面からの考察が必要である。将来、少年補導員や青少年指導員、民生委員(児童委員)社会教育主事や福祉主事、生活指導教諭等に從事しようと希望する人々には是非とも必要な講座である。最近の新聞報道によれば現在の学校教師や福祉主事の仕事を果すためには、青少年の非行化は正指導に通じていなければ用をなさないと言われている。この線にそって、少年補導学、ケース・ワークを中心に進めて行きたい。

社会教育演習

上岡安彦

秋期に埼玉県川口市内の公民館、図書館、児童文化センター、幼児会館、青少年会館、婦人会館等で一週間の社会教育実習を行ないます。

実習前は、社会教育実践記録として『成人教育への挑戦』を読み、実習後はマクロの視点から『生涯教育』を読みます。

〔教科書〕 永田良行『成人教育への挑戦』（全日本社会教育連合会） ¥ 750
エッソーレ・ジェルピ・前平泰志訳『生涯教育』（東京創元社） ¥ 1,500

教育評価

大浜幾久子

生徒の発達を正しく測定し、評価することは、本来、教師の教育実践の中で重要な仕事である。教師は、評価を通して、生徒のつまづきを発見し、自らの実践を反省する。また生徒も、評価を手がかりとして、以後の自分の学習の方向を考える。ところが、教育評価ということばから多くの人々がまず思い浮かべるのは、学力テスト・偏差値・通信簿・内申書等であり、これらは、大多数の父母・教師そして生徒にとって、今日の学校教育の矛盾の象徴として映っている。では、教育評価の本来の機能をとりもどすにはどうしたらよいのだろうか。教育評価の理論の歴史をたどり、また教育測定・評価の技法を実習を含めて学ぶことにより、この問題を考えていく。

〔参考書〕 梶田毅一『教育評価』（有斐閣双書） ¥ 1,800
中内敏夫・三井大相編『これからの教育評価』（有斐閣選書） ¥ 1,400

教育法規研究

神田修

教育と法（規）とのかかわりや、そのあるべき関係などを学ぶことは、現代においては教育問題を考えたり、教育をよくしていくために欠かせないことである。

教育と法（規）とのかかわり、その意義、教育法（規）の原理と歴史、さらに教育法（規）に関する個別的問題について、できるだけ内外の具体的事例を通じて学習することにした。

〔参考書〕 『解説教育六法』（三省堂） ¥ 2,000
『史料日本の教育』（学陽書房） ¥ 2,200
『教育法規事典』（北樹出版） ¥ 1,800

成人指導及青少年指導

酒匂一雄

子どもの発達と家庭・地域の教育を中心に講義する。
①現代教育にとって、青少年の発達にとって、家庭・地域はどういう意義をもつのか。②地域の子育ての習俗、戦前の少年団体の歴史を概観。③現代の子どもの生活構造の変容、学校外教育の動向、“地域の教育力”の内容を把握。④地域の子どもをめぐる国の政策。⑤地域の教育と社会教育行政、児童館や学童保育の現状、学校と地域の連携協力とそこでの「指導」のあり方などを考察する。⑥あわせて、成人の発達と学習方法を概観し、「指導」の種々相を吟味する。

〔教科書〕 必要によりプリントを用意する。

生活指導

秋山さと子

現代のおとなたちが、おとなの合理的な考えで、子どもたちへの対策を考えれば考えるほど、結果は逆になるような気がします。

想像力も育てずに自立させられてしまう子どもたちは、自分の不満や抑圧された本能的衝動の結果を、既存の学問の理論を借りて説明し、その解釈ですべてを割り切って、その中に逃げこみ、実際に自分の心に問い直すことをしていないのではないのでしょうか。

〔教科書〕 秋山さと子『ユング心理学』（講談社現代新書） ¥ 420

教育哲学

汐見稔幸

この授業は、少人数のゼミ形式をとりながら、教育とはなにかとか、人間が発達するとはどういうことかなどについて、じっくりと考えあうことをねらいとしています。ですから参加者は、上記のような問題を一度徹底して考えてみようと思っている人に限定したいと思えます。テキストとして、一応ルソーの『エミール』を考えていますが、参加者の希望によって変更もありません。そのテキストをどう読むのかを毎回報告していただいで、討議するというスタイルで進めたいと思います。詳細は第一回目の授業で決めます。

教育調査

大塚雄作

教師は、生徒の学習状況をはじめ、さまざまな観点から生徒に関する情報を収集する必要に迫られる。そればかりか、教師自身や、一方、学級・学校に関しても、いろいろと知りたいことが出てくるであろう。そこで、ここでは、教育実践の中でしばしば直面すると思われる具体的な場面で、どのような情報の収集を行えばよいかを考察してみる。特に、テストやアンケート調査等については、それらを実際に作成・施行・分析してみることによって、体験的に問題点を掘り下げるつもりである。

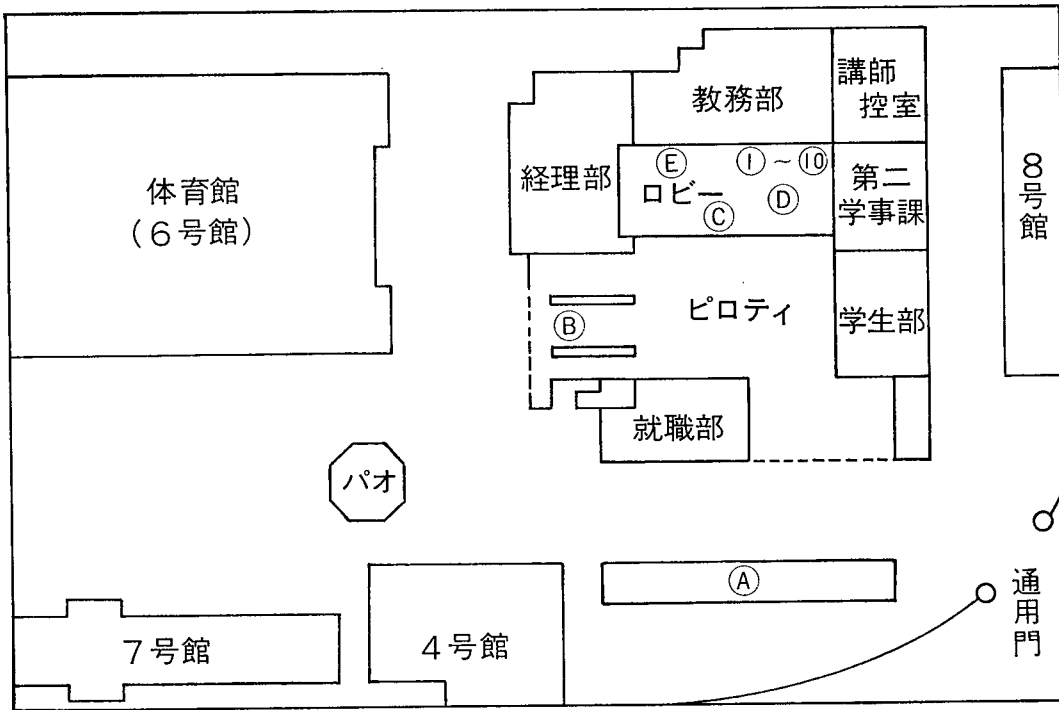
〔教科書〕 特に指定しない。

〔参考書〕 池田 央『調査と測定』（新曜社）

¥ 2,800

塩見邦雄他『心理検査・測定ガイドブック』（ナカニシヤ出版） ¥ 2,500

教務部窓口及び掲示板案内



- ①教職課程
学校図書館司書教諭講座
- ②博物館学講座
社会福祉主事講座
社会教育主事講座
- ④証明書(教務関係)申込受付・発行
(健康診断書および
在学証明書は学生部)
諸証明書申込用紙は経理部前にあります。

- ⑤諸届願 (休学・退学・復学・死亡
改氏名・本籍地変更・保証人変更
保証人住所変更・聴講)
- ⑥大学院関係・留学生関係
学部演習 (仏教学部・経済学部)
法学部・経営学部
卒業論文(仏教学部・文学部)
- ⑦時間割変更・休講・外国語指定届
卒業証書・転部科
- ⑨履修・試験・成績・学業相談

-
- ④第1掲示板(表面)……………公示・告示, 学生部関係連絡事項, 教務部関係(試験・教職・研究室等)連絡事項, その他
 - 第2掲示板(裏面)—臨時掲示板—
……………教務部関係連絡事項(12月~3月), 就職部関係連絡事項(9月~11月)
 - ④第3掲示板—臨時掲示板—
……………教務部関係連絡事項(12月~3月), 就職部関係連絡事項(9月~11月)
 - ◎休講掲示板
 - ④授業時間表カウンター
 - ◎大学院・留学生関係掲示板

